

新潟市文化財センター年報

第4号

—平成27（2015）年度版—

2017

新潟市文化財センター

新潟市文化財センター年報

第4号

—平成27（2015）年度版—



秋葉区 史跡古津八幡山遺跡（北東から）

2017

新潟市文化財センター

新潟市文化財センター

【設 置】

新潟市文化財センターは、埋蔵文化財及び有形民俗文化財を保存し、活用を図ることにより、これらに対する市民の関心及び理解を深め、もって市民文化の向上に資するため、『地方教育行政の組織及び運営に関する法律』第30条の規定に基づき設置された教育機関です。

【事 業】

- ① 埋蔵文化財の調査及び研究に関すること。
- ② 発掘調査等により出土した考古資料の収集及び保存並びに公開その他の活用に関すること。
- ③ 有形民俗文化財の保存及び活用に関すること。

新潟市内には旧石器時代から江戸時代に至る700か所以上の遺跡が知られています。平成17（2005）年の14市町村による広域合併後の各種開発事業等の増加に伴い、発掘調査も増加の一途をたどり、新たに発見される遺跡も年々増加しています。また、それらに伴う出土遺物や記録類も増えています。

文化財センターは各種開発事業や史跡整備等に伴う発掘調査を行い、埋蔵文化財の調査研究・収蔵保管・展示活用を進めていくために平成23（2011）年7月にオープンしました。

文化財センターには、民俗資料収蔵庫も併設されており、併せて市指定文化財の旧武田家住宅を移築復元しています。



市指定文化財旧武田家住宅及び畜動舎外観

例 言

- ・本書は、文化スポーツ部新潟市文化財センター（以下「文化財センター」）及び歴史文化課埋蔵文化財担当（以下「埋蔵文化財担当」）の主に埋蔵文化財に係わる平成27年度の業務年報である。Ⅰに新潟市の埋蔵文化財保護行政の概要、Ⅱに各種開発事業に伴う埋蔵文化財に係る事前審査、Ⅲに文化財センター業務年報、Ⅳに新潟市古津八幡山遺跡歴史の広場（以下「古津八幡山遺跡歴史の広場」）業務年報、Ⅴに資料紹介や研究ノート等の研究活動について収録している。
- ・『新潟市文化財センター年報』（以下「年報」）は平成25年から刊行され、本書は第4号にあたる。文化財センター開館までの新潟市の埋蔵文化財行政の概要及び経緯、文化財センターの概要については、第1号〔渡邊・八藤後ほか2014〕に記載されている。
- ・本書は文化財センター・埋蔵文化財担当職員が分担執筆した。執筆者の氏名は各文章の末尾に記載した。なお、全体の統一をはかるために内容が変わらない範囲で編集者が字句の修正を行った。Ⅴについては研究論文の側面があるため、編集は書式等の統一に止め、極力修正を行っていない。
- ・引用・参考文献は巻末にまとめて掲載しているが、Ⅴについては先述の理由により各節の末尾に記載している。
- ・本書に記載されている施設名及び所属等については、本書刊行当時のものである。
- ・Ⅱ2、Ⅲ2の試掘・確認調査、本発掘調査、工事立会は主要なもののみを掲載した。
- ・Ⅱ2、Ⅲ2の各概要の図1「調査地点の位置」は、国土基本図（2,500分の1）を使用しており、縮尺は10,000分の1、または15,000分の1（Ⅱ2(5)・(7)）で掲載した。地図の上位が北である。
- ・図・表番号は、各章毎に1から付けている。しかし、Ⅱ2、Ⅲ2は項（概要）毎に、Ⅴは節毎に番号を付けている。
- ・掲載遺物の実測・トレース等は文化財センターで行った。
- ・本書の編集は金田拓也・八藤後智人が行った。

目 次

Ⅰ 新潟市の埋蔵文化財保護行政について	1
Ⅱ 開発事前審査	2
1 事前審査内容	2
2 平成27年度の事前審査に係る試掘・確認調査及び工事立会の概要	7
Ⅲ 新潟市文化財センターの事業	21
1 本発掘調査の概要	21
2 平成27年度の本発掘調査	22
3 整理作業の概要	26
4 資料の収蔵・保管	27
5 資料の公開・展示	28
6 教育普及活動	34
7 保存処理	39
8 新潟市文化財センター運営協議会	40
9 決算額	40
Ⅳ 新潟市古津八幡山遺跡歴史の広場	41
1 資料の公開・展示	41
2 教育普及活動	51
3 古津八幡山古墳復元整備の概要	53
Ⅴ 研究活動－資料紹介・研究ノート等－	54
1 新潟市文化財センターの来館者数から見た現状と課題	54
2 チューブ・デコレーション技法の再現実験 －縄文時代前期終末土器に見られる環状浮線文の施文法について－	56
3 西蒲区大沢遺跡の縄文時代遺物	62
引用・参考文献	65
付録（各表）	66

I 新潟市の埋蔵文化財保護行政について

概 要 新潟市では、「文化財に関する事項」は行政組織規則により市長部局の歴史文化課が主に補助執行している。そのうち埋蔵文化財については、歴史文化課及び文化財センターが所管している。

事務分掌としては、開発事前審査、試掘・確認調査、工事立会、古津八幡山遺跡を除く史跡管理を歴史文化課が、本発掘調査、保存処理、収蔵・保管、展示・活用、史跡古津八幡山遺跡の保存・活用等を文化財センターが行っている。

開発事前審査 開発事前審査では、民間開発や公共工事に対する事前協議を行い、『新潟市試掘確認調査基準』（平成19年4月1日施行）に基づいて試掘・確認調査の要否を判断している。また、本市は政令指定都市のため、『文化財保護法』（以下「『法』」）第93条及び第96条に基づく事務については、新潟市教育委員会が『新潟市埋蔵文化財取扱要綱』（平成19年4月1日施行）に基づいて『法』に伴う指示を行っている。

本発掘調査 本発掘調査は、民間や国・県などの原因者から新潟市が受託して「埋蔵文化財本格発掘調査事業」として実施している。また、本市が原因者の場合は関係各部署からの依頼を受託し、同様に実施している。

平成27年度の埋蔵文化財本発掘調査と整理作業に係る事業費は表1の通りである。内容に本発掘調査と表示されているものが、今年度にも本発掘調査を実施した事業である。また、本発掘調査と表示されていないものは、前年度以前にも本発掘調査が行われた事業である。

埋蔵文化財 新潟市内には、埋蔵文化財包蔵地が、736か所存在する（平成28年3月31日時点）。平成27年度は、試掘調査による新発見遺跡が5か所、近世新潟町跡（近世新潟町跡の取扱いは『年報』1号〔渡邊2014a〕に記載）の周知化地点が3か所ある。今後も試掘調査等による増加が見込まれる。

新潟市で近隣市町村との合併（平成17年度）が行われてから平成27年度までの新発見遺跡数は表2の通りである。11年間で60遺跡が新たに見つかり、平均すると1年間で5遺跡程度見つかったことになる。

各区では江南区・秋葉区・西蒲区で多く遺跡が見つかり、これは新潟市に所在する遺跡の分布傾向とも一致している。しかし、この11年間でどの区からも遺跡が見つかったことから、分布密度の偏りは存在するが新潟市全域に未発見の遺跡が存在する可能性はあり、

今後も試掘調査を継続して実施し、埋蔵文化財の保護に取り組んでいく必要がある。

各区の新発見遺跡数の偏りは、各区の開発事業数に大きく左右されている。その中で、遺跡の多くは砂丘上や丘陵上、自然堤防等の微高地で発見される傾向がある。このような遺跡が存在する可能性が高い地形では、密な範囲での確認が必要である。しかし、中には沖積地の埋没自然堤防等の現在の地形では当時の地形が分からない場所もあるため、広い範囲でもある程度狭い間隔で確認していくことも重要となってくる。（金田拓也）

表1 平成27年度本発掘調査・整理作業事業費一覧

調査番号	原因者	事業名	遺跡名	内容	事業費 (円)	調査面積 (㎡)	担当	
2015001	民間	舟戸遺跡 発掘調査事業	舟戸 遺跡	本発掘調査 整理作業	16,580,000	905.7	金田拓也	
2015002	県地域 振興局	両新地区は場整備 発掘調査事業	細池寺道上 遺跡	本発掘調査 整理作業	356,832,000	8,712.9	立木宏明	
2014001				整理作業				
2010003				整理作業 報告書刊行				
2011005			西江浦 遺跡					
2012006								
2013004								
2012005								
2015003	県地域 振興局	巻東町地区は場整備 発掘調査事業	島瀬瀬 遺跡	本発掘調査 整理作業	11,700,000	59.9	遠藤恭雄	
2005002	県地域 振興局	満日地区は場整備 発掘調査事業	沖ノ羽 遺跡	整理作業 報告書刊行	9,300,000	-	遠藤恭雄	
2006005				整理作業				
2007004			中谷内 遺跡	整理作業 報告書刊行				
2008002								
2009004			内野 遺跡					
2011002								
2012004								
2011003								
2012003								
2009002	新潟市	大沢谷内遺跡 発掘調査事業	大沢谷内 遺跡	整理作業	20,000,000	-	相田泰臣	
2010002								
2011006								
2013003	新潟市	峰岡上町遺跡 発掘調査事業	峰岡上町 遺跡	整理作業 報告書刊行	1,400,000	-	前山精明	
2013005	県地域 振興局	道上地区は場整備 発掘調査事業	下新田 遺跡	整理作業	2,500,000	-	龍田優子	
2013006								
合 計					418,312,000	9,678.5	-	

表2 新発見遺跡数（平成17～27年度）

年 度 (平成)	区 名								小 計
	北 区	東 区	中央区	江南区	秋葉区	南 区	西 区	西蒲区	
17	0	0	1	3	3	0	0	3	10
18	2	0	0	2	1	0	0	2	7
19	1	0	0	1	2	0	1	5	10
20	0	0	0	0	1	1	0	3	5
21	0	0	0	0	0	0	0	2	2
22	0	0	0	0	0	0	0	2	2
23	0	0	0	0	0	0	0	3	3
24	0	0	0	2	1	0	0	1	4
25	1	1	0	2	0	0	0	1	5
26	0	1	0	2	2	0	1	1	7
27	1	0	0	2	1	0	0	1	5
合 計	5	2	1	14	11	1	2	24	60

※中央区の近世新潟町跡が毎年数地点周知化されているが、表には含めていない。

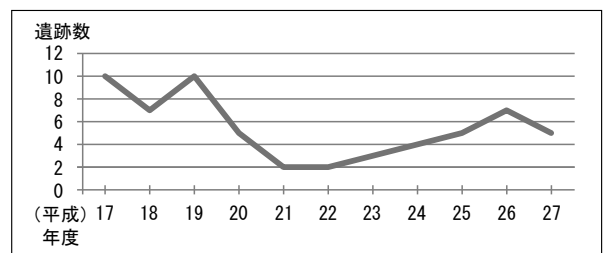


図1 新発見遺跡数の推移（平成17～27年度）

II 開発事前審査

1 事前審査内容

事前審査の概要については既刊の『年報』〔廣野2014など〕に記載されている。これまでの記載に則して、平成27年度の前審査内容を述べる。

(1) 開発事前審査

概 要 貴重な国民共有の歴史的財産である遺跡（埋蔵文化財包蔵地）を将来にわたり適切に保護していく必要がある。そのためには、開発事業やその他の行為等に伴う掘削またはその他の要因によって遺跡が何らかの対処が行われずに破壊されないための十分な措置を講じなければならない。そこで、『法』第93条及び第94条によって、開発事業等に伴う掘削等については事前の届出・通知が事業者には義務付けられている。『法』に則り実際に行っていく上では、事業の計画段階から試掘・確認調査を実施し、その結果を踏まえて事業内容の調整を行う等、長期の期間が必要となることが多い。そのため、可能な限り早期から事前協議を行うよう努めている。

そこで、新潟市では土木工事等の事業について、公共・民間の別を問わず全て事前審査を行い、必要なものについて事前協議の対象としている。

具体的な審査等の進め方についてはさまざまな形態の事業があり、具体的な進め方も異なるため、公共事業と民間事業に大きく分けて述べる。

公 共 事 業 国や県の機関が実施する土木事業については、毎年12月に新潟県教育庁文化行政課が一括して関係機関に照会し、得られたデータを新潟県の各市町村に提供することで、審査及び事業者との協議を依頼している。

新潟市が実施する事業については、毎年3月に庁内全部署へ照会をかけ、その回答を基に協議している。全ての市事業を収拾するため、審査件数が数百件と膨大になり、短期間での審査・協議が困難となっている。事業主体からも自発的に歴史文化課へ協議するよう各種の機会をとらえて声掛けを行っている。

国・県事業や市事業のいずれも年に1度の照会で把握しているため、年度途中で突発的に行われる小規模事業を把握できない場合がある。このような事業に対して事前協議を行っていくための把握方法が継続した課題であるが、現状で改善できていない。

民 間 事 業 民間事業の中で最も多い建築事業につ

いては、建築確認申請を提出する際、新潟市独自の施策として同申請書に「建築確認申請事前調査報告書」の添付を義務付けている（担当は建築部建築行政課）。その事前調査項目に「埋蔵文化財の有無」があることから、建築主は全ての案件について歴史文化課窓口へ照会して確認番号を取得する必要がある、その時点で遺跡に該当するかどうか把握できる仕組みとなっている（なお、公共の建築事業についても「計画通知」段階で同様の措置を取っている）。

開発行為については、各区の『開発審査協議会設置要領』に規定されている通り『都市計画法』第32条による事前協議書が各区役所建設課に提出された後、歴史文化課を含む庁内関係各課に意見照会されるため、全ての案件について取扱い方針の審査と協議を行っている。

また、新潟市では土木事業が農地内で行われることが多く、その時は事前に『農地法』に係る転用申請・届出が提出される。そのため、市内に存在する6か所の農業委員会事務局（北区・中央・秋葉区・南区・西区・西蒲区）に歴史文化課への情報提供を依頼し、全件について審査の上、取扱い方針を決定し、必要なものについて事業者と協議を行っている。

このように、民間事業者の行う各種開発等については、許認可事務を担当する庁内各課等と緊密に連携し、事前把握を行っている。

その他、不動産鑑定評価や土地売買検討時の事前調査に伴う遺跡の有無の照会も相当数にのぼっている。

しかし、試掘・確認調査結果を踏まえて協議を行うには日数が足りないことがあるため、各事業者が事前照会をより早い段階で自発的に行うよう、各種の機会をとらえて周知する等の声掛けを行っている。また、開発行為事前協議時の事前相談が開始された段階で、各区建設課から事業者に対し歴史文化課へも連絡を取るよう指導する対策が取られている。

さらに、事前照会にあたっては窓口対応の他、FAXを活用する等、遠隔地の事業者の負担を少なくし、随時照会が行えるよう工夫している。

平成27年度 国・県事業のうち、平成27年度の新潟市関連分は57件であった（表1）。平成26年度は49件のため8件の増加である。国事業が11件、県事業が46件である。国事業では取扱いが必要となったものはなかった。県事業では、圃場整備及び農道関係がほとんどで

あった。県事業中の8件は圃場整備事業に係る事業で、平成26年度から引き続き協議を行っている。事業実施に際し『法』第94条通知が行われている。

特に、秋葉区両新地区圃場整備が大きな割合を占めている。他にも、西蒲区内で複数の圃場整備事業が採択段階に上がってきており、採択された順に可能な限り試掘調査を実施した。計画中の事業地域が複数あり、各地域とも予定面積が広大であることから、今後も試掘・確認調査が大幅に増加する見込みである。

市事業の審査件数については、平成26年度の434件から827件と前年度比較約190%の増となっている。

主な内訳としては、水道関係145件（全体の約17.5%）、道路関係375件（同約45.3%）、下水道関係57件（同6.9%）、公共施設関係156件（同約18.9%）である。公共施設関係はほとんどが改修工事や設計であったため、遺跡に該当したり、試掘調査の協議を行う必要がなかった。傾向としては道路や農業基盤整備等の公共投資が伸びている。

民間事業に係る事前審査については表2に示した。平成26年度とほぼ同傾向であるが、案件毎の重複を除いた実数は7,526件（平成26年度7,591件に比して約1%減）であった。

内訳をみると、開発行為は約65%に減少（平成26年度の72件から47件）、農地転用は約72%に減少（同668件から481件）、建築確認申請に係る審査件数は約98%に減少（同4,261件から4,196件）した。

(2) 試掘・確認調査

概要 事前審査・協議において、周知遺跡となっており開発計画等の対象範囲で遺跡の詳細な内容が不明な場合は確認調査、遺跡の有無が不明であり事前に把握する必要があると判断した場合は試掘調査を実施している。経費は市の事業「市内遺跡範囲等確認調査事業」として公費から支出し、原則として事業者は一切の負担を要求していない。なお、事業費は国の補助（文化庁 補助割合50%）を受けている。

試掘調査については、公共事業はもちろん、民間事業の場合もほとんどは事業者の理解と協力を得て実施している。近年はほぼ全ての案件で承諾が得られている。

平成27年度 表3～5の通り、確認調査が32件、試掘調査が42件の計74件を実施した。平成26年度の件数と比較すると確認調査が2件増、試掘調査が5件の減となっており、平成26年度から件数では大きく変化していない。しかし、試掘・確認調査には道路建設や農業基盤整備事業等の1件あたりの事業規模（調査対象面積）が大規模なものもあり、1件あたりにかかる調査日数には差がある。平成27年度は農業基盤整備事業等の調査対象面

表1 平成27度公共事業事前審査事業主体別内訳

事業主体	件数	遺跡に該当	試掘調査の協議をしたもの	『法』94条通知
国	11	0	3	0
県	46	8	2	8
市	827	10	10	15
計	884	18	15	23

表2 平成27年度民間事業事前審査内訳

区 名	審査種別（件数）				審査・照会 件数	文書による 照会・回答	『法』93条 届出
	開発行為	農地転用	建築確認	窓口照会			
北 区	1	0	384	228	613	—	4
東 区	11	76	735	526	1,348	—	10
中央区	11	37	902	745	1,695	—	2
江南区	3	90	431	266	790	—	36
秋葉区	4	1	397	239	641	—	29
南 区	2	61	282	137	482	—	7
西 区	11	174	831	531	1,547	—	6
西蒲区	4	42	234	222	502	—	8
合 計	47	481	4,196	2,894	7,618	195	102
遺跡に該当	0	11	101	408	520	6	—
試掘調査の協議をしたもの	4	12	※	397	413	0	—

※建築確認のみの案件（個人住宅等）については周知遺跡の範囲に係るもののみ協議の対象としているため、原則として試掘調査は生じない。

表3 平成27年度試掘・確認調査、工事立会件数

試掘・確認調査、工事立会件数						
区 名	調査内容	事業者	件 数		埋蔵文化財 検出件数	割 合 (%)
北 区	確認調査	公 共	0	1	3	0
		民 間	1			
	試掘調査	公 共	1	2	3	1
		民 間	1			
東 区	工事立会	公 共	2		2	0
		民 間	0			
	確認調査	公 共	0	3	12	2
		民 間	3			
中央区	試掘調査	公 共	2	9	12	0
		民 間	7			
	工事立会	公 共	0		1	0
		民 間	1			
江南区	確認調査	公 共	0	0	8	—
		民 間	0			
	試掘調査	公 共	3	8	8	3
		民 間	5			
秋葉区	工事立会	公 共	2		5	3
		民 間	3			
	確認調査	公 共	1	9	15	5
		民 間	8			
南 区	試掘調査	公 共	1	6	11	2
		民 間	5			
	工事立会	公 共	0		11	1
		民 間	11			
西 区	確認調査	公 共	6	14	20	7
		民 間	8			
	試掘調査	公 共	3	6	8	1
		民 間	3			
西蒲区	工事立会	公 共	6		8	1
		民 間	2			
	確認調査	公 共	0	1	2	0
		民 間	1			
合計	試掘調査	公 共	0	1	2	0
		民 間	0			
	工事立会	公 共	0		0	—
		民 間	0			
西 区	確認調査	公 共	0	0	6	—
		民 間	0			
	試掘調査	公 共	6	6	8	2
		民 間	2			
西蒲区	工事立会	公 共	1	4	8	1
		民 間	1			
	確認調査	公 共	3	4	6	0
		民 間	1			
合計	試掘調査	公 共	9	32	74	16
		民 間	23			
	工事立会	公 共	11	42	35	8
		民 間	31			
合計	工事立会	公 共	12		35	5
		民 間	23			

表4 平成27年度試掘・確認調査、工事立会経費（委託費のみ 単位：千円）

調査内容	金額
試掘調査	17,152
確認調査	5,885
管内路査（工事立会）	1,325
その他	1,322

表5 平成27年度試掘・確認調査一覧（調査番号順）

調査番号	道跡名	調査種別	開発種別		調査地	種 別	道跡の時代	調査で 確認された時代	調査期間	調査 日数	調査面積 (調査対象面積) (㎡)	調査担当	検出土構	出土遺物	取扱い	備考
	事業者		内 容													
2015101	－	試掘調査	民間	個人住宅	西区 笠木字堤 3235番2 外	－	－	－	4/20	1	25.64 (1,107.86)	塚山えりか	なし	なし	取扱不要	
2015102	－	試掘調査	民間	太陽光発電	西南区 越前浜字下谷内 7616番 外	－	－	－	4/21	1	81.53 (19,175)	朝岡政康	なし	なし	取扱不要	
2015103	－	試掘調査	民間	幼稚園 運動場	西区 坂井字村上 912番1 外	－	－	－	4/24	1	39.96 (2,730)	朝岡政康	なし	なし	取扱不要	
2015104	平道跡 128	確認調査	民間	個人住宅	秋葉区 小口字塩沢 198番1	集落跡	縄文	－	5/7	1	4.62 (190.46)	朝岡政康	なし	なし	慎重工事	
2015105	山ノ家道跡 362	確認調査	民間	個人住宅	江南区 駒込一丁目 185番1	遺物 包含地	縄文・弥生・ 古墳・古代	弥生・古代・ 近世	5/8	1	12.88 (251.47)	朝岡政康	なし	弥生土器（弥生）、 土師器（古代）、 近世陶磁器（近世）	慎重工事	
2015106	(亀田道下 道跡) 768	試掘調査	公共 (市)	市道改良	秋葉区 萩曾根三丁目 172番3 外	遺物 包含地	古代	古代・近世	5/11・ 12	2	57.30 (2,023.7)	朝岡政康	土坑・ビット・ 溝（古代）、 溝・ビット（近世）	土師器・須恵器（古代）、 近世陶磁器（近世）	本発掘 調査	新発見道跡
2015107	－	試掘調査	公共 (県)	警察署	東区 下木戸一丁目 600番6 外	－	－	－	5/13～ 15	3	128.00 (11,000)	朝岡政康	なし	なし	取扱不要	
2015110	－	試掘調査	民間	福祉施設	秋葉区 新町一丁目 1389番1 外	－	－	－	5/7	1	17.46 (1,640.74)	塚山えりか	なし	なし	取扱不要	
2015114	－	試掘調査	民間	店舗	西南区 橋本字小橋 258番1外	－	－	－	5/14	1	27 (1,752.15)	塚山えりか	なし	なし	取扱不要	
2015116	近世新海町跡 575-17	試掘調査	公共 (市)	下水道	中央区 古町通 五番町 外	港町跡	近世	近世	7/27～ 30	4	5.38 (705.374)	塚山えりか	土坑（近世）	近世陶磁器・土製品・ 石製品・木製品（近世）	工事立会	周知化 (昭和前期地点)
2015117	秋葉道跡 182	確認調査	民間	個人住宅	秋葉区 秋葉三丁目 4932番1	遺物 包含地	縄文・弥生・ 古代	縄文	5/11	1	3.0 (452.1)	塚山えりか	土坑・ビット（縄文）	縄文土器（縄文）	慎重工事	
2015120	－	試掘調査	民間	集合住宅	東区 一日市字皆瀬 2220番2 外	－	－	－	5/19	1	28.91 (1,552.55)	朝岡政康	なし	なし	取扱不要	
2015121	－	試掘調査	民間	太陽光発電所	西区 四ツ郷字岩山 2063番地1 外	－	－	－	5/26～ 29	4	135.83 (228,441)	朝岡政康	なし	なし	取扱不要	
2015122	荒木道跡 764	確認調査	公共 (市)	県道	江南区 袋津字荒木 1852番 外	遺物 包含地	古代	古代・近世	6/2	1	61.63 (1,500)	朝岡政康	土坑（古代）	土師器・須恵器・ 石製品（古代）、 近世陶磁器（近世）	本発掘 調査	
2015123	山木戸居付 道跡 737	確認調査	民間	宅地造成	東区 山木戸四丁目 3735番1 外	遺物 包含地	弥生・古代・中世	近世	5/20	1	5.2 (475.14)	塚山えりか	土坑（近世?）	近世陶磁器、漆器（近世）	慎重工事	
2015124	森田道跡 218	確認調査	民間	集合住宅	秋葉区 朝日字森田 192番1 外	遺物 包含地	弥生・古墳・ 古代・中世	古代	6/3	1	18.28 (985)	朝岡政康	ビット	土師器・須恵器・石製品	慎重工事	範囲拡大
2015125	－	試掘調査	民間	宅地造成	秋葉区 新津東町一丁目 432番 外	－	－	－	6/4	1	25.90 (4,295.58)	朝岡政康	なし	なし	取扱不要	
2015126	－	試掘調査	公共 (市)	市道改良	秋葉区 市新堤外 外	－	－	－	6/5	1	15.78 (6,080)	朝岡政康	なし	なし	取扱不要	
2015127	－	試掘調査	民間	営農経済施設	西区 木山字砂原 390番 外	－	－	－	7/7・8	2	92.30 (8,281.72)	朝岡政康	なし	なし	取扱不要	
2015132	細池寺道上 道跡 151	確認調査	公共 (県)	開場整備	秋葉区 大安寺字土手内 657番1 外	集落跡	古代・中世	古代・中世	6/10・11	2	36 (990)	塚山えりか	溝・ビット	土師器、珠洲焼	工事立会	
2015133	－	試掘調査	民間	宅地造成	東区 本所二丁目 1517番1 外	－	－	－	6/18	1	33 (1,794.26)	塚山えりか	なし	なし	取扱不要	
2015134	石瀬下町道跡 735	確認調査	民間	個人住宅	西南区 石瀬字地 3402番1	散布地	縄文	－	6/16	1	4.50 (359.4)	塚山えりか	なし	なし	工事立会	
2015135	－	試掘調査	民間	宅地造成	西区 中橋寺字三三 2247番 外	－	－	－	6/22	1	58.37 (4,693.48)	朝岡政康	なし	なし	取扱不要	
2015136	－	試掘調査	民間	宅地造成	北区 太田字法花島屋甲 5861番11 外	－	－	－	6/25	1	58.20 (4,493.56)	朝岡政康	なし	なし	取扱不要	
2015137	上の山道跡 374	確認調査	民間	個人住宅	江南区 藤山一丁目 582番2	遺物 包含地	縄文・弥生・古代	－	7/10	1	8.4 (489.22)	塚山えりか	なし	なし	慎重工事	
2015138	島瀬瀬道跡 623	確認調査	公共 (県)	開場整備	西南区 巻東町	遺物 包含地	古墳・古代	古代	6/22・23	1	25.12 (400)	遠藤恭雄	溝（古代）	土師器・須恵器（古代）	本発掘 調査	
2015140	近世新海町跡 575-16	試掘調査	民間	店舗	中央区 古町通ノ番町 978番1 外	港町跡	近世	近世	7/16	1	21.0 (400)	塚山えりか	土坑（近世）、 性格不明遺構	近世陶磁器・土製品・ 石製品・木製品（近世）	工事立会	周知化 (古町通6番町 978-1地点)
2015142	細池寺道上 道跡 151	確認調査	公共 (県)	開場整備	秋葉区 東金沢字家浦 79番 外	集落跡	古代・中世	古代・中世	8/20	1	49.5 (15,496.1)	立木宏明	溝・ビット	なし	本発掘 調査	
2015143	(上郷北道跡) 769	試掘調査	民間	宅地造成	江南区 横越中央五丁目 3443番1 外	遺物 包含地	古代	古代・近世	7/23・9/29	2	43.58 (1,296.14)	朝岡政康	なし	土師器（古代）、 近世陶磁器（近世）	工事立会	新発見道跡
2015144	－	試掘調査	民間	店舗	江南区 亀田大月一丁目 451番1 外	－	－	－	7/23・24	2	60.66 (10,881.17)	朝岡政康	なし	なし	取扱不要	
2015146	－	試掘調査	民間	土地売買	中央区 鳥居野一丁目 766番9 外	－	－	－	8/3	1	12.25 (1,228.58)	朝岡政康	なし	なし	取扱不要	
2015147	－	試掘調査	民間	老人ホーム	東区 中山八丁目 846番1 外	－	－	－	8/18	1	27 (1,369)	塚山えりか	なし	なし	取扱不要	
2015149	－	試掘調査	民間	老人ホーム	秋葉区 覚路津字道満 1267番1 外	－	－	－	8/19	1	42.98 (2,969.67)	朝岡政康	なし	なし	取扱不要	
2015150	川根谷内道跡 365	確認調査	民間	保育所	江南区 曙町五丁目 10番3	散布地	古代	－	8/20・21	2	56.13 (2,397.73)	朝岡政康	なし	土師器（古代・客土）	慎重工事	
2015153	猿ヶ馬場A 道跡 15	確認調査	民間	共同住宅・ 個人住宅	東区 猿ヶ馬場一丁目 404番1 外	遺物 包含地	古代・中世	－	9/2	1	38.61 (1,316)	朝岡政康	なし	なし	慎重工事	
2015154	－	試掘調査	民間	宅地造成	逢谷内一丁目 254番1 外	－	－	－	9/8	1	27.0 (2,210.52)	塚山えりか	なし	なし	取扱不要	
2015156	新飯田館跡 225	確認調査	民間	個人住宅	南区 新飯田字館 6460番1	城館跡	中世	－	9/9	1	9.84 (85.53)	朝岡政康	なし	なし	慎重工事	
2015157	牡丹山 諏訪神社古墳 767	確認調査	民間	共同住宅	東区 牡丹山三丁目 39番 外	古墳	古墳	古墳	9/16～18	3	33.44 (993.22)	朝岡政康	周濠	円筒埴輪・骨片	継続協議	
2015158	－	試掘調査	公共 (国)	国道	中央区 紫竹山三丁目 外	－	－	近世	5/29	1	16 (200)	石川智紀 工藤祐大	性格不明遺構 (近世以降)	土師器（古代・客土）、 近世陶磁器（近世）、 木製品	取扱不要	※1
2015159	所島前道跡 754	確認調査	民間	宅地造成	江南区 所島一丁目乙 20番3	散布地	縄文・古代・ 中世・近世	－	10/20	1	18.00 (801.99)	塚山えりか	なし	なし	慎重工事	
2015160	(天ヶ沢上谷内 道跡) 770	試掘調査	公共 (市)	国道	秋葉区 水田 外	遺物 包含地	古墳・古代	古墳・古代	10/5～15	8	253.86 (15,880.44)	朝岡政康	なし	土師器・須恵器・木製品	工事 立会・ 慎重工事	新発見道跡 2015261と 同じ調査
2015161	(繁ノ木原道跡) 771	試掘調査	公共 (県)	開場整備	西南区 打越字繁ノ木原 甲179番 外	遺物 包含地	中世	中世	10/26 ～11/12	11	416.00 (19,200,000)	朝岡政康	なし	珠洲焼	継続協議	新発見道跡
2015162	小戸下組道跡 142	確認調査	民間	個人住宅	秋葉区 小戸下組字浄楽 553番 外	散布地	古代・中世	－	10/7	1	7.83 (534.94)	塚山えりか	なし	なし	工事立会	
2015163	駒込小丸山 道跡 359	確認調査	民間	集合住宅	江南区 駒込二丁目 254番1	集落跡	縄文・弥生・古代	－	10/9	1	27 (1,122.69)	塚山えりか	なし	なし	慎重工事	
2015164	－	試掘調査	民間	宅地造成	秋葉区 萩曾根三丁目 234番1 外	－	－	－	10/13・14	2	36 (2,655.73)	塚山えりか	なし	なし	取扱不要	

調査番号	道跡名 道跡番号	調査種別	開発種別		調査地	種 別	道跡の時代	調査で 確認された時代	調査期間	調査 日数	調査面積 (調査対象面積) (㎡)	調査担当	検出遺構	出土遺物	取扱い	備考
			事業者	内 容												
2015168	西江浦道跡 150	確認調査	公共 (県)	基盤整備 促進事業	秋葉区 東金沢字大江外 1027番2 外	遺物 包含地	古代	—	10/26・27	2	90 (1,755.17)	鎌山えりか	なし	なし	慎重工事	
2015169	—	試掘調査	民間	駐車場造成	西蒲区 漆山字四十歩割 875番 外	—	—	—	10/21	1	27 (3,525)	鎌山えりか	なし	なし	取扱不要	
2015170	—	試掘調査	民間	グループホーム	東区 石山一丁目 1307番1 外	—	—	—	10/22	1	18 (1,222.76)	鎌山えりか	なし	なし	取扱不要	
2015172	—	試掘調査	民間	土地売買	東区 物見山一丁目 143番3	—	—	—	11/19・20	2	150 (11,878.07)	鎌山えりか	なし	なし	取扱不要	
2015174	—	試掘調査	民間	共同住宅	江南区 早通四丁目 1848番 外	—	—	—	11/27	1	34.81 (1,293.75)	朝岡政康	なし	なし	取扱不要	
2015175	砂嶺道跡 389	確認調査	民間	宅地造成	江南区 砂山二丁目 342番2 外	遺物 包含地	縄文・弥生・古代	古代	11/30	1	1812 (665.94)	朝岡政康	溝（近世）	土師器（古代・散布）	工事立会	
2015176	天々沼上谷内 道跡 770	確認調査	公共 (市)	国道	秋葉区 鎌倉字蓮田 762番1 外	遺物 包含地	古墳・古代	古墳・古代	1/18 ～28	4	374.49 (24,791.41)	朝岡政康	土坑・ピット	土師器・須恵器・木製品	工事立会・ 慎重工事	
2015177	中新田久保道跡 208	確認調査	民間	個人住宅	秋葉区 中新田字道下 565番 外	遺物 包含地	古代	—	12/3	1	616 (199.10)	鎌山えりか	なし	なし	慎重工事	
2015178	—	試掘調査	民間	土地売買	東区 秋工一丁目 2番204 外	—	—	—	12/9	1	64 (1,479)	鎌山えりか	なし	なし	取扱不要	
2015179	—	試掘調査	公共 (市)	小学校	中央区 女池六丁目 1528番 外	—	—	—	12/16	1	62 (208)	鎌山えりか	なし	なし	取扱不要	
2015180	林付道跡 746	確認調査	公共 (市)	小学校	西蒲区 今井 1031番	集落跡	古代・中世	古代	12/15	1	1014 (291)	鎌山えりか	なし	土師器・須恵器（古代）	慎重工事	
2015181	新道道跡 756	確認調査	民間	賃貸住宅	西蒲区 巻字蓮田 甲4124番6	遺物 包含地	古代	—	11/26	1	12.25 (309.84)	鎌山えりか	なし	なし	取扱不要	
2015182	—	試掘調査	公共 (県)	基盤整備 促進事業	秋葉区 岡田字秋場 645番1 外	—	—	—	11/9・10・ 12・13・ 16・17	6	252 (6,053.49)	鎌山えりか	なし	なし	取扱不要	
2015183	(近世新潟町跡) 575	試掘調査	民間	複合ビル	中央区 本町通七香町 1146番	港町跡	近世	近世	12/22・24	2	27 (37.88)	鎌山えりか	性格不明遺構（近世）	近世陶磁器・ 木製品（近世）	慎重工事	※2
2015185	結七島道跡 209	確認調査	民間	個人住宅	秋葉区 結字内堀 172番9 外	集落跡	古墳・古代・中世	近世	1/7	1	529 (188)	朝岡政康	ピット	近世陶磁器（近世）	慎重工事	
2015186	—	試掘調査	民間	宅地造成	西区 坂井字村上 474番 外	—	—	—	1/13	1	34.53 (3,315.72)	朝岡政康	なし	なし	取扱不要	
2015187	—	試掘調査	民間	診療所	南区 田中字前 23番 外	—	—	—	1/14	1	34.69 (1,975.73)	朝岡政康	なし	なし	取扱不要	
2015188	—	試掘調査	公共 (市)	公園	東区 寺山字前沢 92番 外	—	—	—	1/8・12・ 13	3	65.6 (45,553.64)	鎌山えりか	なし	なし	取扱不要	
2015232	三王山道跡 419	確認調査	民間	土地売買	江南区 所島一丁目 800番8	集落跡	古代・中世	古代	2/8・9	2	90 (264.62)	鎌山えりか	ピット（古代）	須恵器（古代）	継続協議	
2015233	結七島道跡 209	確認調査	民間	宅地造成	秋葉区 福島字敷敷付 94番	集落跡	古墳・古代・中世	古代	2/12・ 16・17	3	27 (654)	鎌山えりか	性格不明遺構（古代）	土師器（古代）	継続協議	
2015234	川口甲道跡 192	確認調査	民間	集合住宅	秋葉区 川口字甲 321番1外	遺物 包含地	古代	近世	2/22・23	2	36 (980.53)	鎌山えりか	なし	近世陶磁器（近世）	継続協議	
2015235	(近世新潟町跡) 575	試掘調査	民間	駐車場	中央区 上九川南浦丸香町 1287番7 外	港町跡	近世	近世	2/10	1	93 (66.1)	鎌山えりか	建物・溝・ 性格不明遺構（近世）	近世陶磁器（近世）	取扱不要	※2
2015237	—	試掘調査	民間	工場	江南区 横越字上郷 2010番1 外	—	—	—	2/22～24	3	68.24 (9,000)	朝岡政康	なし	なし	取扱不要	
2015238	(浦木東道跡) 773	試掘調査	公共 (市)	主要地方道 中央環状線	北区 浦木字浦木 2571番 外	遺物 包含地	古墳	古墳	2/25 ～3/8	7	141.23 (25,563)	朝岡政康	土坑（時代時期不明）	土師器（古墳）	継続協議	新発見遺跡
2015239	正尺入道跡 291	確認調査	民間	南科医院	北区 かふとやま二丁目 3番3	遺物 包含地	古墳・古代・近世	—	1/15	1	147 (196.48)	鎌山えりか	なし	なし	慎重工事	
2015240	近世新潟町跡 575-18	試掘調査	公共 (市)	市有地売却	中央区 上大川前通二番町 135番1	港町跡	近世	近世	3/9～11	3	14.85 (1,824.74)	鎌山えりか	柱・溝（近世）	近世陶磁器・木製品・ 金属製品（近世）	継続協議	周知化
2015241	日水南道跡 391	確認調査	民間	個人住宅	江南区 日本一丁目 485番5	遺物 包含地	縄文・弥生・ 古墳・古代・ 中世	縄文・平安	3/3	1	50 (163.82)	鎌山えりか	性格不明遺構	縄文土器（縄文）、 土師器・須恵器（古代）、 近世陶磁器（近世）	工事立会	
2015242	—	試掘調査	民間	葬儀場	中央区 漆町通四ノ町 3356番 外	—	—	近代	3/7	1	48 (3,349)	鎌山えりか	なし	陶磁器（近代）	取扱不要	
2015243	中新田久保道跡 208	確認調査	公共 (市)	天日乾燥施設	秋葉区 満願寺字久保 508番 外	遺物 包含地	古代	—	3/8	1	171 (386)	鎌山えりか	なし	なし	慎重工事	
2015246	大沢谷内道跡 342	確認調査	公共 (市)	国道	秋葉区 鎌倉・水田	集落跡	縄文・弥生・ 古代・中世	縄文・古代・ 中世	12/1 ～2/3	9	374.49 (24,791.41)	朝岡政康	土坑・溝	縄文土器（縄文）、須恵器 (古代)、木製品	本発掘 調査・ 工事立会	範囲拡大
2015260	牡丹山 諏訪神社古墳 767	学術調査	新潟 大学	学術目的	東区 牡丹山三丁目 92番 外	古墳	古墳	古墳・近世	9/12～23	12	79.95 (1,058)	橋本博文	墳丘裾・周溝・埋葬施設と 推測される粘土集積	円筒埴輪・須恵器器古・ 土製勾玉・土製管玉	—	※1
2015261	大沢谷内道跡 342	試掘調査	公共 (市)	国道	秋葉区 水田 外	集落跡	縄文・弥生・ 古代・中世	不明	10/5～15	8	253.86 (15,880.44)	朝岡政康	なし	木製品	本発掘 調査	2015160と 同じ調査

※1 2015158（中央区紫竹山三丁目 外）は新潟県教育委員会が、2015260（牡丹山諏訪神社古墳）は牡丹山諏訪神社古墳発掘調査団が実施した発掘調査のため、新潟市が実施した発掘調査に含まれない。
 ※2 近世新潟町跡推定範囲内の周知化しない試掘調査についても、範囲内と判断できるように道跡名と道跡番号を記載している。近世新潟町跡の取扱いの経緯は「年報」第1号に記載されている。



確認調査風景（2015104・平漬跡）



試掘調査風景（2015188・東区寺山字前沢）

表6 平成27年度工事立会（管内踏査）一覧（調査番号順）

調査番号 ※1	遺跡名	所在区	工事原因	調査担当	踏査 期間	検出 遺構	出土 遺物
2015108	的場遺跡	西 区	事務所	諫山えりか	4/27	×	×
2015112	秋葉遺跡	秋葉区	個人住宅	諫山えりか	4/27	×	×
2015113	養海山遺跡	江南区	農機具格納庫	諫山えりか	5/7	×	×
2015115	塚ノ山遺跡	江南区	個人住宅	諫山えりか	5/30	×	×
2015118	福井遺跡	西蒲区	水道	諫山えりか	5/19	×	×
2015128	滝谷奈跡	秋葉区	水道	諫山えりか	5/27	×	×
2015130	山木戸遺跡	東 区	事務所	朝岡政康	5/8	×	×
2015131	近世新潟町跡	中央区	電柱	諫山えりか	6/9	×	○
2015139	近世新潟町跡 (古町3番町)	中央区	駐輪場	諫山えりか	6/11	×	○
2015141	石瀬下町遺跡	西蒲区	個人住宅	朝岡政康	7/10	×	×
2015145	下郷遺跡	江南区	個人住宅	諫山えりか	7/29	×	×
2015148	近世新潟町跡 (古町6番町)	中央区	店舗	諫山えりか	8/24 ～10/1	×	○
2015151	古町遺跡	西蒲区	個人住宅	諫山えりか	7/1	×	×
2015152	豊栄長場遺跡	北 区	下水道	諫山えりか	9/1	×	×
2015155	鳥屋野遺跡	中央区	ガス管	廣野耕造	8/20	×	×
2015165	上郷北遺跡	江南区	宅地造成	廣野耕造	10/9	×	○
2015166	三王山遺跡	江南区	住宅解体	諫山えりか	10/30	×	×
2015167	道上遺跡	秋葉区	圃場整備	諫山えりか	10/28 ～11/4	×	×
2015171	細池寺道上 遺跡	秋葉区	圃場整備	諫山えりか	11/5 ～2/27	×	○
2015173	日本遺跡	江南区	農舎	廣野耕造	11/20	×	×
2015184	細越遺跡	西 区	コミュニティ センター	朝岡政康	1/8	×	×
2015231	近世新潟町跡 (本町通1番町 172-2地点)	中央区	共同住宅	朝岡 政康	6/9	×	×
2015236	天ヶ沢上谷内 遺跡	秋葉区	バイパス	朝岡政康	2/15 ～3/2	×	×
2015247	樋切遺跡	西蒲区	ガス管	朝岡政康	3/25	×	×
2015248	法華塚遺跡	北 区	水道	諫山えりか	4/2・3	×	×
2015249	塚ノ山遺跡	江南区	個人住宅 (解体時)	諫山えりか	4/28	×	×
2015250	沖ノ羽遺跡	秋葉区	圃場整備	諫山えりか	12/7	×	×
2015251	舟戸遺跡	秋葉区	資材倉庫	諫山えりか	6/11	×	×
2015252	砂岡遺跡	江南区	個人住宅	—	※2	—	—
2015254	三條岡遺跡	江南区	個人住宅	—	※2	—	—
2015255	隼人塚古墳	西蒲区	墓撤去	廣野耕造	10/13	×	×
2015256	砂崩遺跡	江南区	個人住宅	諫山えりか	2/9	×	×
2015257	隼人塚古墳	西蒲区	墓撤去	廣野耕造	10/24	×	×
2015258	三條岡遺跡	江南区	個人住宅	—	※2	—	—
2015259	大沢谷内遺跡	秋葉区	バイパス	朝岡政康	2/27 ～3/10	×	×

※1 遺物等の記録をまとめるため、工事立会にも発掘調査番号を付けている。

※2 工事実施日の連絡がなく工事実施時に工事立会ができなかった。

積が広い試掘・確認調査が複数あったこともあり、市職員の現地調査日数は平成26年度以上となっている。

地域別では、例年通り秋葉区と江南区が多い。遺跡数も多いが両区は公共事業・民間事業共に他の区より多い。

平成28年度の試掘調査で新しく発見された遺跡は、亀田道下遺跡（江南区）・上郷北遺跡（江南区）・繁ノ木原遺跡（西蒲区）・天ヶ沢上谷内遺跡（秋葉区）・浦木東遺跡（北区）の5遺跡で、近世新潟町跡推定地（中央区）では3地点が追加登録された。亀田道下遺跡・繁ノ木原遺跡・天ヶ沢上谷内遺跡・浦木東遺跡は公共事業に係る試掘調査、上郷北遺跡は民間開発事業に係る試掘調査で発見された。

(3) 工事立会

概 要 工事立会は、遺跡の範囲内で行われる各種土木工事等に対し、原則として事前の試掘・確認調査で遺跡の内容を十分把握したうえで、『埋蔵文化財の保護と発掘調査の円滑化について（通知）』（平成10年9月29日付庁保記第75号 各都道府県教育委員会教育長宛文化庁次長通知）及び『発掘調査の要否等の判断基準』（平成11

年9月10日付教文第578号）に従って実施している。具体的には、

・土木工事等により、明らかに遺跡の一部が破壊されるが、掘削範囲がきわめて狭小（『発掘調査の要否等の判断基準』により原則として掘削幅1m以下）であるため、記録保存を目的とした本発掘調査の実施が困難であるもの。

・掘削が遺物包含層等に及ばず、保護層も確保できる見込みであるが、施工が設計通りであるか立会によって確認する必要がある場合、等である。

工事立会にあたっては、『法』第93条の届出・同第94条の通知に対する取扱い指示文を返送する際に、工事日程が決定次第連絡してもらい、事業者の工程に従って新潟市の埋蔵文化財担当専門職員が現地に訪れている。

ただし、直前の連絡だけでは工事日程との調整が難しいため、特に長期間にわたる大規模な工事の場合、事業者の協力を得て、あらかじめ施工者代理人を交えた打合せを綿密に行うようにしている。これにより、工事立会による工程の一部変更等、施工者側が対応できることが多くなっている。

工事立会により遺物や遺構が発見された場合は、その場で記録を取り、出土遺物や記録類は、試掘・確認調査に準じた取扱いとしている。ただし、遺跡によっては相当量の遺物が出土することがあり、多量の遺物の注記を外部に委託することがある。一定期間遺物が外部にあることで、遺物の確認等を早期に効率的に行えないこともあるため、市職員で整理できるような体制を目指していく必要がある。貴重な遺跡の情報としての工事立会結果を十分に生かすため、現状では重要と判断したものは『年報』で報告している。

また、大規模開発や圃場整備等に関わる長期間の工事立会では、限られた人数の市職員での対応に困難な場合があり、人員の体制等今後検討していく必要がある。さらに、民間事業者に対して工事立会指示が出ているにもかかわらず、施工業者との連絡不足から掘削日の連絡がないまま工事を行い、事業者へ注意を行った事案も発生していることから、事業者への注意喚起の徹底についても課題が出てきた。

平成27年度 表5の通り35件の工事立会を行った。平成26年度の51件から約69%の大幅な減少である。秋葉区での圃場整備関係が対象面積も大規模で長期間に及んでいる。個人住宅関係等の建物の案件が多い。

事前審査に係る主要な試掘・確認調査の概要を次節に示した。（朝岡政康）

2 平成27年度の事前審査に係る試掘・確認調査及び工事立会の概要

(1) 山ノ家遺跡 第6次調査 (2015105)

所在地 新潟市江南区駒込一丁目185番1

調査の原因 個人住宅建設(民間事業)

調査期間 平成27年5月8日(1日間)

調査面積 12.88㎡(敷地面積251.47㎡)

調査担当 朝岡政康

処置 慎重工事

調査に至る経緯 周知の遺跡内で個人住宅建設(建築面積96.06㎡)の届出が出された(平成27年4月9日付)。基礎工事内容は布基礎部分を幅50~60cm、深度45cmで掘削するほか、柱状改良(直径60cm、長さ2.3~3.1m)を44か所で行う計画であった。協議により、既存基礎を除却後に取扱いを判断するための確認調査(第6次・2015105)を実施した(新歴B第4号5、図1)。

調査の結果、遺物包含層が確認されたが、布基礎工事に伴う掘削が小規模で盛土内にとどまるため遺跡への影響は軽微であると判断し、慎重工事の取扱いとされた。

位置と環境 いわゆる亀田砂丘前列(I-1列あるいはI-2列)の南側に舌状に張り出した場所に位置する。南には農道を挟んで水田が広がっており、周辺の標高は約2.2mを測る。遺物包含層は砂丘上は砂取りや宅地化で残っていないが、竹林や砂丘間低地・砂丘南側縁辺には遺存しているものと考えられる。

本遺跡では、主要地方道新潟港横越線の拡幅工事に伴う確認調査(1989109・1997130)と本発掘調査(1992006)[川上1993]、今回の計画地前面の砂丘南側縁辺を通る農道拡幅工事に伴う確認調査(2000117)等が行われており、縄文時代前期・中期、弥生時代中期、奈良・平安時代の遺物が出土している。

亀田砂丘前列上には弥生時代前期から中期後葉にかけての遺跡が多数分布するが、後期になると殆どの遺跡が廃絶されることは特筆される(図2・表1)。

概要と層序 2か所のトレンチを設定した(図3)。基本層序は、I層:黒色~黒褐色砂層(盛土)、II層:灰黄色シルト層、III層:褐灰色砂層(遺物包含層)、IVa層:黄色~灰色砂層、IVb層:灰~灰白色砂層である(図3)。1TではII・III層が検出されなかった。

2Tで検出されたII層はシルト層で水性堆積層。III層の遺物包含層は、1Tでは削平され遺存していなかったが、2Tでは表土より約1.6mの深度から層厚約40cmで確認された。IV層は砂丘基盤層である。

2Tでは盛土が厚く堆積しており、旧地形は1Tから



図1 調査位置図(1/10,000)



2T西壁土層堆積状況(東から)

2Tに向かって急激に傾斜していたものと考えられる。当該地は砂丘南側斜面の縁辺にあたり、III層遺物包含層は南側の水田面にかけて急激に下がっているものと推測される。なお、1Tと2Tの間は6m程離れており、その間にも遺物包含層が存在した可能性があるが、工事立会を行っていないために不明である。

検出遺構 遺構は検出されていない。

出土遺物 出土遺物の内訳は表2の通り。1~3は2T III層から出土した弥生土器で、中期後葉の小松式(図4)。1は壺頸部。幅3cm程の粘土帯に2条の平行沈線を引き、その後にハケメ刻みを加える。その下には廉状文を2段以上入れる。2・3は甕。内外面ハケメ調整、口縁端部にはハケメ刻みを入れる。4は附加条2種の原体を施文する縄文土器。器壁が薄く後期か。5は土師器鍋。6は17世紀後半から18世紀前半頃の肥前陶器皿。

まとめ 亀田砂丘上の遺跡から弥生時代の遺物包含層が確認された意義は大きい。他の遺跡でも砂丘縁辺から周辺の水田面に埋没した砂丘上には遺跡が遺存している可能性が高いと考えられる。今後、未周知範囲の遺跡取扱いに注意する必要がある。(渡邊朋和)

表1 弥生時代の遺跡の消長

番号	遺跡名	前期	中期 前葉	中期 後葉	後期
1	笹山前遺跡			△	△
2	上の山遺跡			○	
3	駒込小丸山遺跡	△	○		
4	山ノ家遺跡	△	○		
5	前郷遺跡		△	○	
6	齊助山遺跡		△	○	
7	亀田城山A遺跡				
8	日本南遺跡		△	○	
9	日本南遺跡		○		
10	武左衛門裏遺跡		△		
11	八幡前遺跡		△		
12	美海山遺跡	○	△		
13	西郷遺跡	○	○	○	△
14	東園遺跡				△

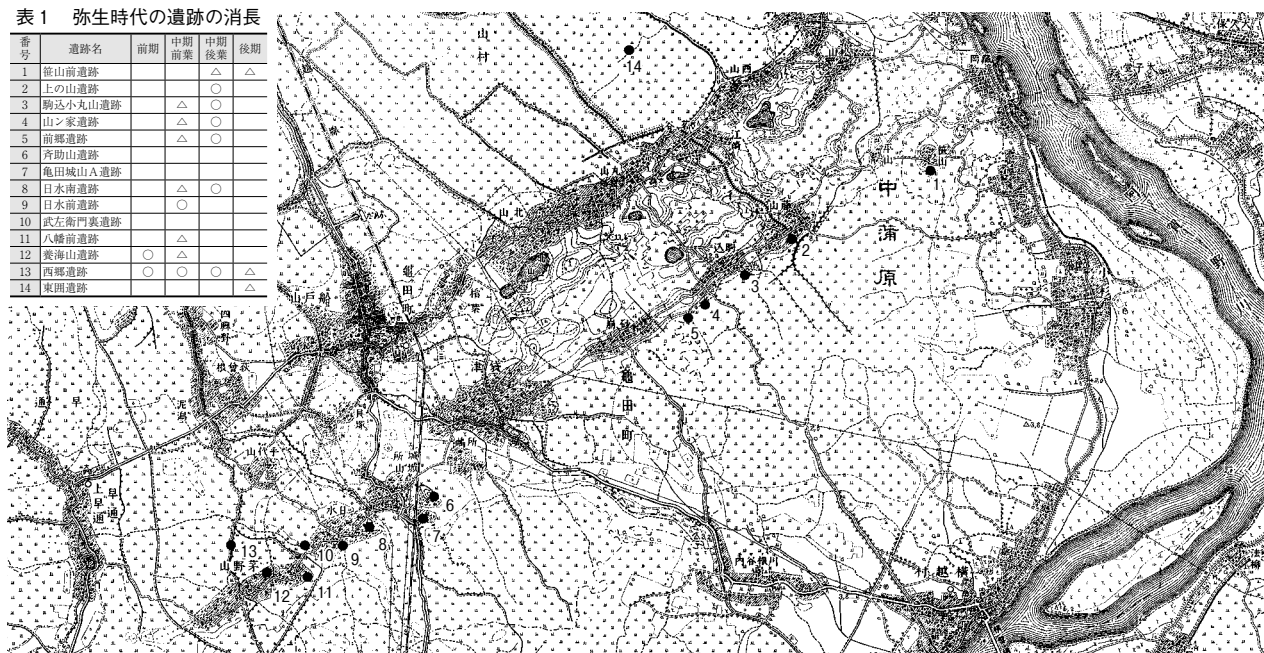


図2 亀田砂丘の弥生時代の遺跡 (1/50,000)

大日本帝国陸地測量部 大正3年印刷発行 (1/25,000→1/50,000)

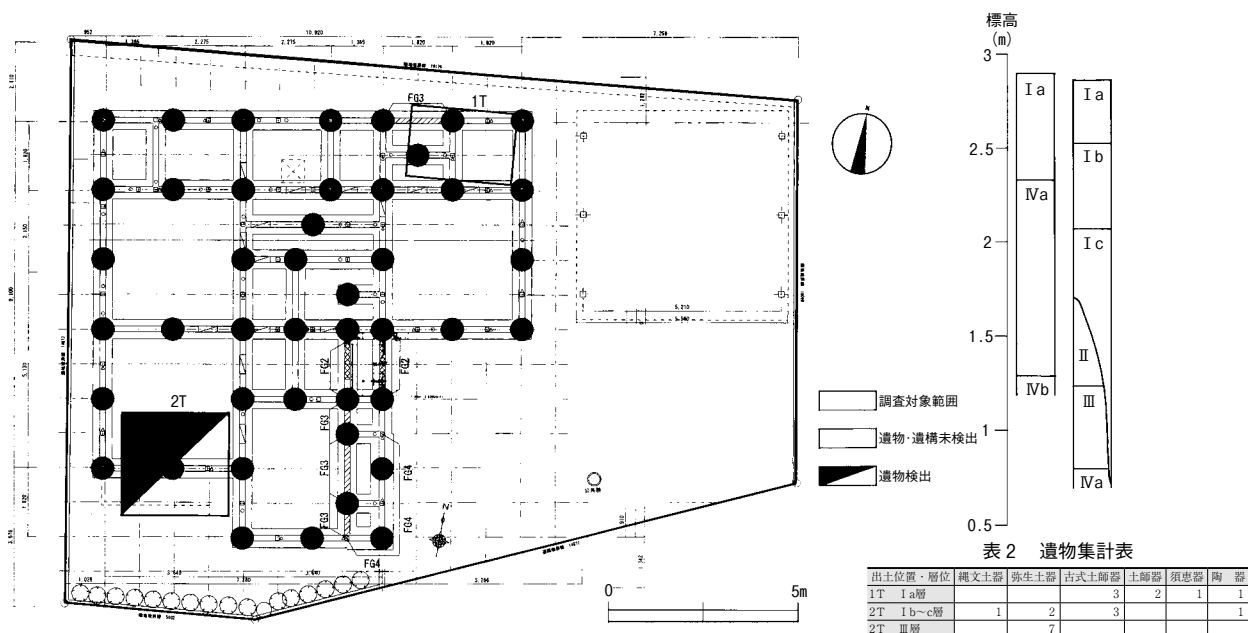


図3 トレンチ位置図 (1/200) 及び土層柱状図 (1/40)

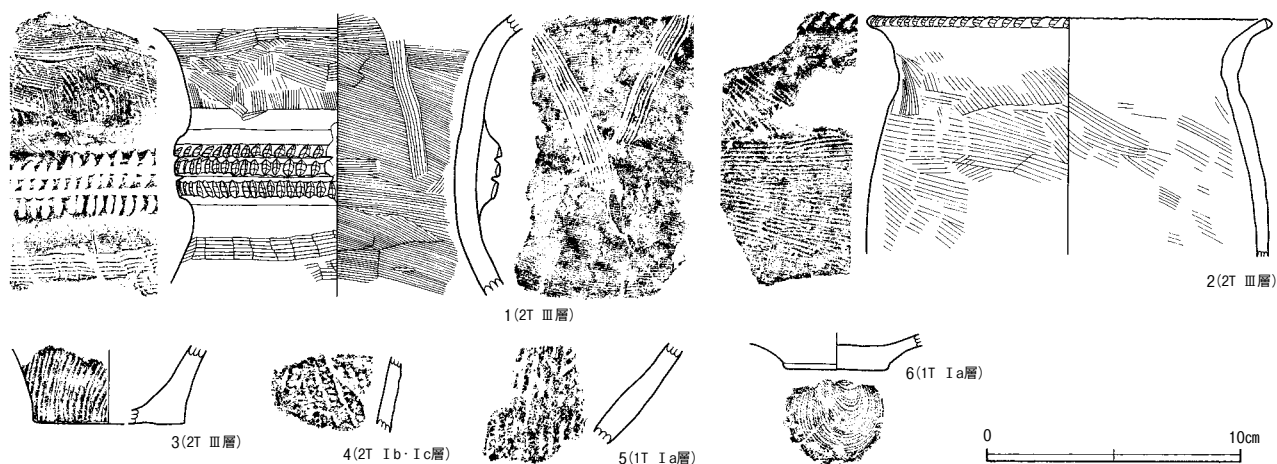


図4 遺物実測図 (1/3)

(2) 森田遺跡 第6次調査 (2015124)

所在地 新潟市秋葉区朝日字森田190番1 外

調査の原因 共同住宅建設 (民間事業)

調査期間 平成27年6月3日 (1日間)

調査面積 18.28㎡ (調査対象面積985㎡)

調査担当 朝岡政康

処置 慎重工事

調査に至る経緯 共同住宅建設に伴い『法』第93条の届出が提出された (平成27年5月15日付)。基礎工事内容は、布基礎部分を幅15cm、深度50cmで掘削し、計画建物内に柱状改良 (ピュアパイル工法) を139か所 (直径20cm、長さ6.5~8.8m) 行う計画である。取扱いを決めるため、同年6月1日付で着手報告を提出し (新歴B第47号の3)、確認調査 (第6次・2015124) を実施した (図1)。

位置と環境 森田遺跡は新津丘陵北西側の麓の旧金津川等によって形成された扇状地に立地する。調査地は遺跡範囲の南東端に位置する。現地標高は9.3m前後である。現況は住宅地となっている。これまでの調査で、弥生・古墳時代及び古代の土器等が確認されている。

周辺は舟戸遺跡や塩辛遺跡等の同時代の遺跡が同じ扇状地上に集中しており、近隣の新津丘陵上にある古津八幡山遺跡や古津八幡山古墳との関係が注目されている。

概要と層序 トレンチを3か所設定した (図2)。基本層序は、I層:盛土、IIa~c層:旧表土及び旧水田土、III層:暗灰色砂混シルト (遺物包含層)、IVa層:灰白色シルト (遺構確認面)、IVb層:緑灰色砂質シルト、IVc層:灰黄色粘土、V層:オリブ黒色粘土、VI層:にぶい黄色~青灰色粘土、VII層:灰色砂 (川砂) である (図3)。

検出遺構 2T IVa層上面より小土坑1基を検出した。また、1T IVa層とV層の間から自然流路と考えられる堆積を検出している。

出土遺物 III及びIV層より破片数で42点出土した。内訳は土師器28点、須恵器6点、青磁1点、中世陶器1点、近世陶磁器2点 (混ざりこみ)、近代の磁器1点 (混ざりこみ)、石3点である。うち4点を図化した (図4)。1は土師器無台碗の底部破片資料である。2は須恵器無台杯の底部破片資料である。3は須恵器甕の体部破片資料である。外面に平行タタキメ、内面に平行当て具痕がある。4は青磁碗の体部下半破片資料である。比較的色彩が薄い。1~3は平安時代、4は中世と考えられる。

まとめ 古代から中世の遺物包含層及び遺構確認面の残存が確認された。調査の結果、遺跡の範囲が拡大した。取扱いは布基礎工事による遺跡への影響がほぼなく、柱状改良による掘削は小規模にとどまるため慎重工事としたが、今後は検討の余地がある。 (金田拓也)



図2 調査位置図 (1/10,000)

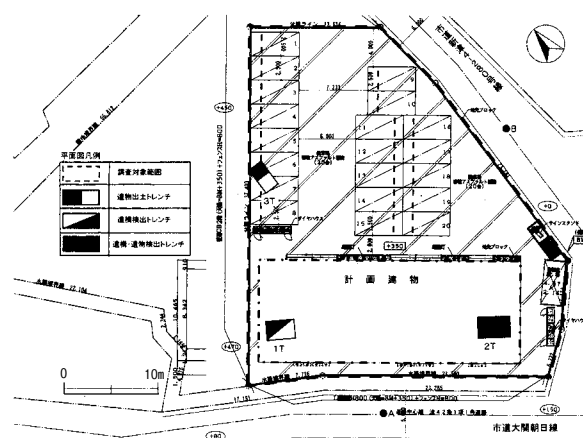


図2 トレンチ位置図 (1/800)

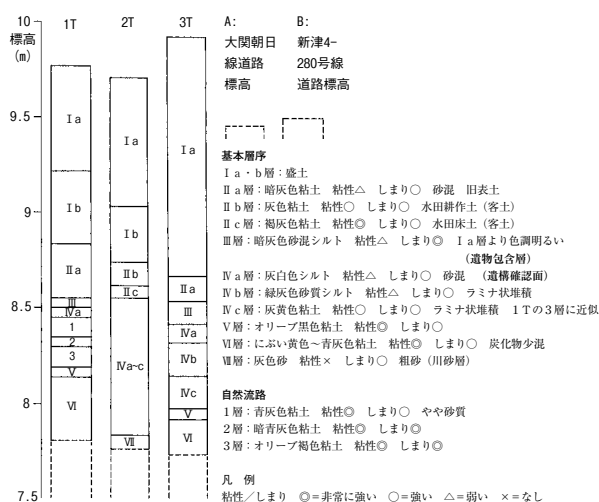


図3 土層柱状図 (1/40)

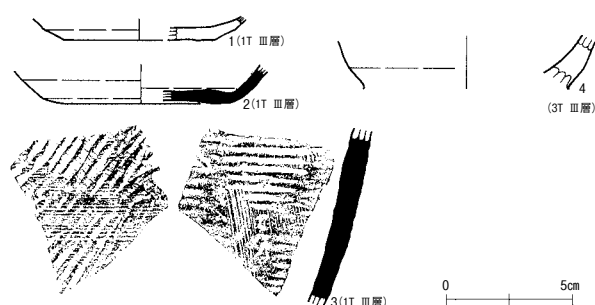


図4 遺物実測図 (1/3)

(3) 上郷北遺跡 第1次調査 (2015143)

所在地 新潟市江南区横越中央五丁目3443番1 外
調査の原因 宅地造成 (民間事業)

調査期間 平成27年7月23日・9月29日 (2日間)

調査面積 43.58㎡ (調査対象面積1,297.46㎡)

調査担当 朝岡政康

処置 工事立会

調査に至る経緯 平成27年5月に歴史文化課に宅地造成 (区域内に幅員6mの道路を設け、8区画の分譲地を造成) に伴う協議があり、平成27年7月16日付新歴B第51号の5で報告して試掘調査 (第1次・2015143) を実施した。

位置と環境 阿賀野川左岸から約100m離れた自然堤防上に立地する。現況は宅地で、標高は5.3m前後である。遺跡付近には、北東側500mに下郷南遺跡〔相澤2015〕、南西側800mには上郷遺跡〔上野・春日1997〕等、古代から中世の遺跡が存在する。

概要と層序 7月23日に建物等の障害物を避けて設定可能な3か所、住宅撤去後の9月29日に新たに3か所のトレンチを設定した (図2)。基本層序は、I層：灰褐色砂～シルト (表土)、II層：褐灰色シルト、IIIa～c層：にぶい黄色～黄灰色～にぶい黄褐色シルト、IVa～c層：にぶい黄橙色～灰黄褐色～青灰色シルト～砂質シルト、Va～d層：黒褐色～青灰色～灰黄褐色シルト～粘土 (Va層：遺物包含層)、VI層が緑灰色～黄灰色砂混シルトである (図3)。3T～5Tでは、Va～c層が単層となり、3T・5Tにおいて遺物が出土した。

検出遺構 遺構は検出されなかった。

出土遺物 土師器食膳具・煮炊具、黒色土器食膳具が、3Tで11点、5Tで6点、合計17点出土している。3点を図化した (図4)。1・2は3Tで出土した土師器無台碗である。1は口径11.8cm、焼成堅緻で、2は底径4.6cm、焼成軟質で胎土に赤色粒子を多く含む。底部に糸切り痕が残る。3は5T出土の内面が黒色処理された無台碗で、底径4.8cm、底部に糸切り痕が残る。丁寧な調整が施され、焼成堅緻である。この他、縦位のハケメ調整が施された土師器煮炊具具体部片も出土しており、ややさかのぼるものを含む可能性があるが、1～3の形態から9世紀代を主体とする資料と判断した。4TのIII層では、18世

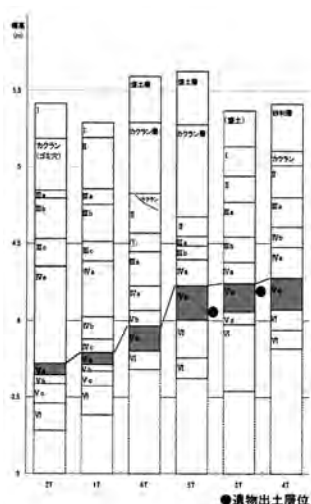


図3 土層柱状図 (1/50)



図1 調査位置図 (1/10,000)



図2 トレンチ位置図 (1/1,000)



5 T北壁土層堆積状況 (南から)

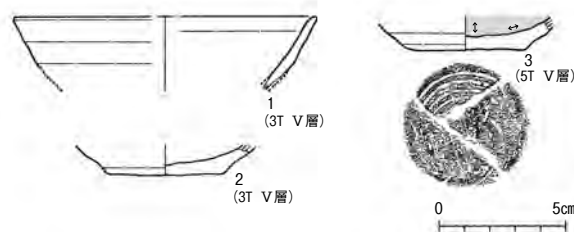


図4 遺物実測図 (1/3)

紀後半以降の磁器も出土している。

まとめ 調査地の一部で遺物が発見され、遺物包含層の残存が確認されたことから、「上郷北遺跡」として周知化した。今回の調査地は、遺物の出土量が少なく、遺構が検出されなかったこと、包含層の埋没深度が深いこと等から、遺跡北側縁辺部にあたるとの所見がなされている。取扱いは、遺跡への影響が軽微であることや道路が私道であることから工事立会とした。(遠藤恭雄)

(4) 牡丹山諏訪神社古墳 第3次調査 (2015157)

所在地 新潟市東区牡丹山三丁目39番 外

調査の原因 共同住宅建設 (民間事業)

調査期間 平成27年9月16日～18日 (3日間)

調査面積 33.44㎡ (調査対象面積993.22㎡)

調査担当 朝岡政康

処 置 継続協議

調査に至る経緯 平成27年8月に不動産会社から歴史文化課に共同住宅の建設計画に伴う照会があった。計画地は平成26年度の新潟大学橋本博文教授を中心とする「牡丹山諏訪神社古墳発掘調査団」による試掘 (学術) 調査 (第1次・2014196) によって古墳であることが確定した牡丹山諏訪神社古墳の周知範囲に一部含まれていたことから、歴史文化課と新潟県教育委員会及び橋本教授など関係者間で調整を行い、平成27年9月11日付新歴B第110号の2で報告をして確認調査を実施した (図1)。

位置と環境 信濃川と阿賀野川に挟まれた新砂丘Ⅱ-4の北側に位置する。現在の海岸線からは約3km内陸に位置し、調査地の現標高は約0.0～0.7mを計る。現況は畑地及び公園であるが、以前は水田としても一部利用されていた。なお、計画範囲の南側には住宅が建っていた。同じ砂丘列上の西側約700mには、古墳時代から中世の遺物や遺構が確認されている山木戸遺跡が存在する。

概要と層序 2か所のトレンチ (1T・2T) を設定した (図2)。このうち1Tで古墳の周濠が確認された。なお、1T東端は深掘りを行っている。

基本層序は、Ⅰa・b層：暗褐色砂～灰色シルト (表土、畑・水田耕作土)、Ⅱa～d層：黄灰色砂～オリーブ黒色シルト～灰色砂～黄灰色シルト (人為層)、Ⅲ層：暗灰黄色砂 (自然堆積層)、Ⅳ層：灰色砂 (自然堆積層・古墳時代の基盤層か) である (図3)。なお、ボーリング3・ボーリング4地点でのボーリング調査では、Ⅳ層上端以下1mはⅣ層が認められることから、Ⅳ層が砂丘基盤層と推定される。周濠覆土は1～5層に細分した。

公園区域に該当する1Tでは、基本層序の上に鉄筋コンクリートなどの産業廃棄物からなる造成盛土 (図3の造成土1・2) が約1.2mの厚さで存在し、さらにその上は公園整備時の盛土 (図3の盛土1・2) が認められた。

検出遺構 1Tで古墳の周濠が確認された (図3)。1Tの東端と西端でⅣ層が検出されており、西端のⅣ層の方が東端で検出されたⅣ層よりも標高が約0.5m高いことから、西端のⅣ層の立ち上がり、周濠外側の立ち上がりにあたる可能性が推測される。2Tでは遺構は確認されなかった。なお、調査中に橋本教授から現地を確認して頂いた。



図1 調査位置図 (1/10,000)



1T近景 (南西から)



1T北壁土層堆積状況 (南西から)



1T西端北壁土層堆積状況 (南から)

出土遺物 1 T東側において、周濠覆土である1層から円筒埴輪1点(図4)と骨片1点が出土した。円筒埴輪は基部の破片で、内面下端は摘まれて突出している。外面の調整はタテハケで、下端はヨコナデによりタテハケが消えている。内面調整はヨコハケである。底部はナデ調整で、粘土紐の接合痕を残す。胎土には径1mm程の石英、長石、角閃石、雲母の他、径1～3mm程の赤色粒子、砂礫を含む。これらの特徴から、これまでに牡丹山諏訪神社古墳において採集、出土している円筒埴輪と同種のものと考えられる。骨片は長軸長約4.5cm、短軸長約1.5cmである。分析等はしておらず詳細は不明である。

まとめ 1 Tで周濠が確認され、牡丹山諏訪神社古墳の墳形や墳丘規模を推定するデータが得られた。

なお、本確認調査に並行して実施された牡丹山諏訪神社古墳発掘調査団による確認(学術)調査(第2次・2015260、平成27年9月12日～23日)では、3トレンチの南西側に設定した拡張区において周濠外側の立ち上がりが確認されている〔橋本・平形ほか2016〕。1 T西側で確認された周濠外側の可能性のある立ち上がりの位置は、第2次調査の成果と矛盾しない(図2)。

取扱いについては継続協議とした。その後、計画地は別の不動産会社に転売され、計画範囲を花壇西側に縮小する形で再度共同住宅の建築計画が提示された。これを受け、平成28年度に追加の確認調査(第4次・2016145)

を実施した。最終的に遺構・遺物が確認された計画地東側は駐輪場・駐車場の計画となり、工事の影響が表層部分に限定されることから慎重工事とし、建物部分の計画地西側については、工事立会となった。(相田泰臣)



2 T近景(北西から)



2 T北壁土層堆積状況(南西から)

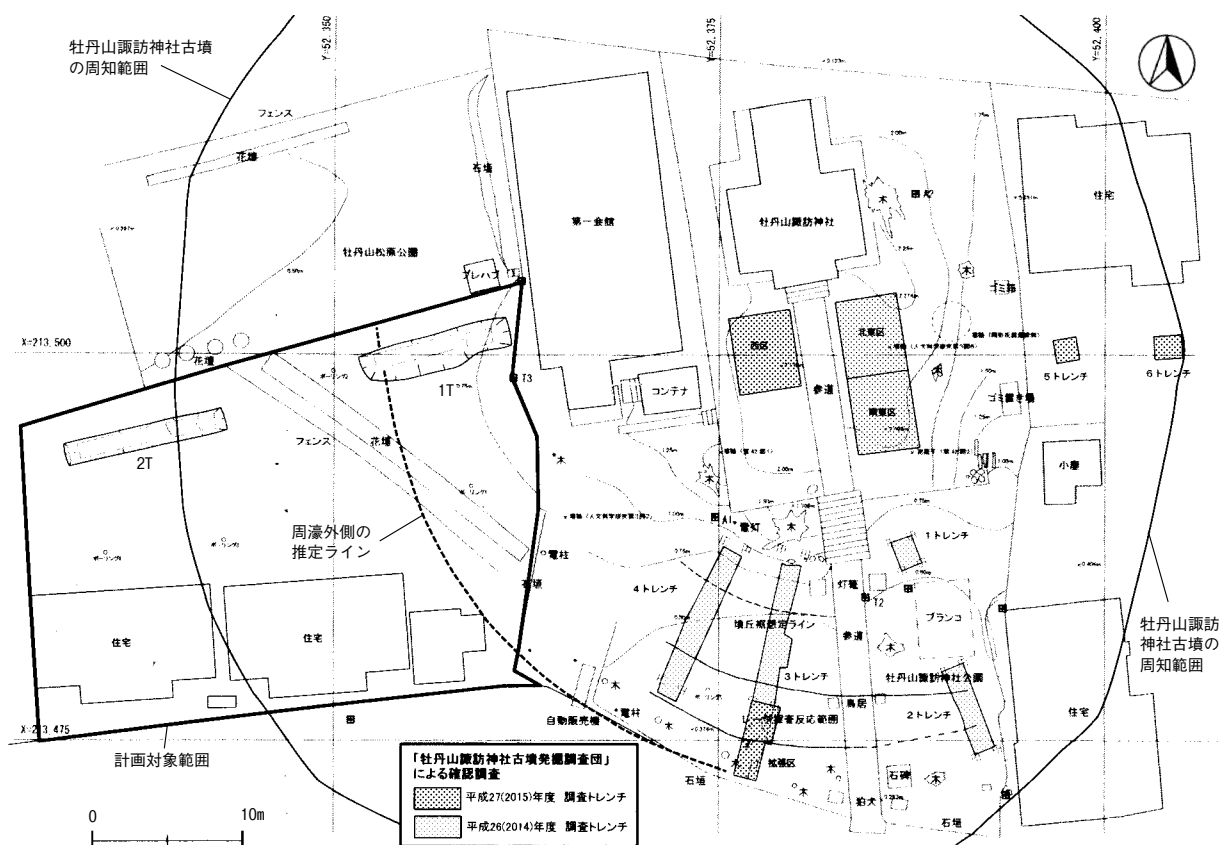


図2 トレンチ位置図(1/500)

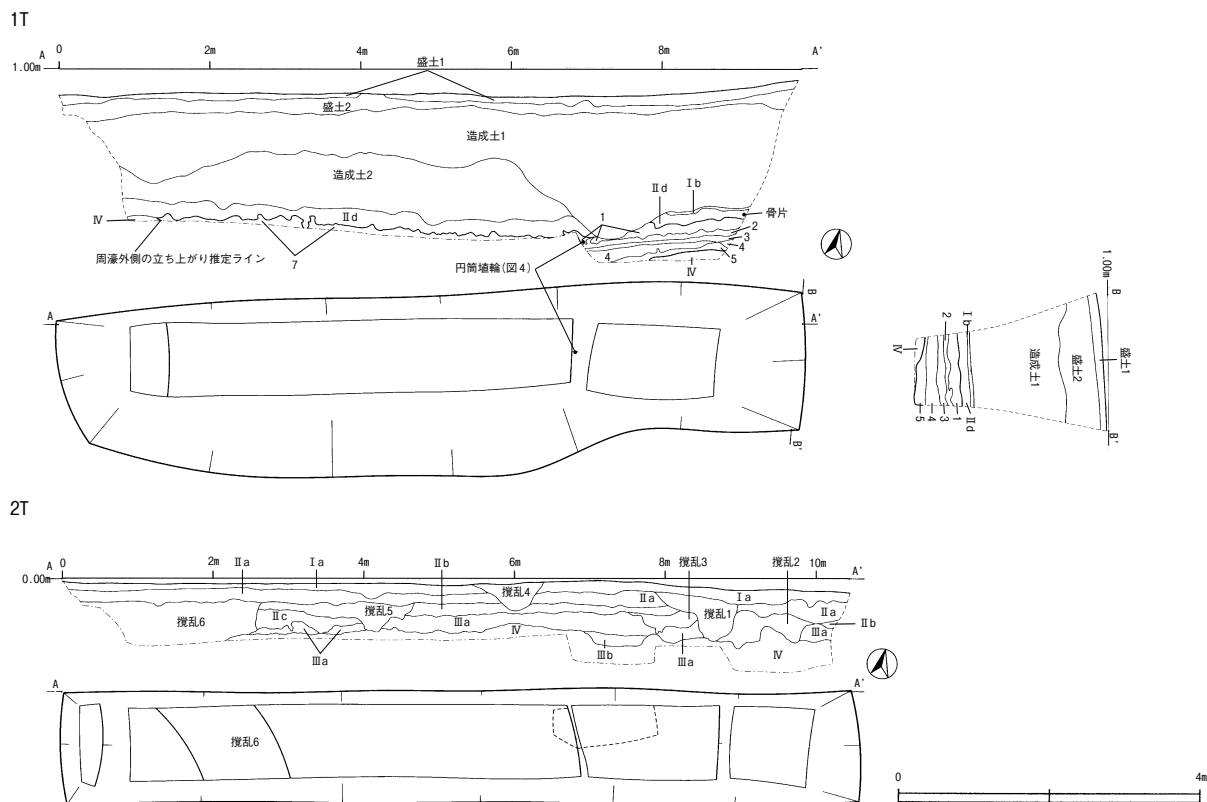


图3 平面图·断面图 (1/100)

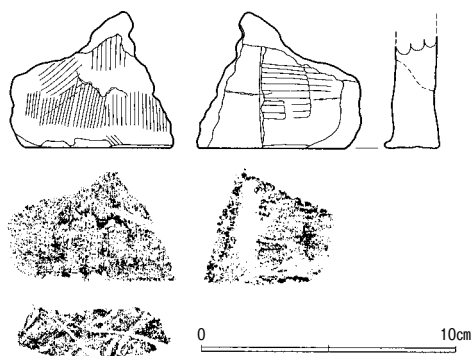


図4 遺物実測図(1/3)



1 T 埴輪出土状況（東から）



1 T 出土陶筒埴輪片 (外面)・骨片



1 T 出土円筒埴輪片（内面）

(5) 繁ノ木原遺跡 第1次調査 (2015161)

所在地 新潟市西蒲区打越字繁ノ木原甲179番 外

調査の原因 打越地区県営圃場整備事業（公共事業）

調査期間 平成27年10月26日～11月12日（11日間）

調査面積 約416㎡（調査対象面積1920,000㎡）

調査担当 朝岡政康

処 置 継続協議

調査に至る経緯 県営圃場整備事業（打越地区）に伴い、平成27年9月24日付で新潟県地域振興局より埋蔵文化財の調査依頼書が提出された。対象地区が192haと広大なことから、事業の進捗を考慮して今年度の試掘調査エリアを地区東側の一部に設定した。着手報告を10月22日付で提出し、埋蔵文化財の有無を調べるための試掘調査に着手した（第1次・2015161、図1）。

位置と環境 調査地は、中ノ口川左岸の打越集落が所在する自然堤防の東側である。昭和30年代後半に耕地整理が行われており、現地標高は1.6～3.3mを測る。この自然堤防上には打越館跡や宇智古志神社遺跡など中世の遺跡が所在するが、今回の調査対象地に周知の埋蔵文化財包蔵地は確認されていない。

概要と層序 67か所のトレンチを設定した（図2）。基本層序は、Ⅰ層：耕作土・床土、Ⅱa層：黄～灰黄褐色粘質シルト（砂質強・ラミナ状堆積）、Ⅱb層：黄灰～緑灰色シルト、Ⅲ層：灰色砂と灰黄褐色シルト混合層（ラミナ状堆積）、Ⅳ層：灰～青灰色砂（粗砂・川砂）、Ⅴ層：暗灰黄色シルト、Ⅵ層：黒色シルト（腐植質土層、いわゆるガツボ層）、Ⅶ層：褐灰色シルトである（図3）。Ⅰ層以下の層序は様々でトレンチ毎に一樣ではなく、各層は水平方向のラミナ状堆積が明瞭であった。深度約2.0mを目途に調査を行った。

検出遺構 遺構は検出されなかった。

出土遺物 38Tで地表面下約45cmのⅡb層から珠洲焼が1点出土し図化した（図4）。甕の体部片だが、小片のため詳細は不明瞭である。割れ口はいずれも新しい。

まとめ 調査結果を受け、「繁ノ木原遺跡」として新しく周知化された。調査地一帯は、腐植質土層の堆積やラミナ状堆積が明瞭な点から、氾濫原のような環境下で、洪水等の規模の大きな水流により堆積が進んだ場所と考える。今後、今回の結果を踏まえて示される圃場整備の具体的な計画を基に、遺跡に係る土木工事について引き続き協議を行うこととした。

（龍田優子）

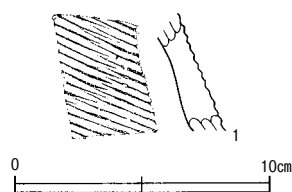


図4 遺物実測図（1/3）



図1 調査位置図（1/15,000）



図2 トレンチ位置図（1/1,000）



図3 土層柱状図（1/40）及び38T東壁土層断面（西から）

(6) 三王山遺跡 第17次調査 (2015232)

所在地 新潟市江南区所島一丁目800番 8

調査の原因 土地売却 (民間事業)

調査期間 平成28年2月8・9日 (2日間)

調査面積 9.0㎡ (調査対象面積264.62㎡)

調査担当 諫山えりか

処置 継続協議

調査に至る経緯 三王山遺跡は昭和48年に分布調査によって発見された遺跡である。これまでに3度の本発掘調査が行われている。

土地売買に伴い埋蔵文化財の状況を確認するため、発掘調査が依頼された (平成28年1月18付)。そのため、1月15日付で着手報告を提出し (新歴B第208号の3)、確認調査 (第17次・2015232) を実施した (図1)。

位置と環境 三王山遺跡は亀田砂丘 (新砂丘Ⅰ-Ⅰ列) の南側斜面及び裾部に立地する。遺跡の中央東寄りをJR信越本線が南北に貫く。遺跡面積の5割強を市立亀田中学校が占めている。調査地は遺跡範囲の南東端に位置する。現地標高は2.7m前後、現況は宅地である。

これまでの本発掘調査は、線路東側の宅地造成に伴う調査 (第1次・1979004) と線路西側の市立亀田中学校改築に伴う調査 (第4次・2007010、第7次・2008004) が行われている。出土遺物は中学校側では古代が主体、線路以東の宅地では中世が主体となる。

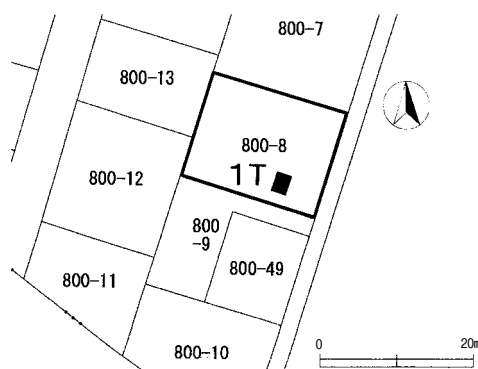


図2 トレンチ位置図 (1/1,000)



図1 調査位置図 (1/10,000)

概要と層序 トレンチを1か所設定した (図2)。基本層序はⅠa・Ⅰb層：盛土 (畑耕作土・造成土)、Ⅱ層：暗褐色シルト質粘土、Ⅲ層：灰色粘質シルト (遺物包含層)、Ⅳ層：灰褐色粘質シルト (遺構確認面) である (図3)。

検出遺構 Ⅳ層より直径20cmと直径30cmの小土坑2基を検出した。

出土遺物 Ⅲ層より須恵器の体部破片1点が出土した (図4)。外面は平行線文のタタキメで木目が彫り込みに対し直行する。内面は同心円文のあて具痕で木目が見られない。胎土は精良で焼成は堅緻である。

まとめ 平安時代の遺物包含層及び遺構確認面が良好に残っていることが確認されたため、土地売却後の開発には再度協議が必要である。 (相澤裕子)

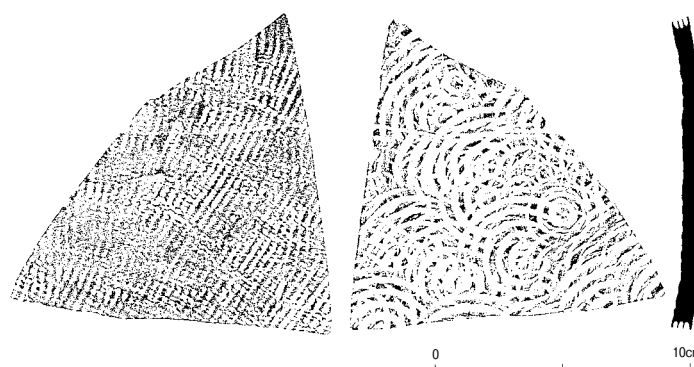


図4 遺物実測図 (1/3)

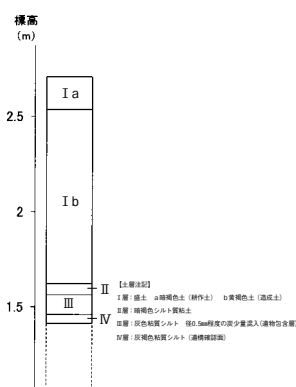
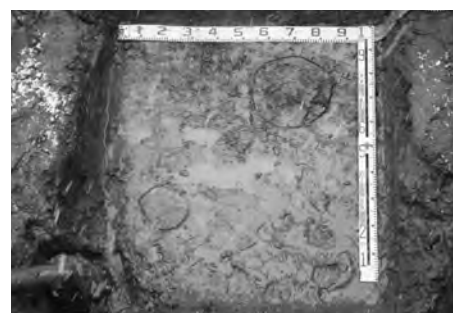


図3 土層柱状図 (1/40)



1 T 南壁土層堆積状況 (北から)



1 T 遺構検出状況 (北から)

(7) 近世新潟町跡第23・24・27次調査 (2015116・2015140・2015148・2015240)

A 近世新潟町跡の周知化と取扱い

新潟町は日本海有数の湊町である。17世紀半ばに現在の信濃川左岸の河口付近へ移転し、その後拡大しながら現在に至るが、その移転当初の町を「近世新潟町跡」としている。

現在、近世新潟町跡の周知化は、試掘調査によって江戸時代の土層が確認された地点について行っている。平成27年度末で周知化された地点は18か所である。

B 平成27年度の試掘・確認調査

平成27年度に実施された試掘・確認調査は、公共事業に伴うものが2件、民間事業に伴うものが3件である。このうち、江戸時代の遺物包含層が確認され周知化を行ったのは3件である。

(a) 古町通 5 番町昭和和道地点試掘調査

第23次調査 (2015116) (図2～4・8)

所在地 新潟市中央区古町通五番町 外

調査の原因 下水道敷設 (公共事業)

調査期間 平成27年7月27～30日 (4日間)

調査面積 5.28㎡ (調査対象面積705.37㎡)

調査担当 諫山えりか

処置 工事立会

調査概要 下水道敷設に伴い、幅1.1m、延長192.2m、最大掘削深さ1.8mでの掘削が行われることとなった。そこで、推定地内の状況を確認するために試掘調査 (第23次・2015116) を行った。調査地は現況が道路である。しかし、江戸時代の町建て当初は地割されており、その後昭和14年頃に道路となった。このため通称「昭和和道」と呼ばれている。調査では道路上にトレンチを2か所設定した (図2)。狭小地の為、四方を矢板で囲い調査を行った。概ね地表下0.8～1.0mまでは、近代以降の層で、その下に江戸時代の遺跡が確認された (図3・4)。1 Tでは地表下1.8mで土留めと見られる板材と杭が確認された。この土留めの東側が屋敷地であると考えられる。板の上部からは18世紀後半の陶磁器が見つかった。2 Tでは地表下0.8mのところで、木枠状の遺構及び東西に仕切るように設置された板材が見つかった。遺物は、18世紀から19世紀のものが多く一部を図化した (図8)。産地不明の鉄釉の灰落とし (1) や肥前磁器の段重 (2)、戸車 (3)、仏飯器 (4) が出土している。また石製品として硯 (22) が出土している。この硯は両面共に使用されており「又市」の刻字が見られる。使用者の名であろう。

当該地は18世紀代江戸期の遺物包含層が残っていることが確認されたことから、近世新潟町跡の範囲として周



図1 調査位置図 (1/15,000)

知化された。調査結果により、工事の内容を開削工法から推進工法へと変更し平成29年度に着工することとなった。着工時には工事立会で対応する。

(b) 古町通 6 番町978-1 地点試掘調査・工事立会

第24次調査 (2015140・2015148) (図5・8・9)

所在地 新潟市中央区古町通六番町978番 1

調査の原因 店舗建設 (民間事業)

調査期間 平成27年7月16日 (2015140)、

8月24日～10月1日 (工事立会・2014148)

調査面積 21㎡ (調査対象面積400㎡)

調査担当 諫山えりか

処置 工事立会

調査概要 店舗 (ビル) 建設計画に先立ち、推定地内の状況を確認するための試掘調査 (第24次・2015140) を行った。調査地内にトレンチを2か所設定して (図5)、試掘を行った所、概ね地表下1.5mの層から17世紀末から18世紀の遺物が出土した。このため、当該地を近世新潟町跡の範囲として周知化した。工事はビル (約100㎡) 建設範囲に鋼管杭 (直径約40cm、長さ18m) を30本打ち、地中梁 (最大幅50cm) を伏せる内容であり、遺跡への影響が少ないと判断されたため、工事立会とした (2014148)。そして、8月24日から10月1日にかけて工事立会を行った。この工事立会において、コンテナ30箱程度の近世陶磁器等が出土した。図示した遺物は全てこの工事立会時に出土したものである (図8・9)。陶磁器と石製品・木製品・金属製品が出土している。特筆すべき遺物としては、肥前の有田で生産された鶏形の水滴 (14) がある。色絵の製品で上手と言える。木製品では円形底板 (25)、板状木製品 (26) がある。どちらも墨書で文字が書かれているが、断片的で判読できない。金属製品では青銅の手鏡 (28) が出土した。柄が欠損しているが、残存状態も良く銘や模様がはっきりと残る。銘の「藤原金次」は江戸



図2 第23次調査トレンチ位置図 (1/2,500)

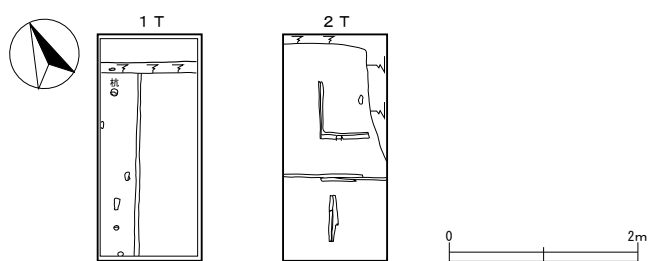


図3 第23次調査トレンチ平面図 (1/80)

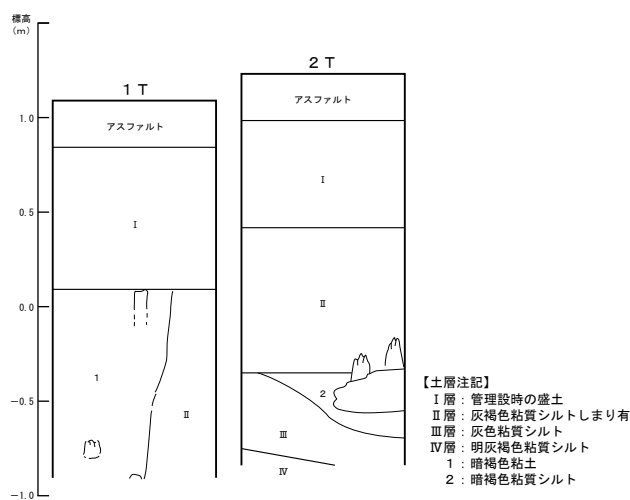


図4 第23次調査土層柱状図 (1/40)

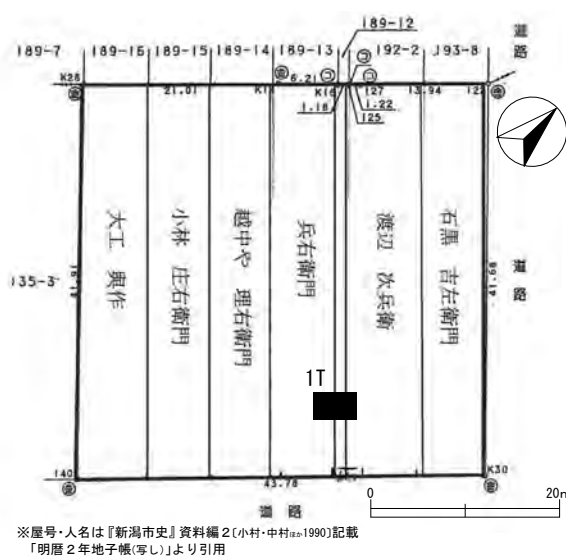


図6 第27次調査トレンチ位置図 (1/800)

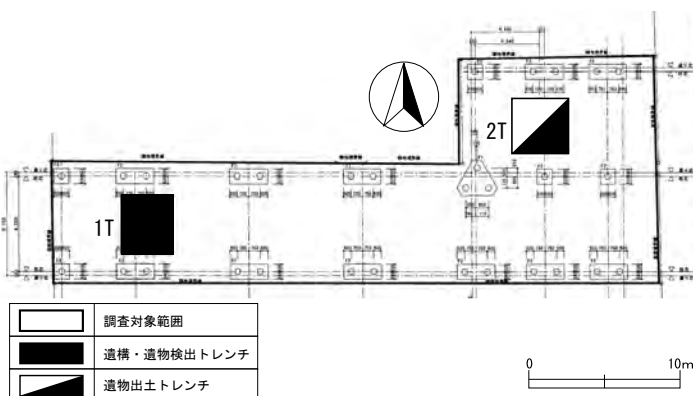


図5 第24次調査トレンチ位置図 (1/500)

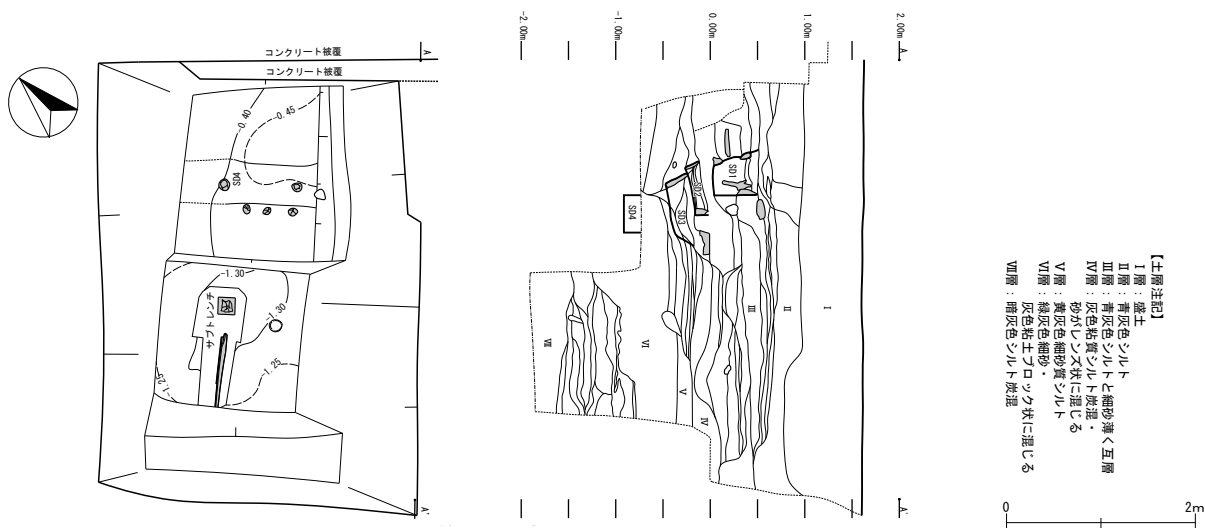
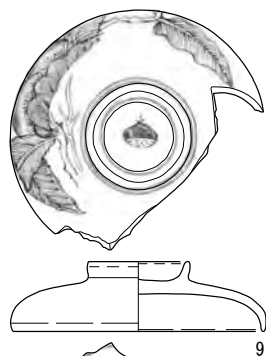
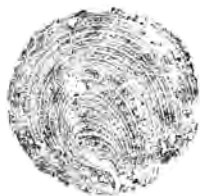
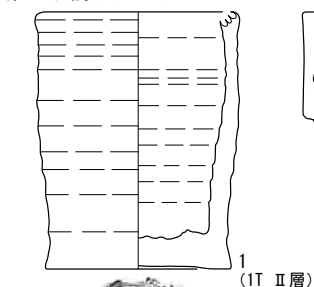
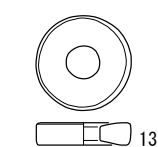
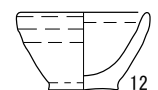
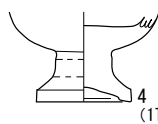
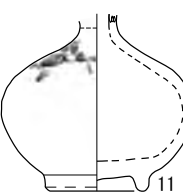
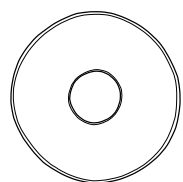
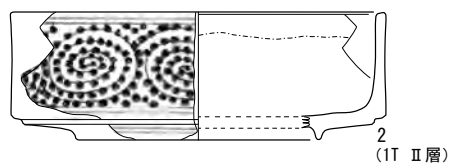
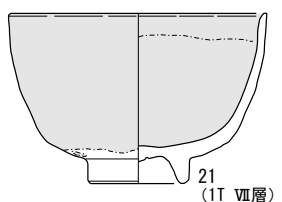
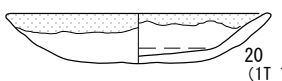
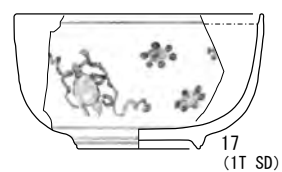


図7 第27次調査トレンチ平面図・断面図 (1/80)

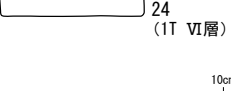
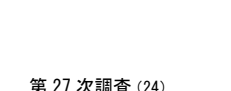
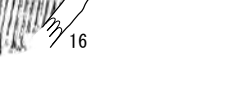
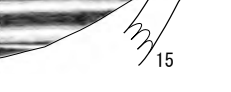
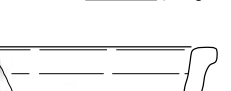
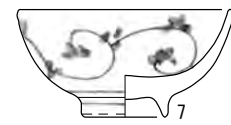
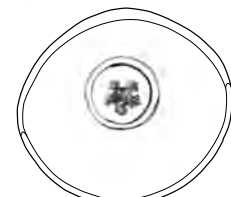
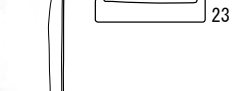
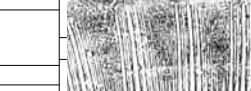
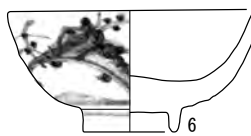
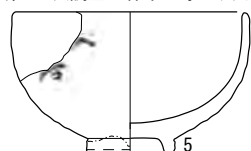
第23次調査(1~4)



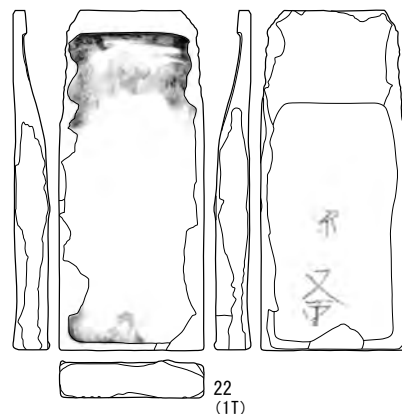
第27次調査(17~21)



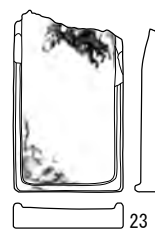
第24次調査に伴う工事立会(5~16)



石製品 第23次調査(22)



第24次調査(23)



第27次調査(24)

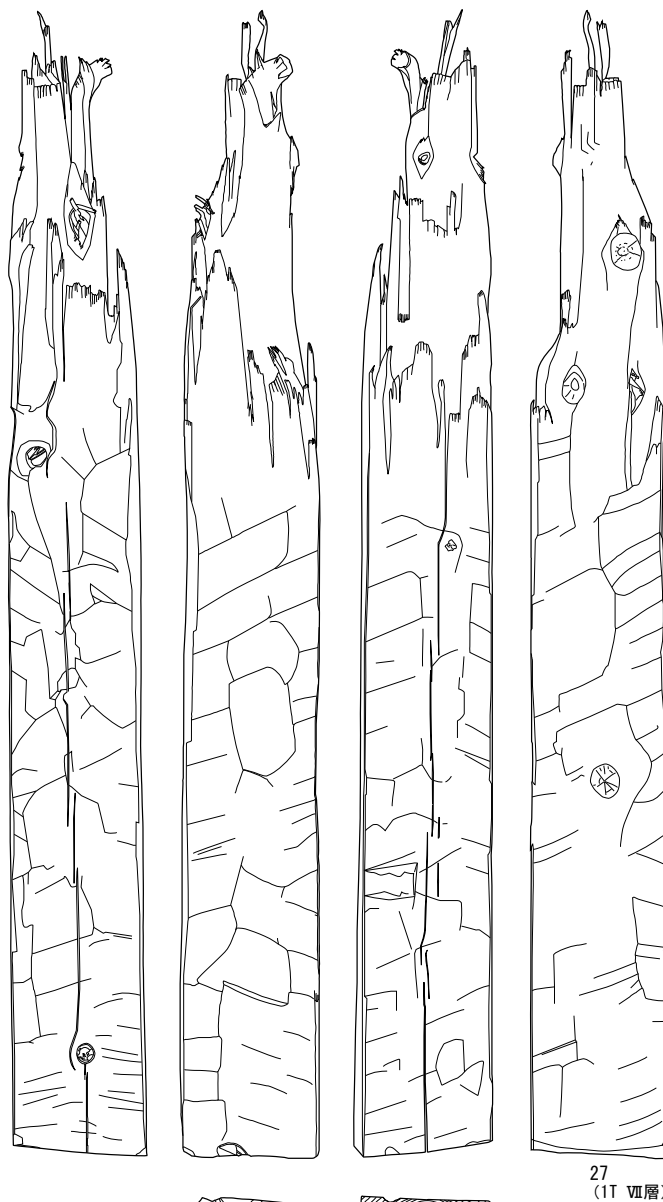
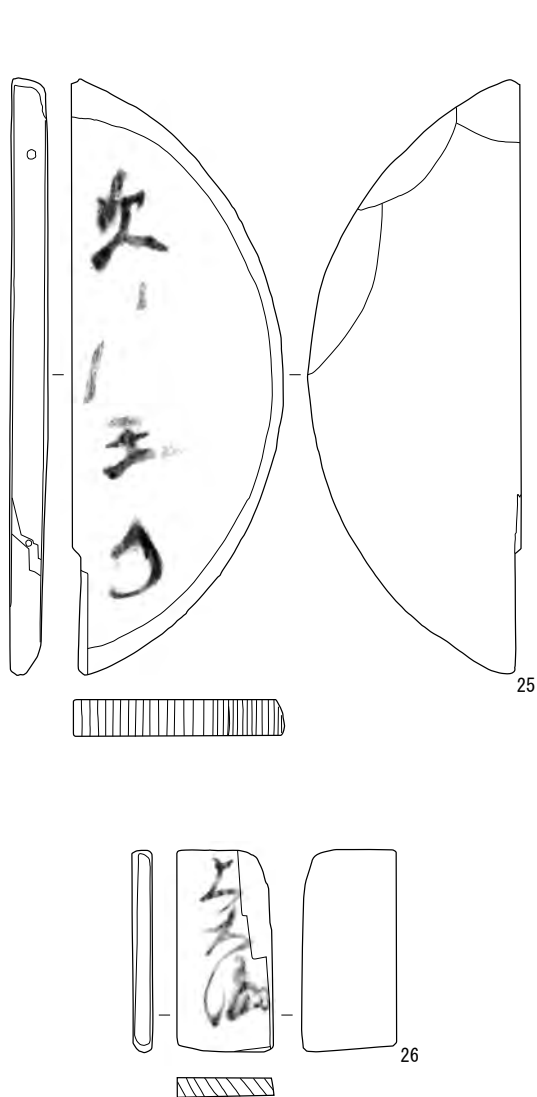


炭化物

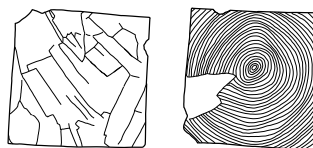
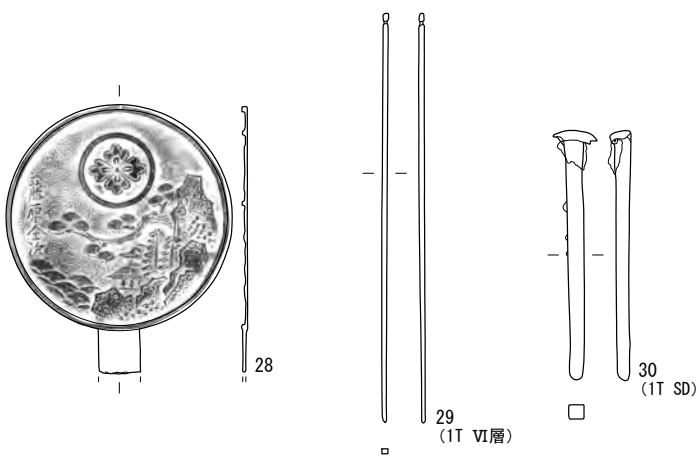
青磁釉

図8 遺物実測図(1/3)

0 10cm

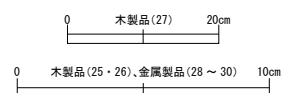


金属製品 第24次調査に伴う工事立会 (28)、第27次調査 (29・30)



27
(1T VII層)

図9 遺物実測図 (1/3・1/10)



時代後期の鏡師である。

(c) 上大川通 2 番町135番地 1 地点試掘調査

第27次調査 (2015240) (図 6～9)

所在地 新潟市中央区上大川前通二番町135番 1

調査の原因 市有地売却 (公共事業)

調査期間 平成27年 3 月 9～11日 (3 日間)

調査面積 14.85㎡ (調査対象面積1824.74㎡)

調査担当 諫山えりか

処 置 工事立会

調査概要 市有地の競売に伴い事前に試掘調査(第27次・2015240)を実施した。調査地は、江戸時代には信濃川の川岸に近く、明暦 2 (1656) 年の新潟町地子帳によると東一之町東側にあたり、東から石黒吉左衛門、渡辺次兵衛、間口一間の小路を挟んで兵右衛門、越中や理右衛門、小林庄右衛門、大工與作と間口四間の屋敷地が 6 軒あった。この小路のある場所にかかるようトレンチを 1 か所設定した (図 6)。地表下 1.5m までは概ね近代の層であるが、その下には江戸時代の層が良好に残っていた (図 7)。



第24次調査 1 T 西壁土層堆積状況 (東から)

特に小路と予測した部分には江戸時代から近代まで同じ場所に 4 回溝を作り替えた痕跡が認められた。近世新潟町の町割り近代まで踏襲されている証左と言えよう。またこの溝の南側では 18cm 角 (6 寸) の柱が出土した (図 9-27)。上部が欠損しており残存する長さは 1.5m であった。柱の底部は地表下 4 m (標高 -2.0m) にもなり、柱の底部付近からは 1630～1640 年代の青磁碗 (図 8-21) が出土しており、町建て当初からこの場所に人が居住していたことが窺われる。

遺構・遺物共に良好に残っていることから近世新潟町跡の範囲として周知化された。調査後は、建物解体時に工事立会をし、遺跡であることを前提に入札することになった。

なお一部の陶磁器については大橋康二氏 (佐賀県立九州陶磁文化館)、相羽重徳氏 (佐渡市世界遺産推進課) より御教示いただいた。遺物の産地・年代観に係る責任は全て筆者にある。 (今井さやか)



第27次調査 1 T 溝検出状況 (北西から)

表 1 土器・陶磁器観察表

第23・27次調査、第24次調査に伴う工事立会

掲載 No.	出土位置			種 別	器 種	産 地	年 代	法量 (cm)			器形・調整・文様・釉薬等
	調査回数	トレンチ	層 位					口 径	底 径	高	
1	23次	1T	Ⅱ	陶器	灰赤土	不明	18世紀後半	7.6	7.4	10.3	鉄軸 底部：回転糸切り 口縁部全周に銀打痕
2	23次	1T	Ⅱ	磁器	段重	肥前	19世紀	15.0	9.6	5.0	染付 外：唐草文
3	23次	1T	Ⅱ	磁器	戸車	肥前	18世紀	6.8	2.0	1.7	透明釉
4	23次	1T	Ⅱ	磁器	仏教器	肥前	18世紀	-	3.8	(3.7)	透明釉
5	24次立会		GL-15	陶器	碗	肥前	18世紀前半	9.2	3.4	5.6	灰釉 鉄軸で山水文 京焼風
6	24次立会		GL-15	磁器	碗 (波佐見)	肥前	18世紀前半	10.1	3.8	4.9	染付 外：草花文 鉢：大
7	24次立会		GL-15	磁器	碗 (波佐見)	肥前	18世紀前半	8.6	3.2	4.3	染付 内：見込みコンニャク印判五弁花 外：唐草文
8	24次立会		GL-15	陶器	輪花皿	瀬戸	17世紀	7.0	3.1	1.6	灰釉
9	24次立会		GL-15	磁器	蓋	肥前	18世紀後半	10.0	-	2.8	染付 内：四方博文 葉文 外：葉文 望料形
10	24次立会		GL-15	磁器	紅皿	肥前	18世紀	6.6	2.5	3.1	染付 外：唐文
11	24次立会		GL-10	磁器	油壺	肥前	18世紀前半	-	3.8	(7.0)	染付 外：唐草文
12	24次立会		GL-10	陶器	るつぼ?	不明	5.1	2.8	3.1	無釉焼き締めか 底部：回転糸切り 内部に鉄線の織着物あり	
13	24次立会		GL-10	磁器	戸車	肥前	18世紀	3.8	1.3	0.9	透明釉
14	24次立会		GL-17	磁器	水滴	肥前 (有田)	17世紀末	(4.6)	(3.3)	(5.3)	色絵 外：菊形 型押成形
15	24次立会		GL-21	陶器	甕	肥前	17世紀後半	20.0	-	(18.8)	二彩手
16	24次立会		GL-10	陶器	指鉢	肥前	18世紀	34.6	-	(10.0)	鉄軸
17	27次	1T	SD	磁器	蓋付碗	肥前	18世紀	10.0	4.9	5.4	染付 外：花文 菱文 焼成不良
18	27次	1T	Ⅵ	陶器	碗	肥前	17世紀末	-	4.5	(1.2)	灰釉 見込みに供須で柳 高台内全面施釉
19	27次	1T	Ⅵ	磁器	碗	肥前 (有田)	1660～1670年	9.4	-	(5.8)	染付 外：松葉文 吹墨 漆継ぎ痕
20	27次	1T	Ⅵ	土器	灯明皿	不明	10.3	3.2	2.0	手づくね 口縁内外面にターム付着	
21	27次	1T	Ⅵ	磁器	碗 (波佐見)	肥前	1630～1640年	10.2	3.7	6.8	青釉 高台無釉

※法量の () は残存値である。以下表2～4も同様である。

表 2 石製品観察表

第23・27次調査、第24次調査に伴う工事立会

掲載 No.	出土位置			器 種	法量				加工痕・調整
	調査回数	トレンチ	層 位		長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)	
22	23次	1T	GL-1.8	硯	137	5.8	1.5	197.3	「又市」の刻字あり 近江高島硯
23	24次立会	GL-1.0	硯		(7.5)	4.4	1.0	60.6	近江高島硯
24	27次	1T	Ⅵ	硯	121	6.0	1.6	162.0	

表 3 木製品観察表

第24次調査に伴う工事立会、第27次調査

掲載 No.	出土位置			種 別	器 種	法量			木取り	加工痕・調整
	調査回数	トレンチ	層 位			長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)		
25	24次立会		排土	容器	円形底板	(23.8)	(8.5)	1.5	板目	黒痕あり文字判読不能
26	24次立会			木簡	木簡	(8.1)	(3.8)	0.8	流れ紐目	黒痕あり文字判読不能
27	27次	1T	Ⅵ層	建築材	柱	(148.0)	18.0	18.0	芯持ち	新痕あり 6寸柱

表 4 金属製品観察表

第24次調査に伴う工事立会、第27次調査

掲載 No.	出土位置			種 別	器 種	法量			加工痕・調整
	調査回数	トレンチ	層 位			長さ (cm)	幅 (cm)	重量 (g)	
28	24次立会		GL-21	青銅製品	手鏡	(10.8)	9.0	0.2	70.9 鋳：磨研金次 磨花葉文
29	27次	1T	Ⅵ層	青銅製品	簪	(16.4)	0.2	0.2	5.5
30	27次	1T	SD	鉄製品	釘	10.0	0.6	0.6	19.1

Ⅲ 文化財センターの事業

1 本発掘調査の概要

(1) 本発掘調査について

試掘・確認調査で埋蔵文化財が確認され、その埋蔵文化財が土木工事等により破壊される等、現状保存が不可能な場合、記録による保存を目的とした本発掘調査を実施する。本発掘調査は報告書の刊行をもって完了とする。

新潟市では、『法』第94条に係るものについては、文化庁の示した標準（『埋蔵文化財の保護と発掘調査の円滑化について（通知）』（平成10年9月29日付庁保記第75号 各都道府県教育委員会教育長宛文化庁次長通知））及びそれを受けて細目を設定した新潟県教育委員会の基準（『発掘調査の要否等の判断基準』（平成11年9月10日付教文第578号））に即して取扱いに関する意見を付して副申している。一方、『法』第93条に係るものについては、新潟市が定めた『新潟市埋蔵文化財事務取扱要綱』（平成19年4月1日施行）に則して判断している。

試掘・確認調査で遺跡の内容を十分に把握した後、本発掘調査が必要な場合も最小限の規模を目指して開発事業者等と遺跡の取扱いについて協議している。しかし民間の宅地開発事業における道路部分（私道は含まれない）や、公共事業でも道路や大規模な圃場整備等では開発事業内容を変更し遺跡の現状保存を図ることが困難であり、本発掘調査を実施するケースが多い。

本発掘調査実施は、『法』第99条により、新潟市教育委員会が直営の体制で対応している。新潟市では、歴史文化課が教育委員会事務を補助執行をしており、歴史文化課が本発掘調査に係る全体協議を、文化財センターが本発掘調査を担当している。しかし、調査の件数・規模に対し、現体制では調査担当はもちろん、その下に入る調査員となる市職員も人数が限られる。また、現場作業と並行して整理・報告書作成作業も進める必要があるため、安定的に本発掘調査を行い、完了できるようにし

ていかなければならない。解決手段の一つとして、民間調査組織の適切な導入と監理体制の構築が挙げられる。

(2) 平成27年度の本発掘調査

表1に示した通り、3遺跡で本発掘調査を行った。

公共事業である圃場整備関係で2件、民間事業である宅地造成関係の1件である。

秋葉区両新地区圃場整備事業に係る細池寺道上遺跡の調査面積が約8,712.9㎡で、西蒲区巻東町地区圃場整備事業に係る島灘瀬遺跡の調査面積が59.9㎡、秋葉区古津の宅地造成に係る舟戸遺跡の調査面積が905.7㎡（上層684.9㎡、下層220.8㎡）であった。（朝岡政康）

(3) 平成27年度の本発掘調査現地説明会

平成27年度は舟戸遺跡と細池寺道上遺跡で現地説明会を開催した（表2）。いずれも100名を超える参加者があり、市民の現地説明会への関心の高さが窺える。なお、島灘瀬遺跡については面積が狭小のため現地説明会は行わなかった。（今井さやか）



現地説明会風景（細池寺道上遺跡第46次調査）

表2 平成27年度発掘調査現地説明会参加者数

開催日	遺跡名	参加者数（人）
2015/9/6（日）	舟戸遺跡	101
2015/10/17（土）	細池寺道上遺跡	102

表1 平成27年度本発掘調査一覧（調査番号順）

調査番号	遺跡名	調査回数（次）	発掘調査面積（㎡）	調査地	調査の原因	調査担当	調査員	発掘調査期間	遺跡の時代	主な遺構	主な遺物
2015001	舟戸遺跡	25	905.7 上層：684.9 下層：220.8	秋葉区古津 字北郷2157番2 外	宅地造成	金田拓也	—	7/6～9/19	弥生・古墳・古代	上層（弥生）：土坑・性格不明遺構・小土坑 下層（縄文）：性格不明遺構・小土坑	上層（弥生）：弥生土器・石器・石製品・木製品 下層（縄文）：縄文土器・石器・石製品・木製品等
2015002	細池寺道上遺跡	46	8,712.9	秋葉区東金沢 字家浦79番 外	圃場整備	立木宏明	奈良佳子、 細野高伯・石川博行・ 重留康宏・吉澤 学・ 北村和穂・松井 智 （㈱シン技術コンサル）	7/27～2/29	古代・中世	掘立柱建物・櫓列・井戸・ 土坑・溝・道路状遺構・ 畑跡等	土師器・須恵器・ 中世陶磁器（珠洲焼）・ 石製品・鉄製品等
2015003	島灘瀬遺跡	5	59.9	西蒲区巻東町 字小寺湯	圃場整備	遠藤恭雄	脇本博康 （㈱吉田建設）	11/20～12/24	古墳・古代	土坑・溝等	土師器（古墳・古代）・ 石製品等

2 平成27年度の本発掘調査

平成27年度本発掘調査の概要を次項より記す。概要は、調査番号順である。概要掲載遺跡の位置を図1、一覧を表3に、試掘・確認調査の概要掲載遺跡と併せて示

した。各項題は、調査名であり、末尾括弧内は調査番号である。

各項の図1「調査位置図」は、国土基本図（2,500分の1）を基に作成しており、地図の上位が北である。

（金田拓也）



図1 平成27年度概要掲載発掘調査位置図（1/300,000）

表3 平成27年度概要掲載発掘調査一覧

平成27年度事前審査に係る試掘・確認調査及び工事立会

遺跡番号	遺跡名	調査回数（次）	調査番号	位置番号 （図1）	掲載頁
362	山ノ家遺跡	6	2015105	1	7
218	森田遺跡	6	2015124	2	9
769	上郷北遺跡	1	2015143	3	10
767	牡丹山諏訪神社 古墳	4	2015157	4	11
771	繁ノ木原遺跡	1	2015161	5	14
419	三王山遺跡	17	2015232	6	15
575	近世新潟町跡	23・24・27	2015116・ 2015140・ 2015148・ 2015240	7	16

平成27年度本発掘調査

遺跡番号	遺跡名	調査回数（次）	調査番号	位置番号 （図1）	掲載頁
132	舟戸遺跡	25	2015001	8	24
151	細池寺道上遺跡	46	2015002	9	25
623	烏瀬瀬遺跡	5	2015003	10	26



本発掘調査風景（舟戸遺跡第25次調査）

(1) 舟戸遺跡 第25次調査 (2015001)

所在地 新潟市秋葉区古津字北郷2157番2 外

調査の原因 宅地造成 (民間事業)

調査期間 平成27年7月6日～9月19日

調査面積 905.7㎡

調査担当 金田拓也

処置 記録保存

調査に至る経緯 宅地造成工事に伴い、平成26年度に確認調査(第24次・2014173)を実施した。その結果、遺跡の残存が確認されたため、工事に際しては遺跡範囲内の市道及び区画道路、擁壁基礎の範囲について本発掘調査が必要と判断された。そこで、事業者より『法』第93条の通知が提出され(平成27年4月30日付)、平成27年7月1日付新歴F第20号の8で着手報告を提出し、本発掘調査を実施した(図1)。

位置と環境 舟戸遺跡は新津丘陵北西側の金津川によって形成された扇状地及び自然堤防、後背湿地に立地している。調査地は遺跡範囲の南端に位置し、現地標高は5m前後である。調査地は近世以降水田(一部畑)として利用され、工事予定地として取得した後は荒地だった。

これまでの調査で、弥生時代から近世まで各時代の遺構や遺物が重層的に確認され、特に弥生・古墳時代の遺構や遺物が豊富に認められる。また、舟戸遺跡が所在する扇状地には塩辛遺跡等の同時期の遺跡が複数近接して存在しており、近似した性格の遺跡と評価できる。さらに、舟戸遺跡には新潟県最大の古津八幡山古墳を築造した豪族が暮らしていたと考えられる。

概要と層序 基本層序は大きく13の層に分かれ、その中で弥生時代の上層(遺物包含層:Ⅷ・Ⅸ層、遺構確認面:X層)と縄文時代の下層(遺物包含層:XⅠ層、遺構確認面:XⅡ層)が確認されている。

検出遺構 上層は土坑3基、性格不明遺構1基、小土坑36基が検出された。遺構の分布密度は薄く、集落の中心から外れていると考えられる。

下層は性格不明遺構3基、小土坑66基が検出された。上層同様に分布密度は薄く、集落の可能性は低い。むしろ近隣の丘陵上の集落に暮らす人々が活動した痕跡と考えられる。

出土遺物 上層は弥生土器138点(破片数)、石器・石製品1点、木製品1点が出土した。遺構からは木製品の杭だけが出土し、弥生土器と石器・石製品は遺物包含層からの出土である。弥生土器は中期後半から後期にかけての時期のものと考えられ、後期が主体である。

下層は縄文土器34点(破片数)、石器・石製品2点、木製品2点が出土した。全て遺物包含層からの出土であ



図1 調査位置図(1/10,000)



調査区遠景(北東から)



Ⅶ層弥生土器一括出土状況(南西から)

る。縄文土器は粗製の深鉢が2ないし3個体と考えられ、後期前半の可能性が高い。

まとめ 今回の発掘調査では舟戸遺跡で初めて縄文時代の遺物が確認された。また、弥生時代についてもこれまで希薄だった中期後半の土器が改めて確認でき、遺構・遺物ともに検出量や出土量は多くないが、舟戸遺跡を理解する上で重要な成果となった。

なお、第25次調査の報告書は、平成28年度に刊行した〔金田・早田2017〕。
(金田拓也)

(2) ^{ほそいけてらみちうえ}細池寺道上遺跡 第46次調査 (2015002)

所在地 新潟市秋葉区東金沢字家浦90番 外

調査の原因 両新地区圃場整備事業 (公共事業)

調査期間 平成27年7月27日～平成28年2月29日

調査面積 8712.88㎡

調査担当 立木宏明

調査員 奈良佳子、

細野高伯・石川博行・重留康宏・

吉澤 学・北村和穂・松井 智

(株)シン技術コンサル)

処 置 記録保存

調査に至る経緯 新潟県地域振興局から平成27年6月11日付で本発掘調査の依頼文書が提出され、これを受けて圃場整備工事により保護層(20cm)が確保できない範囲を対象とした調査を、平成27年7月27日付で報告し、本発掘調査を実施した(図1)。

位置と環境 細池寺道上遺跡は、新津丘陵の東側を流れる能代川と阿賀野川に挟まれた沖積地に立地する古代から近世の遺跡である。遺跡の広がりには南北1.7km・東西1.2kmにおよぶ。現地表面標高は9～10mである。

これまでに複数回の調査が行われており、古代・中世の遺物やそれらと同時代と考えられる遺構が確認されている〔前山2014ほか〕。

検出遺構 掘立柱建物20棟、井戸4基、土坑80基、溝95条、道路状遺構3か所等に代表される計3,598の遺構が検出された。

古代の遺構としては土坑・溝・畑が確認された。土坑中からは土師器無台碗・長甕等がまとまって出土した。

中世の遺構としては掘立柱建物が3棟確認され、その他に井戸・土坑・溝・道路状遺構・畑等が確認された。道路状遺構は南北長さ100mにわたって検出され、道路両脇に側溝が掘られている。複数回の道路補修に伴う側溝付替え工事が行われており、最大道路幅は約7mである。

近世では古代・中世の遺構を切る形で、17世紀後半から18世紀前半の遺構が確認された。調査区南側から、北西側の薬研状堀と北東側の道路状遺構に囲われた方形区画の中に1間×3間以上の両廂の大形建物を持つ屋敷地が確認された。

出土遺物 今回の本発掘調査では、コンテナ102箱を数え、古代では9世紀代の須恵器無台碗・大甕、土師器無台碗・長甕等が出土した。

中世では13～14世紀代の珠洲焼大甕・片口鉢、青磁碗が出土した。近世では16世紀後半から18世紀前半の肥前系の陶磁器が主に出土した。その他に鉄釘等の鉄製品



図1 調査位置図 (1/10,000)



調査区遠景 (北西から)



道路状遺構3703全景 (北東から)

や砥石・磨石等の石製品が出土した。

まとめ 平安時代から江戸時代を通じて集落・生産域であったと判断される。中世においては集落間を結ぶ重要な幹線道路とその周辺の集落と考えられる。

報告書は平成29年度以降に刊行予定である。

(立木宏明)

(3) ^{しまなだ せ}島灘瀬遺跡 第5次調査 (2015003)

所在地 新潟市西蒲区巻東町字小寺潟

調査の原因 巻東町地区県営圃場整備事業

調査期間 平成27年11月20日～12月24日

調査面積 59.9㎡

調査担当 遠藤恭雄

調査員 脇本博康 (㈱吉田建設)

処置 記録保存

調査に至る経緯 島灘瀬遺跡は昭和54年の分布調査を契機に古墳時代の遺跡として登録された。その後、平成22・23・26・27年度に県営圃場整備事業巻東町地区の計画に伴って試掘・確認調査が行われた。全部で363か所の試掘を行った結果、主に平安時代の遺構・遺物が出土した。この調査結果から、現在の巻東町集落から旧鎧潟方面に向かう南北約350m、東西約500mの範囲を遺跡としている。この遺跡内の用排水路新設工事を行う幅2.5m、延長22.5mの範囲で本発掘調査が必要と判断した。

圃場整備工事に先立って新潟県新潟地域振興局から平成27年9月11日付で本発掘調査の依頼文書が提出され、平成27年11月18日付で報告し、調査を実施した(図1)。

位置と環境 遺跡は、西川と中ノ口川に挟まれた低地の自然堤防上に立地している。角田山東麓から約7.5kmの距離にあり、調査地の北西約1kmには、昭和40年代初頭まで鎧潟が広がっていた。現在、潟は干拓されて水田になっており、現地の標高は約1.3mである。

概要と層序 基本層序は3層に分けられる。Ⅰ層は農道盛土層及び旧水田耕作土層で、層厚50cmほどである。Ⅱ層黒褐色土は中央の一部のみに残存し、確認調査で遺物が出土している。Ⅲ層の灰オリーブ色～灰色シルト層が基盤層で上面が遺構確認面である。

検出遺構 溝2条、土坑4基が確認された。溝のうち1条と調査区中央部の高くなった部分は、昭和30年代に圃場整備が行われるまで存在した水路と道路にあたる部分で、昭和23年に米軍が撮影した航空写真で状況が確認できる。調査区中央から南寄りのやや低い部分を中心に分布する4基の土坑は、いずれも浅い皿状に掘り込まれており、炭化物を多く含む。

出土遺物 非ロクロ成形の土師器甕のほか、杯や高杯が出土した。8世紀代を主体とすると考えられる。

まとめ 今回の調査区は狭小で、住居跡は未検出であるが、遺構・遺物に一定のまとまりを有することから、居住域の一部と考えられる。島灘瀬遺跡周辺では、春日編年Ⅱ～Ⅲ期(7世紀後葉～8世紀前葉)に遺跡数が増加することが指摘されており〔春日2014〕、近年、追認するように下新田遺跡〔龍田・長澤ほか2015〕等同期の調査

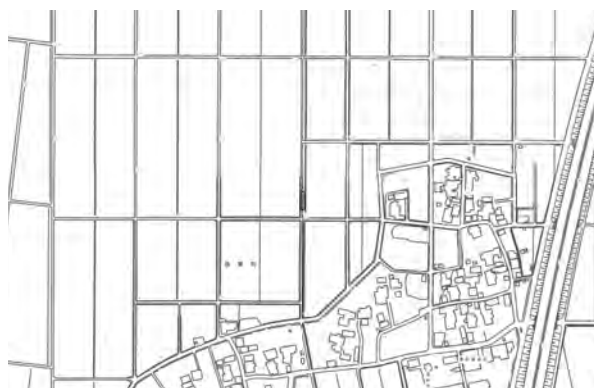


図1 調査位置図(1/10,000)



調査区遠景(東から)



SK 4遺物出土状況(西から)



出土遺物

成果が示されている。島灘瀬遺跡もこうした遺跡数増加の動きに連動した集落の様相を示す一例といえよう。

なお、第3次調査の報告書は、平成28年度に刊行した〔遠藤・脇本ほか2016〕。

(遠藤恭雄)

3 整理作業の概要

平成27年度に文化財センターが実施した発掘調査等整理作業の一覧を調査番号順に表4に示した。整理作業のうち、主要なものについて以下に記述する。

(1) 試掘・確認調査、工事立会、本発掘調査の再整理事業

平成27年度の試掘・確認調査、工事立会に伴う遺物について収蔵のための再整理を行い、コンテナ約40箱を収蔵した。

試掘・確認調査、工事立会は歴史文化課で実施し、出土遺物については文化財センターで水洗・注記・収蔵作業を行っている。

報告書刊行済みの調査資料については、接着剤や充填材の経年劣化により破損した資料の再接合等を適宜行っている。

平成24年度より実施している馬場屋敷遺跡等再整理では、前年度に引き続き下層出土の木製品実測図のトレース作業を進めた。また、馬場屋敷遺跡出土の陶磁器についてデジタルトレースを業者に委託した。(相澤裕子)

(2) 細池寺道上遺跡第29・31・32・38・41・44・46次調査の整理作業

整理作業の概要 細池寺道上遺跡は、県営圃場整備事業に伴い、平成19年度から毎年本発掘調査を行っている。南北1.8km、東西1.1kmに及ぶ広大な範囲内を継続して発掘調査することで、新津丘陵と阿賀野川に挟まれた沖積地における古代から中世の様相が明らかになってきている。

平成20年度調査分までは『細池寺道上遺跡Ⅱ』〔潮田2014〕『同Ⅲ』〔立木・相澤(高野)ほか2014〕として報告書を刊行済みである。平成21・22年度調査の報告は一冊に

まとめて刊行する計画で、平成27年度は金属製品の実測図作成、及び外部(㈲不二出版)委託して土器・土製品の実測図デジタルトレース、同図版作成を行った。

平成23～25年度調査は、同じく圃場整備に伴って平成24年度に発掘調査した西江浦遺跡第6次調査もあわせて一冊の報告書として刊行する計画のもと、平成26年度に報告書編集作業までを終了していたため、平成27年度は報告書の印刷に関わる校正作業を行い、『細池寺道上遺跡Ⅴ 第32・38・41次調査 西江浦遺跡第6次調査』〔立木・細井ほか2015〕として9月に印刷・刊行した。

平成26年度調査分は、現場作業と並行して遺構図面校正、遺物水洗・注記、分類・集計を進めており、今年度は遺物実測図作成、遺物写真撮影、図版作成、観察表作成、報告書原稿編集までを外部に委託して行った。そのうち遺物実測図デジタルトレース・図版編集・本文編集作業を㈲不二出版に、それ以外の作業を㈱吉田建設に委託した。

平成27年度調査分は本発掘調査終了後基礎整理を行った。

整理作業の成果 平成23～26年度調査では、細池寺道上遺跡の古代に関する知見が多く得られた。平成24年度第38次調査では河道から8～9世紀代の土器、木製品がまとまって出土し、水辺の祭祀が行われていたと考えられる。平成26年度第44次調査では掘立柱建物、竪穴状遺構、井戸、カマド状遺構等に伴って8～9世紀代の土器がまとまって出土しており、当時の拠点集落と考えられる多様な内容が明らかになった。

中世においては、井戸、掘立柱建物と水田が近接する散村形態の集落の存在が明らかになった。

第44次調査は、平成28年度に『細池寺道上遺跡Ⅵ』〔立木・奈良ほか2017〕として刊行した。(奈良佳子)

表4 平成27年度整理作業一覧

遺跡名・事業名	調査回数	調査番号	調査原因	整理担当	主な作業内容
馬場屋敷遺跡ほか	1・2・3	1983006ほか	再整理	相澤裕子・渡邊朋和	再整理
道上遺跡	6	2005003	県営圃場整備	立木宏明・龍田優子・奈良佳子、 安達尊伸・細井佳浩(㈱吉田建設)、 細野高伯・石川博行・重留康宏・吉澤 学・ 北村和穂・松井 智(㈱シン技術コンサル)	基礎整理・遺物実測・報告書作成・印刷刊行・収蔵作業
下久保遺跡	3	2006003			
細池寺道上遺跡	29・31 32・38 41・44・46	2009003・2010003・ 2011005・2012006・ 2013004・2014001・ 2015002			
西江浦遺跡	3	2012005			
沖ノ羽遺跡	19・22 24	2006005・2007004・ 2008002	県営圃場整備	遠藤恭雄・澤野慶子	報告書作成・収蔵作業・台帳作成
中谷内遺跡	15・16	2011002・2012004	県営圃場整備	遠藤恭雄・澤野慶子	報告書作成・収蔵作業・台帳作成
内野遺跡	8・9	2011003・2012003			報告書作成・収蔵作業・台帳作成
大沢谷内遺跡	15・17・19	2009001・2010004・ 2011006	国道整備	相田泰臣・金田拓也	基礎整理・遺物実測
下新田遺跡	6・8・9	2012008・2013005・ 2013006	県営圃場整備	龍田優子	基礎整理・遺物実測・写真整理・報告書作成
峰岡上町遺跡	3	2013003	国道整備	前山精明	基礎整理・遺物実測・写真整理・報告書作成
舟戸遺跡	24・25	2014173・2015001	宅地造成工事	金田拓也	基礎整理・遺物実測・報告書作成
島瀬瀬遺跡	4・5	2015138・2015003	県営圃場整備	遠藤恭雄、 脇本博康(㈱吉田建設)	基礎整理・遺物実測・報告書作成
試掘調査・確認調査・ 工事立会・本発掘調査再整理事業	—	—	各種事業	相澤裕子・渡邊朋和	収蔵作業・台帳作成

4 資料の収蔵・保管

各項の概要及び基本的事項の詳細は、『年報』第1号に記載されている〔渡邊2014b〕。

(1) 収蔵方針

文化財センターでは、新潟市内で発掘調査によって出土した遺物や、写真・図面等の記録類を一括集中管理している。

なお、文化財センター開館前の発掘調査によらない考古資料や個人寄贈・寄託資料に関しては、各区の博物館や資料館等で保管・管理が行われている。

(2) 収蔵・保管施設

収蔵・保管施設には、埋蔵文化財収蔵庫・特別収蔵庫1（木製品）・2（金属製品）・資料収蔵庫・図書室・民俗資料収蔵庫がある。民俗資料収蔵庫は(6)に記載した。

埋蔵文化財収蔵庫 土器や石器等の比較的周辺の環境で劣化のしづらい資料を収蔵している。平成28年3月末時点で11,370箱収蔵している。

特別収蔵庫1・2 保存処理が完了した木製品や金属製品等を収蔵している。平成28年3月末時点で特別収蔵庫1に734箱（木製品）、特別収蔵庫2に191箱（金属製品103箱、骨・骨製品88箱）収蔵している。

資料収蔵庫 発掘調査の図面や写真フィルム・CD・DVD等の記録類を収蔵している。

図書室 Ⅲ 6（6）に記載した。

(3) 発掘調査番号

遺物や調査記録類をまとめるために、新潟市内における全ての発掘調査（試掘・確認調査、本発掘調査、その他に工事立会を含む）に対し調査番号を付けている。

(4) 再整理作業

文化財センター開館以前の資料について、平成27年度も継続して作業を行っている。

(5) 収蔵資料のデジタル化及びデータベース化

保存と活用のために、遺構に関しては遺構台帳を作成し、図面や写真等の記録類はデジタル化がされている。

発掘調査図面は、殆どが業者に委託したデジタルデータ（CADデータ）が存在する。

写真に関しては、発掘調査終了後速やかにデジタル化を行っており、データ形式も汎用性を考えてtiffデータとしている。

発掘調査報告書に関しては、印刷業者に編集データを入稿する前もしくはその後にpdfデータを作成している。

収蔵図書に関しても書誌データ（CSV形式）を継続して登録している。

(6) 民俗資料等

民俗資料収蔵庫には、農具・漁労具・生活用具等の民具を中心に収蔵している。非常勤職員を雇用し、整理作業や台帳作成を行っている。平成27年度も所蔵数に変化はなく、約3,000件が収蔵されている。

また、文化財センターに隣接する旧木場小学校校舎は、「大形民具収蔵庫」として利用され、敷地・建物を文化財センターが、収蔵品の民俗資料は歴史文化課・新潟市歴史博物館が管理している。

(7) 埋蔵文化財情報管理システム

埋蔵文化財の管理と活用、デジタル化した記録類のデータ管理を目的として、『埋蔵文化財情報管理システム』を活用している。遺跡管理のための地理情報管理システム（GIS）と発掘調査記録や収蔵品管理のためのデータベースの機能を併せ持ったシステムである。このシステムは新潟市の統合型GISのサブシステムとして構築されている。

平成27年度に新潟市役所のGeoBase版統合型GISのOSサポート期間が満了となることに伴い、GeognoSIS版の統合型GISに全庁のシステムを統合することが平成25年度に決定した。そこで、「埋蔵文化財情報管理システム」を含む全てのサブシステムについて、再構築を行うこととなり、再構築に向けての検討が進められた。そして、平成27年5月に「埋蔵文化財情報管理システム」の再構築が完了し、同年6月1日より運用を開始した。

システムの機能としては、以前の機能と同様に「遺跡管理」「発掘調査管理」「埋蔵文化財保護業務」「出土品管理」「記録類（図面）検索」「記録類（写真）検索」「遺物検索」「木製品、金属製品検索」「図書検索」「地図表示」を備えている。一方、これまでであった「定義表管理」は必要がないため盛り込んでいない。

運用は開始されたが、これまでとは異なり、利便性の向上のため記録類等をエクセルデータで一括取り込みが可能にできるようにするための準備ができずに、「出土品管理」「記録類（図面）検索」「記録類（写真）検索」「遺物検索」「木製品、金属製品検索」はまだ機能していない。そのため、「遺跡管理」「発掘調査管理」「埋蔵文化財保護業務」「図書検索」「地図表示」が機能している状態である。

平成27年度も前年度に引き続き、運用開始までは開始に向けて、運用開始後は未機能の部分が機能するように統合型GISを所管しているIT推進課と共同でシステム構築・運用を委託している業者と会議を行っている。

（金田拓也）

5 資料の公開・展示

(1) 展示概要

『新潟市文化財センター条例』の設置目的にある「埋蔵文化財及び有形民俗文化財を保存し、及びこれらの活用を図る」主な事業の一つとして埋蔵文化財・有形民俗文化財の展示を行っている。詳しい方針及び概要については、『年報』第1号に記載している〔今井2014〕。

平成26年度に文化財センターでは初めてとなる企画展を開催した。好評だったため平成27年度以降も企画展を開催することとした。内容については、市内8区の遺跡を順次紹介するシリーズとして中央区を取り上げた他、古津八幡山遺跡歴史の広場の全面供用開始に合わせて古津八幡山遺跡に関連するテーマで企画展を全5回中3回行った。また、初めての試みとして収蔵している民俗資料と考古資料で構成した企画展を1回行った。平成27年度の試みとしてもう一つあげられるのが、館外展示である。市内施設からの共催依頼等を受け、館外展示を3か所で行った。なお、この企画展と館外展示事業は、経費の50%について国の補助金「地域の特色ある埋蔵文化財活用事業」を受けた。

展示室 1 導入展示室兼、展示室2の前室としての機能を有している。「歴史を伝える出土品の世界」と題して、市内で出土した縄文時代から近世の土器・陶磁器、縄文時代から近世の木製品を壁一面に展示している。また、緒立遺跡出土の網代や御井戸遺跡の木柱などの大形木製品、市内出土の木簡レプリカ104点、近世新潟町出土の陶磁器をケースにて展示している。

展示室 2 「新潟市文化財センターの活動」、「遺跡が語る新潟市の歴史」、「企画展示コーナー」の大きく3つの展示に分かれている。

平成26年度から変更があったところは、弥生時代前期の展示資料を西郷遺跡から緒立遺跡に戻したことであり。展示室中央の企画展示コーナーで、平成27年度は5

回の企画展を開催した。各展示詳細については次項（②～④）以降に記載する。なお、企画展1は史跡古津八幡山弥生の丘展示館（以下「弥生の丘展示館」）において開催された企画展、企画展2・5は新潟市新津美術館において開催された特別企画展を文化財センターにおいても開催したものである。そのため、企画展2・5については、特別企画展の詳細と合わせてⅣで記載している。

エントランス エントランスでは、大形品の展示の他、速報性のある出土品の展示を行っている。平成27年度には、平成26年度に調査を行った「下郷南遺跡」と「細池寺道上遺跡」を速報展示した。また、平成26年度に保存処理を行った小坂居付遺跡の木製品のうち下駄を展示した。

館外展示 平成27年度は文化財センター及び弥生の丘展示館の企画展以外に3か所の市内施設で館外展示を行った。1か所目は新潟日報社が主催で新潟日報情報館COMPASSに於いて開催していた「ふむふむタイムスリップ」の第3回展示「接着剤」への協力を行った。2か所目は新潟市江南区郷土資料館からの申し出による江南区郷土資料館での弥生の丘展示館企画展1の移動展示である。3か所目は小針青山公民館からの共催依頼を受けて、小針青山公民館で開催された「身近な歴史ギャラリー 新潟市の交流」である。各展示詳細については次項（⑤～⑦）以降に記載する。

まとめ 来館者からは、幅広い時代の企画展示が行われるようになってよかったとの声が多く聞かれる。また、来館者の動向を見てみると、企画展で取り上げた区の市民が若干多く来館している。取り上げた区について多くチラシを配布するといった工夫の成果もあるが、「地元の遺跡が展示されているから見に来た。」という人が一定量あることが窺える。地元への愛着を育むことに、遺跡が有効であるあらわれとも言え、文化財センターがその役割を担えることは喜ばしい。（今井さやか）

表5 平成27年度文化財センター企画展一覧

年度 ごとの 番号	企画展名	会 期	企画担当	来館者数 (人)	関連講座・講演会・講座及びイベント			
					演 目 イベント名	開催日	講 師	参加者数 (人)
1	蒲原の王墓 古津八幡山古墳と豪族の屋敷	2015/4/7（火） ～5/10（日）	相田泰臣	1,060	—	—	—	—
2	史跡古津八幡山遺跡の 発掘調査と復元整備の歴史	2015/5/19（火） ～7/12（日）	渡邊朋和	1,722	古津八幡山遺跡の 発掘調査と復元整備の歴史 史跡古津八幡山2000年の歴史	2015/5/31（日）	渡邊朋和	25
3	発掘された江戸時代の湊町 近世新潟町展	2015/7/17（金） ～10/4（日）	今井さやか	3,781	近世新潟町の始まりと 繁栄を語る出土陶磁器	2015/9/27（日）	大橋康二氏 （佐賀県立九州陶磁器文化館 名誉顧問）	51
					展示解説	2015/7/25（土）・ 8/15（土）・9/19（土）	今井さやか	16
4	絵で見るわかしの日本 —早川和子原画展—	2015/10/14（水） ～11/23（月）	渡邊朋和	1,334	—	—	—	—
5	遺跡と民俗から見る稲作 新潟市の弥生時代から 鎌倉・室町時代までの 稲作関連遺跡と黒埼に伝わる農耕具	2015/12/5（土） ～2016/3/27（日）	酒井和男・ 本間敏則・ 今井さやか	2,771	コメと雑穀の栽培の歴史	2015/12/13（日）	渡邊朋和	29
					土器の圧痕レプリカを つくってみよう	2015/12/20（日）	龍田優子	9
					小坂居付遺跡の水田について	2016/3/13（日）	佐藤友子氏 （新潟県文化行政課）	30
					展示解説	随時	本間敏則・今井さやか	—

(2) 企画展1「蒲原の王墓」

古津八幡山古墳と豪族の屋敷

会 期 平成27年4月7日(火)～5月10日(日)

担 当 相田泰臣

来館者数 1,060人

展 示 概 要 本企画展は、弥生の丘展示館の企画展1及び特別企画展1と共に、平成27年4月17日に古津八幡山遺跡歴史の広場が全面供用開始されるのを記念して行った企画展である。

平成23年度から平成25年度に行った発掘調査によって、古津八幡山古墳は古墳時代前期末から中期初頭頃に造られた直径60mの円墳であることが判明した。

県内最大規模の古墳であり、蒲原平野の各地域の豪族が共同して推し立てた王(有力な豪族)の墓であった可能性が考えられている。

企画展では、麓にあると推測される古津八幡山古墳を造った豪族の屋敷についての手がかりを探るべく、麓や周辺の古墳時代の遺跡について、これまでの調査成果や出土遺物について紹介、展示を行った。

展 示 構 成

- 1) 豪族の屋敷(居館)について
- 2) 新津丘陵麓の古墳時代の遺跡
- 3) 舟戸遺跡の調査成果
- 4) 古津八幡山古墳が造られた頃の周辺の遺跡
- 5) 中田遺跡・沖ノ羽遺跡・塩辛遺跡

主 要 展 示 新津丘陵北西麓に位置し、古津八幡山古墳を造った豪族の屋敷の可能性が指摘されている舟戸遺跡について、これまでの調査成果をパネルで紹介すると共に、出土遺物を展示した。

舟戸遺跡では、これまでの本発掘調査範囲は狭いが、大量の土師器や竪穴住居、掘立柱建物、杭列等が検出されている。杭は、竪穴住居の柱よりも直径が細く、また、柱の根元が平らに加工されるのに対し、杭の根元は尖らせる加工を行う等の違いがある。これらの加工の違いが比較できるよう、柱と杭とを並べて展示した。

また、古津八幡山古墳が造られた頃の集落である秋葉区の中田遺跡と沖ノ羽遺跡の出土遺物を展示すると共に、舟戸遺跡が衰退した後に盛行したと考えられる塩辛遺跡の出土遺物も展示した。

ま と め 古津八幡山古墳を造った豪族の屋敷の所在を始め、古墳時代の丘陵麓の状況については不明な点が多く、展示も限られたものとなった。古環境の復元や水田・畑等の生産基盤の実態も含め、今後明らかにしていく必要がある。(相田泰臣)



蒲原の王墓 古津八幡山古墳と 豪族の屋敷

観覧無料

会 期 平成27年4月7日(火)～5月10日(日)
休 館 日 毎週月曜日(月曜日が祝日の場合は翌日)
開館時間 午前9時～午後5時

チラシ表



展示風景(展示室2)



舟戸遺跡出土の柱(3 舟戸遺跡の調査成果)



舟戸遺跡出土の杭(3 舟戸遺跡の調査成果)

(3) 企画展3「発掘された江戸時代の湊町 近世新潟町展」

会 期 平成27年7月17日（金）～10月4日（日）

担 当 今井さやか

来館者数 3,781人

展示概要 近世新潟町跡が周知化されてから10年経過し、調査資料も増えたことから、近世新潟町の成り立ちや性格について紹介する企画展を開催した。

展示構成

- 1) 近世新潟町の成立
- 2) 西廻り航路と新潟町の発展
- 3) 鎖国政策と抜け荷
- 4) 発掘された新潟町
- 5) 出土品と伝世品

主要展示 新潟町は、長岡藩の公式記録から明暦元（1655）年に成立したことがはっきりしている。遺跡としての近世新潟町は成立当初の範囲としているが、本展では広く江戸時代全般の資料を扱った。

1では近世新潟町成立直前の阿賀野川流域の遺跡の紹介（笹山前遺跡・下郷南遺跡）と近世新潟町移転初期の遺物を展示した。2ではパネルで西廻り航路と新潟湊の移出入品について紹介。新潟は大坂への廻米という主要な役目の他、松前との交易も行っていた。また、「材料を仕入れて新潟町で加工して別の都市へ売る」といった交易も新潟湊の特徴であることを紹介した。3は、鎖国政策下にあっても新潟町では清朝磁器や輸出用に生産された「芙蓉手」と呼ばれる肥前磁器皿など特殊な陶磁器が出土しており、これらを展示し、新潟町の商人が裕福であったことを紹介した。4では、計7地点での発掘調査成果について展示した。古町通3地点では揃いの食器が複数セット出土したが、当時の地割を見ると周囲に遊女屋が立ち並ぶ一角であり、飲食業をしていたことが想定された。5では、遺跡から出土した破片資料とその全体像を捉えてもらうために伝世品の資料を並べて展示した。伝世資料は鶴友会博物館より借用した。

関連講演会 企画展の関連講演会を1回開催した。

演 目 近世新潟町の始まりと
繁栄を語る出土陶磁器

講 師 大橋康二氏（佐賀県立九州陶磁文化館名誉顧問）

日 時 平成27年9月27日（日）

午後1時30分～午後3時

参加者数 51人

長年肥前陶磁器の研究に携わってこられた講師より、肥前陶磁器の誕生から発展の歴史についてと、近世新潟町跡から出土している肥前陶磁器の特徴について解説し

ていただいた。この中で近世新潟町では、成立から明治まで一貫して高級陶磁器が出土している事が指摘され、江戸時代を通して近世新潟町が繁栄していたと結論付けられた。

展示解説 展示担当による展示解説を開催した。

日 時 平成27年7月25日（土）、

8月15日（土）、9月19日（土）

午後1時30分～2時30分

参加者数 16人（3日間の合計）

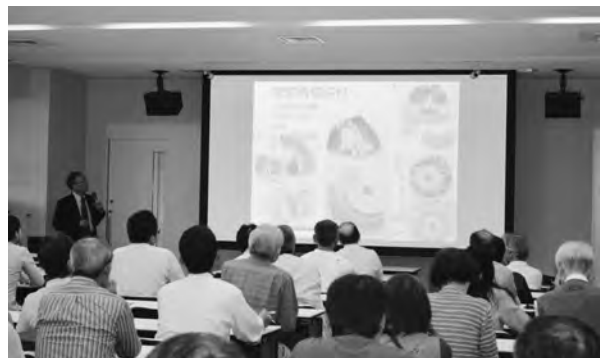
来館者の声 「また陶磁器に関する企画展を希望する」「出土地点ごとの解説が不十分に感じる。職員が解説した方が新潟町への理解が深まるのではないか」「伝世品も一緒に見られてよかった」等の意見があった。

ま と め これまで、新潟市歴史博物館の企画展に近世新潟町の出土陶磁器の一部を貸出すことはあったが、150点以上の規模で展示することは初めての試みであった。市民の新潟町への関心が非常に高く反響のある展示になった。また、古陶磁に興味を持つ方にも多く来館していただき、これまで考古学に縁がなかった人達を取り込めたように思う。

一方で新潟町の発掘調査については、砂州に立地しており軟弱地盤のため、広範囲での調査が行われていない。そのため、出土遺物は多いものの遺構の確認が不十分であり、展示が遺物の紹介に偏りがちになったことが悔やまれる。
（今井さやか）



展示風景（展示室2）



関連講演会風景（近世新潟町の始まりと繁栄を語る出土陶磁器）

(4) 企画展 5 「遺跡と民俗から見る稲作」

新潟市の弥生時代から鎌倉・室町時代までの
稲作関連遺跡と黒埼に伝わる農耕具」

会 期 平成27年12月5日(土)
～平成28年3月27日(日)

担 当 酒井和男・本間敏則・今井さやか
来館者数 2,771人

展 示 概 要 新潟の主産業である稲作について、考古学と民俗学の双方から考えることを目的とした。普段民具収蔵庫で収蔵展示となっている民俗資料を展示室で展示した。これは文化財センターで初めての試みであった。

展 示 構 成

- 1) 春夏秋冬の農耕絵図と農具
- 2) 稲作のはじまり～定着
- 3) 発掘された新潟市の水田
- 4) 土器の圧痕に見える作物
- 5) 畑作と稲作
- 6) 稲作に関する民俗風習

主 要 展 示 本展では「秋・冬の農耕」「春の農耕」「夏の農耕」と大形展示ケース3台を使用して、西蒲原地域の江戸時代の農耕の様子を描いた「農耕絵図」(個人所蔵)のパネルとそれぞれの季節の農作業で使用する道具を展示した。また、黒埼に伝わる「サシコマエカケ」を女性から男性に送る風習や、新潟で一般的に行われていた稲作に関連する「タノカミオクリ」や「マユダマカザリ」の風習について展示を行った。さらにこの風習について、「見た事があるか」を、来館者に尋ね、見た地域についてシールで回答してもらう参加型の展示を行った。

考古学からの視点としては、県内最古の西郷遺跡出土の炭化米(弥生時代前期から中期)の展示の他、小坂居付遺跡の「しろわせ」木簡、鋤や田下駄などの古代から中世の出土農具を展示した。また下新田遺跡の平安時代の土器表面に残る種実の圧痕レプリカを展示し、コメ以外にもアワ・キビ等の雑穀の圧痕があり、雑穀も積極的に栽培していたことを紹介した。

関連講座・講演会・イベント 企画展の関連講座・関連講演会・関連イベントをそれぞれ1回開催した。

演 目 コメと雑穀の栽培の歴史
講 師 渡邊朋和
日 時 平成27年12月13日(日)
午後1時30分～午後3時

参加者数 29人

稲作の起源や日本各地の稲作関連遺跡の紹介、雑穀栽培の役割について解説した。また、中国や韓国との農具の名称の違い等、幅広い話題から稲作を考えた。

演 目 小坂居付遺跡の水田について
講 師 佐藤友子氏(新潟県教育庁文化行政課)
日 時 平成28年3月13日(日)
午後1時30分～午後3時

参加者数 30人

小坂居付遺跡の発掘を担当された講師から、遺跡の概要について発掘調査での体験談を交え、専門的な内容をかみくみで分かりやすく解説していただいた。

イ ベ ント 土器の圧痕レプリカをつくってみよう
講 師 龍田優子
日 時 平成27年12月20日(日)
午後1時30分～午後3時

参加者数 9人

あらかじめ作成しておいた穀物や昆虫の圧痕付粘土版に歯科用シリコンを流し入れて型取りをし、それを顕微鏡で観察する体験を行った。

展 示 解 説 展示担当による展示解説を随時開催した。

来館者の声 「俵締め機等、稲作に関する道具が懐かしかった」「マユダマカザリを久しぶりに見た」等、民俗資料を通して来館者同士で会話が生まれることが印象的だった。

ま と め 当館所蔵の黒埼地域の民具を使用した初めての企画展であった。当初は民俗資料の祖形を考古資料に求める編年的な展示を予定していたが、思うように資料が一致しなかった。そこで稲作の始まりから中世までを考古資料で展示をし、近世以降の稲作については民俗資料で語ることとした。考古資料では、新潟市内から県内最古の炭化米が出土していることが意外と知られておらず、もっとPRが必要と感じられた。民俗資料では「来館者の声」でも述べたが、昭和初期まで使われていた農具について、来館者の多くが実際に使った、もしくは使っていたのを見たことがあり、その経験や思い出を同行していた子や孫に話して聞かせている光景が度々見られた。今後も民俗資料を活用した展示を行っていきたい。

(今井さやか)



マユダマカザリと参加型展示(6 稲作に関する民俗風習)

(5) 館外展示 ふむふむタイムスリップ第3回 「接着剤」

会 期 平成27年7月1日（水）～7月31日（金）
会 場 新潟日報情報館COMPASS
主 催 新潟日报社
担 当 今井さやか
来館者数 2,392人

展示概要 新潟日報こども新聞「週刊ふむふむ」と県内行政機関が連携し、月替わりで様々な道具の昔から現在への変遷をたどる常設企画展示「ふむふむタイムスリップ」を行った。そのうちの第3回「接着剤」について新潟市が遺物展示および解説パネルの作成を担当した。なお、この展示の観覧料は無料である。

主要展示 縄文時代から使用されている接着剤のアスファルト・漆・膠について紹介をした。アスファルトについては大沢谷内遺跡のアスファルトを溶かした縄文土器の深鉢やアスファルトを接着剤として実際に利用した痕跡のある石鏃等を展示した。漆は珠洲焼や近世陶磁器の補修（漆継ぎ）で使用しているものを展示した。一方膠については遺跡から出土したものが無く、現在文化財修復で使用されている兎膠を展示した。

ま と め 展示会場の新潟日報情報館（新潟日報メディアシップ内）は、新潟市の中心繁華街にあり、県外からの観光客の利用が目立った。また新潟日報こども新聞「週刊ふむふむ」は購読者が多く、毎回展示を見に来る熱心なファンもいたとのことである。現在文化財センターでは県外からの来館者は少なく、観光客の多く集まる場所でアスファルトを通して新潟の特徴をPRできた事は意義深い。

（今井さやか）

表6 平成27年度館外展示一覧

年度 ごとの 番号	館外展示名	会 期	会 場	主 催・ 共 催	担 当	来館者数 (人)
1	ふむふむタイムスリップ 第3回「接着剤」	2015/7/1（水） ～7/31（金）	新潟日報情報館 COMPASS	新潟日报社	今井さやか	2,392
2	古津八幡山古墳の 築造と復元整備	2015/7/25（土） ～8/23（日）	新潟市 江南区郷土資料館	新潟市 江南区郷土資料館	相田泰臣	2,008
3	身近な歴史ギャラリー 新潟市の交流	2015/11/5（木） ～11/11（水）	西新潟市民会館 1階ギャラリー	小針青山公民館	今井さやか	302



展示風景（ふむふむタイムスリップ第3回）

(6) 館外展示「古津八幡山古墳の築造と復元整備」

会 期 平成27年7月25日（土）～8月23日（日）
会場・共催 新潟市江南区郷土資料館
担 当 相田泰臣
来館者数 2,008人

展示概要 新潟市江南区郷土資料館（以下「江南区郷土資料館」）の展示室を使用して行った弥生の丘展示館企画展1の移動展示である。なお、江南区郷土資料館の入館料は無料である。

展示概要や展示構成、パンフレット等については弥生の丘展示館の企画展1（IV1(2)）と概ね同じ内容であるため省略するが、江南区郷土資料館の展示スペースが弥生の丘展示館よりも広いため、平成23年度から平成26年度に実施した古津八幡山古墳の発掘調査や復元整備工事の写真パネルを追加した他、弥生の丘展示館展示室内で視聴できる平成23年度から平成26年度にかけて実施した古津八幡山古墳の発掘調査や復元整備工事の記録映像を展示スペースの一角で放映した。また、弥生の丘展示館の企画展1や特別企画展1で一部展示した古津八幡山古墳中心部の断面剥ぎ取り土層の展示も行った。

ま と め 江南区郷土資料館は江南区文化会館の中にある。江南区文化会館は他に音楽演劇ホール、公民館、図書館を備えた複合施設である。そのため、館には



会場風景（古津八幡山古墳の築造と復元整備）



展示風景（古津八幡山古墳の築造と復元整備）

老若男女幅広い層が訪れ、来館目的も多岐にわたる。なお、平成27年度の江南区文化会館の来館者数は267,769人である。

このような展示は、普段遺跡に興味のない方が展示を見て遺跡等について興味を持ったり、また古津八幡山古墳が復元整備されている現地や弥生の丘展示館、文化財センターへ行くきっかけになることも期待される。今後も機会を見てこのような展示を行っていく方向で検討していきたい。

なお、本展示ではアンケートや展示解説等は行わなかった。今後機会があれば実施したい。（相田泰臣）

(7) 館外展示「身近な歴史ギャラリー 新潟市の交流」

会 期 平成27年11月5日（木）～11月11日（水）

会 場 西新潟市民会館1階ギャラリー

主 催 小針青山公民館

担 当 今井さやか

来館者数 302人

展 示 概 要 新潟市の交流の歴史について連続講座を行っている小針青山公民館（西新潟市民会館と同一施設）からの共催依頼を受け開催した。講座で紹介された実際の歴史資料を見ることによって、地域の歴史を身近に感じ地域を考えるきっかけを目的としている。なお、この展示の観覧料は無料である。

主 要 展 示 縄文時代から近代までの地域間交流について、平成26年度まで文化財センター展示室で行っていた「交流 交じり合う文化」から小形展示ケース6個に集約して展示を行った。また、パネルのみの展示である「市内8区の気になる遺跡」コーナーと子どもたちが気軽に歴史に親しめるための「土器パズル」コーナーも併設された。

この展示は、小針青山公民館職員が企画したものである。西区小針という比較的文化財センターに近い場所であっても交通手段を持たないため実際の遺物を見に行け

ない歴史ファンが多くいることから企画したと聞く。実際1週間という短期間ではあるが多くの来場者があり、「人の集まっているところに展示に行く」という重要性・効果を再認識した。一方で、1週間の展示期間というのは非常に短く展示ケースや遺物の搬出入の労力に見合っていないと感じた。展示ケースを含めての館外展示であれば1か月くらい展示期間が欲しい。（今井さやか）



会場風景（新潟市の交流）



展示風景（新潟市の交流）



断面剥ぎ取り展示（古津八幡山古墳の築造と復元整備）



人気の土器パズルも出張（新潟市の交流）

6 教育普及活動

(1) 公開講座

文化財は地域の成り立ちを知る上で重要な役割を担っている。文化財センターでは、市民が地域の歴史や文化に対する理解を深められるよう収蔵している考古資料及び民俗資料を積極的に公開・活用することを目指し様々な講座や体験イベントを実施している。以下、平成27年度に実施した公開講座の概要について述べる(表7)。

講座 考古学と民俗学関連の講座を行った。考古学関連の講座では企画展の内容に関連した講座を行った。

表7 平成27年度公開講座一覧

民俗学講座			
開催日	内 容	講 師	人 数 (人)
2015/5/16 (土)	新潟の地名について	長谷川 勲氏 (新潟県地名研究会会長)	69
2015/9/12 (土)	400年前の戦乱と地名をめぐるもの ー史実と説話ー	大谷一男氏 (新潟県地名研究会会員)	81
観察再現講座			
開催日	内 容	講 師	人 数 (人)
2015/5/24 (日)	刀鍛冶工房見学	大野義光氏 (刀匠)	15
2015/6/13 (土)・ 20 (土)・27 (土)	砂崩遺跡の縄文土器をつくる 【大人向け】3週連続	今井浩男・佐藤英世・齋藤純子 (まいぶんポートボランティア)	9
2015/11/7 (土)・ 14 (土)・21 (土)・ 28 (土)・12/5 (土)	長岡市馬高遺跡の火焔土器をつくる 【大人向け】5週連続	今井浩男・佐藤英世・ 齋藤純子・笹川信栄 (まいぶんポートボランティア)	10
夏休み子ども向け歴史体験			
開催日	内 容	講 師	人 数 (人)
2015/7/26 (日)	文化財センター仕事体験 君も考古学者	今井さやか	9
2015/8/2 (日)	縄文土器を作ってみよう ー高さ15cmの土器づくり	今井さやか、 まいぶんポートボランティア	38
民俗体験イベント			
開催日	内 容	講 師	人 数 (人)
2015/7/5 (日)	黒埼の民具と民話を楽しむ会	新潟民話の語り手 交流会黒埼とんと	88
2015/10/11 (日)	黒埼の民具とお茶を楽しむ会	江戸千家新潟不白会	58
2015/12/19 (土)・ 20 (日)・23 (水・祝)	高機で裂き織	齋藤純子・田村陽子 (まいぶんポートボランティア)	15
新潟市遺跡発掘調査速報会			
開催日	内 容	講 師	人 数 (人)
2016/2/21 (日)	講演 縄文時代から精製・利用されていた 新潟の天然アスファルト	岡村道雄氏 (元文化庁主任文化財調査官)	214
	特別報告 牡丹山諏訪神社古墳 第2次発掘調査 ー周溝と土製勾玉から見えることー	橋本博文氏 (新潟大学教授)	
	報告 舟戸遺跡 ー縄文・弥生時代の新しい丘陵周辺ー	金田拓也	
	報告 細池寺道上遺跡 ー平安から江戸時代にいたる集落と道ー	立木宏明	
	報告 烏澤瀬遺跡 ー低地にある奈良時代の遺跡ー	遠藤恭雄	

表8 平成27年度職員派遣・出前講座一覧

派遣日	内 容	会 場	依頼者	派遣職員名
2015/4/23 (木)	6学年社会科授業「歴史学習」/22名参加	升湯小学校	升湯小学校	今井さやか
2015/4/28 (火)	6学年社会科授業「歴史学習」/36名参加	菖蒲塚古墳	岩室小学校	前山精明
2015/4/30 (木)	6学年社会科授業「歴史学習」/72名参加	亀田小学校	亀田小学校	今井さやか・ 酒井和男
2015/5/15 (金)	身近な遺跡を見学し、地域の古代ロマンをさぐる	大江山公園	木戸の歴史を知る会	酒井和男
2015/6/6 (土)	身近な歴史講座-新潟市の交流「日本海と縄文人」	小針青山公民館	小針青山公民館	前山精明
2015/7/4 (土)	身近な歴史講座-新潟市の交流「西からきた古墳築造の技術」	小針青山公民館	小針青山公民館	相田泰臣
2015/7/15 (水)	地域の歴史と文化財講座	西川地区公民館	西川地区公民館	前山精明
2015/8/6 (木)	縄文土器づくり教室	江南区郷土資料館	江南区地域課	今井さやか
2015/8/19 (水)	勾玉づくり・火起こし教室	江南区郷土資料館	江南区地域課	酒井和男
2015/9/7 (月)	北国街道近辺の遺跡・古墳について	角田山自然館	北国街道まち歩きガイドの会	前山精明
2015/9/12 (土)	地域学講座「角田山麓に分布する縄文時代の遺跡と出土品」	巻地区公民館	巻地区公民館	前山精明
2015/9/19 (土)	シンポジウム燃える水、燃える土	中央図書館	石油の世界館友の会	前山精明
2015/9/26 (土)	地域学講座「角田山麓に分布する古墳時代の遺跡と出土品」	巻地区公民館	巻地区公民館	相田泰臣
2015/9/30 (水)	遺跡見学	細池寺道上遺跡	新関小学校	立木宏明
2015/10/17 (土)	地域学講座現地研修	布目遺跡 他	巻地区公民館	前山精明
2015/10/31 (土)	土器プレートづくり	内野小学校	内野小学校PTA	今井さやか
2015/11/14 (土)	地域学講座現地研修	御井戸遺跡 他	巻地区公民館	相田泰臣
2015/12/1 (火)	遺跡調査の見学	細池寺道上遺跡	新潟工科専門学校環境測量科	立木宏明
2016/1/22 (金)	3学年社会科授業「昔のくらし」/55名参加	立仏小学校	立仏小学校	本間敏則・ 今井さやか
2016/1/28 (木)	3学年社会科授業「昔のくらし」/159名参加	大形小学校	大形小学校	本間敏則・ 酒井和男
2016/2/2 (火)	3学年社会科授業「昔のくらし」/65名参加	真砂小学校	真砂小学校	本間敏則・ 酒井和男
2016/2/10 (水)	3学年社会科授業「昔のくらし」/91名参加	亀田小学校	亀田小学校	今井さやか・ 酒井和男
2016/2/13 (土)	大江山地域と近郊の文化遺産について	大江山農村環境改善センター	大江山地域学	酒井和男
2016/2/13 (土)	わくわくランド「土鈴づくり」	関屋地区公民館	関屋地区公民館	今井さやか
2016/2/17 (水)	3学年社会科授業「昔のくらし」/93名参加	桜が丘小学校	桜が丘小学校	本間敏則・ 酒井和男

詳細は各企画展の頁を参照いただきたい。民俗学講座については、地名に関する講座を2回行った。

また観察再現講座とし、ものを観察しその作り方をじっくり学ぶ講座を開催した。平成27年度はこれまで行ってきた縄文土器を観察して再現する講座以外に、黒埼出身で黒埼地内に工房を構える刀匠大野義光氏による刀鍛冶の工程を見学する講座を行った。定員が15名のところ80名以上の応募があり、市民の関心の高さを感じた。

体験イベント 子ども向け歴史体験「縄文土器づくり」「文化財センター仕事体験」を夏休みに開催した。いずれも4年継続している定番事業である。

旧武田家住宅を会場に地域の方々との交流を目的としたイベントとして、「旧武田家住宅で民具とお茶を楽しむ会」と「民具と民話を楽しむ会」を開催した。

また、新たな試みとして「高機をつかって裂き織体験」を開催した。これは黒埼地域でも盛んだった裂き織を行う体験である。講師には事前に練習を積んだ文化財センターのボランティア2名が行った。体験に使用する高機は大形民具収蔵庫にあったものを西蒲区和納の平木富雄・みち子両氏に修復していただいた。

速報会 平成27年度の遺跡発掘調査速報会では、講演の部に元文化庁主任文化財調査官の岡村道雄氏を招き、「縄文時代から精製・利用されていた新潟の天然アスファルト」と題して講演いただいた。また、学術調査が続く東区牡丹山諏訪神社古墳についても平成27年度の調査成果について新潟大学の橋本博文教授より特別報告していただいた。

出前講座・職員派遣 文化財センターでは、研究団体、地方自治体、市民団体等に依頼に応じて職員派遣を行っ

ている(表8)。

平成27年度は、市内公

民館からの依頼で地

域の遺跡に関する講

座の依頼が多かった。

また、学校利用にお

いては、3学年の「昔

のくらし」の出前授

業を5件、6学年の

「歴史学習」の出前

授業を3件受けた。

いずれも本物に触れ

たり、民具において

は実際に使う体験を

盛り込んでいるため

好評であった。

表9 平成27年度文化財センター体験学習参加者数

個人														
メニュー	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合 計	
勾玉づくり	12	48	38	53	157	32	19	16	22	10	16	13	436	
鋳造体験（和同開珎）	3	12	8	22	72	5	7	1	0	0	6	3	139	
鋳造体験（鏡）	5	13	9	15	49	10	5	2	2	0	0	0	110	
火起こし体験（夏季）	－	－	－	76	218	－	－	－	－	－	－	－	294	
裂き織体験（冬季）	－	－	－	－	－	－	－	－	33	15	－	－	48	
土器・土偶づくり（10・1・2月）	－	－	－	－	－	－	8	－	－	13	19	－	40	
合 計	20	73	55	166	496	47	39	19	57	38	41	16	1,067	
団体														
メニュー	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合 計	
勾玉づくり	0	143	0	21	47	0	0	0	0	0	25	0	236	
鋳造体験	0	9	0	0	6	0	0	0	0	0	0	0	15	
土器・土偶づくり	130	119	143	21	26	131	91	0	0	0	30	0	691	
火起こし体験	199	271	67	21	68	257	91	0	0	0	0	0	974	
合 計	329	542	210	63	147	388	182	0	0	0	55	0	1,916	

表10 平成27年度旧武田家住宅利用状況

利用期間	利用者名	目 的	備 考
2015/5/15（金） ～5/17（日）	廣 川 司	切り絵作品展示	
2015/5/29（金）	西区健康福祉課	地域の茶の問事業	
2015/6/27（土）	新潟県建築士会	新潟県歴史的建造物専門家養成講座	
2015/8/14（金） ～9/23（水）	水と土の文化推進課長	水と土の芸術祭2015 水場・倉倉プロジェクト	利用期間中の 16日間を使用
2015/9/5（土）	新潟県建築士会	新潟県歴史的建造物専門家養成講座	
2015/10/8（木）	宮本 敏	普入サロン	

表12 平成27年度団体利用・研究会利用一覧

団体利用（学校以外）			
来館日	団体名	利用内容	人数 （人）
2015/5/14（木）	新潟市中央図書館友の会	見学	10
2015/5/14（木）	動く市政教室『文化財にまつわる歴史・伝説』	見学	30
2015/5/19（火）	動く市政教室『文化財にまつわる歴史・伝説』	見学	31
2015/5/29（金）	西区健康福祉課	見学	20
2015/6/4（木）	動く市政教室『西蒲区学校町町内会』	見学	22
2015/6/16（火）	楚川長寿クラブ	見学	29
2015/6/25（木）	南区社協生きがい対応型通所	見学	28
2015/6/25（木）	黒埼南小2年PTA学年行事	見学・土鈴	67
2015/6/27（土）	新潟県建築士会	見学	36
2015/7/3（金）	太平第二自治会	見学	36
2015/7/9（木）	デイサービスセンター小新	見学	16
2015/7/29（水）	サンフレンズ小新子ども会	見学・火起こし・勾玉・土偶	30
2015/7/29（水）	西川地区公民館	見学	26
2015/8/9（日）	升湖大関子ども会	見学・火起こし・勾玉	6
2015/8/23（日）	寺尾上四東自治会子ども会	見学・火起こし・勾玉・銅鏡	23
2015/8/25（火）	保古野木子ども会	見学・火起こし・勾玉・和同開珎	13
2015/8/27（木）	高津小針子ども会	見学・火起こし・勾玉・土偶	12
2015/9/3（木）	新潟大学考古学研究室	見学	20
2015/9/5（土）	新潟県建築士会	見学	40
2015/9/10（木）	西区健康福祉課	見学	40
2015/9/15（火）	デイサービスセンター海東	見学	11
2015/9/16（水）	デイサービスセンター海東	見学	10
2015/9/17（木）	デイサービスセンター海東	見学	10
2015/9/19（土）	デイサービスセンター海東	見学	10
2015/9/25（金）	デイサービスセンター海東	見学	8
2015/9/25（金）	新潟市ろうあ者協会	見学	16
2015/9/29（火）	寺尾前通3丁目寿の会	見学	15
2015/10/1（木）	道の会	見学	25
2015/10/6（火）	動く市政教室『巻地区みどりの会』	見学	30
2015/10/7（水）	明治大学弥生文化研究会	見学	25
2015/10/14（水）	動く市政教室『復元古墳と発掘現場をめぐる』	見学	31
2015/10/16（金）	西区健康福祉課	見学	24
2015/10/21（木）	動く市政教室『復元古墳と発掘現場をめぐる』	見学	29
2015/11/3（火）	西区農政商工課「黒埼地区観光ツアー」	見学	22
2015/11/5（木）	西区農政商工課「黒埼地区観光ツアー」	見学	21
2015/11/5（木）	岩室公民館	見学	22
2015/11/11（水）	デイサービスセンター黒崎花	見学	9
2015/11/13（金）	住みよい郷土推進協議会南支部	見学	15
2015/11/17（火）	動く市政教室『観松えんがわの会』	見学	35
2015/11/18（水）	めいせいデイサポートセンター	見学	5
2015/11/25（火）	めいせいデイサポートセンター	見学	7
2015/11/27（金）	株式会社国土	見学	15
2015/11/28（土）	巻地区公民館	見学	25
2016/1/26（火）	巻巻地区社会福祉協議会	見学	12
2016/2/5（金）	坂井輪地区公民館	見学	25
2016/3/24（木）	デイサービスセンター味方	見学	8
合 計			1,000



刀鍛冶工房見学



ボランティアによる高機の縦糸がけ作業

表11 平成27年度文化財センター来館者数

月	開館日数 （日）	来館者数（人）		
		個 人	団 体	小 計
4	25	516	210	726
5	27	775	384	1,159
6	25	695	271	966
7	27	910	102	1,012
8	26	1,483	54	1,537
9	26	1,107	473	1,580
10	27	791	336	1,127
11	25	692	196	888
12	23	583	222	805
1	24	600	193	793
2	23	552	81	633
3	27	719	58	777
合計	305	9,423	2,580	12,003

(2) 施設利用

文化財センターでは、展示見学の他に「体験コーナー」として研修室の一部を使用して新潟や埋蔵文化財に関連した体験学習ができるスペースを設置している（表9）。体験コーナーでは、「開館時間中であれば、いつでもだれでも予約なしでできる個人向け体験」と、「予約をいただいた団体向けの体験」の2種類がある。いずれも材料費相当の負担をいただいている。また、無料の体験として新潟市から出土した土器（鳥屋遺跡2点、法華鳥屋遺跡1点、古津八幡山遺跡2点）と柏崎市川内遺跡出土王冠型土器1点と津南町沖ノ原遺跡出土火焰型土器1点を基に制作した「土器パズル」が7点ある。王冠型土器と火焰型土器の「土器パズル」は定期的に弥生の丘展示館と交互に入れ替えて利用している

また、季節限定体験としてゴールデンウィークと夏休み期間は火起こし体験、冬休み期間中は裂き織体験・綿切り体験を行った。今年度から個人向けの土器づくりを10月・1月・2月に行った。参加者数は表9の通りであり、火起こし体験が294名、裂き織体験が48名、土器づくりが40名であった。

また、旧武田家住宅及び体験広場（芝生）の貸出（有料）を行っている。利用状況は表10の通りである。

(3) 来館者数

平成27年度の文化財センターの来館者数は表11の通りである。

平成26年度に比べておよそ390人減少した。団体利用の減少が要因として考えられる。

来館者のアンケートからは、「場所がわかりにくい」、「解説文が専門的すぎて難しい。マンガやイラストをいれてはどうか」、「市外にももっとPRして欲しい」等、要望やご指摘をいただいた。

開館から平成27年3月末までの累計来館者数は55,382人である。

(4) 団体見学・施設見学

平成27年度の文化財センターの団体利用及び行政視察の一覧は表12の通りである。

小学校や子ども会等の子どもが主体の団体では、見学だけではなく体験活動を組み込むことが多い。特に小学校では社会科の授業として4月・5月には6学年の歴史で、1月は3学年の昔のくらしの学習で利用する傾向にある。平成27年度では、小学校・中学校の利用は25校であり平成26年度より10校減少した。社会科の授業以外に、職場体験実習として利用する学校もある。

また、デイサービスセンターの見学利用が多いのが、文化財センターの特徴でもある。（今井さやか）



平成27年度新潟市遺跡発掘調査速報会



小学校3学年団体利用（旧武田家住宅）



小学校3学年団体利用（洗濯板体験）



小学校6学年団体利用（土器にさわる）

(5) 資料利用

A 手続きに関する条例・規則

特別利用許可 文化財センター内で考古資料の熟覧・実測・撮影等を行う場合：『新潟市文化財センター条例』及び『新潟市長から委任を受けた新潟市文化財センター管理に関する規則』により許可申請書を新潟市教育委員会宛に提出する。

貸出許可 考古資料の寄託・借用・貸出等をする場合：『新潟市文化財センター考古資料の寄託・借用及び貸出に関する規則』により許可申請書等を新潟市教育委員会宛に提出する。

寄附申込 考古資料の寄附申し込みをする場合：『新潟市物品管理規則』により物品寄附申込書を新潟市長宛に提出する。

民俗資料 民俗資料の利用・貸出をする場合：『新潟市物品管理規則』により許可申請書を新潟市長宛に提出する。

なお、分析資料提供・掲載許可手続きは適用規則がないため、任意書式提出を依頼していたが、平成28年4月1日より写真データの提供及び掲載許可申請については『新潟市文化財センター考古資料の寄託・借用及び貸出に関する規則』で対応することとした。

B 利用件数

以下、平成27年度の各利用件数について記す（表14）。

特別利用許可 考古資料に関して熟覧・実測・撮影の利用件数は12件である。

貸出許可 考古資料と民具資料の貸出許可は、博物館等での常設展示に伴う年度単位の貸出と企画展等の短期間の貸出がある。前者では次年度も引き続き貸出を希望する場合は年度毎に手続きを行っている。公民館等では地域の歴史に親しみを感ずる観点からその地域の遺跡から出土した遺物の貸出を行っている。資料の貸出期間等は『新潟市文化財センター考古資料の寄託・借用及び貸出に関する規則』に規定されている。常設展示に伴う長期貸出6件、企画展等に伴う短期貸出9件である。

掲載許可 文化財センターが保管する写真や報告書等掲載資料の提供を希望する場合や申請者が貸出を受けて撮影したものを印刷物等で使用する場合がある。利用件数は19件であった。

寄附申込 昨年度同様0件である。

各利用件数とも前年度より増加している。中でも短期貸出は6件増、掲載許可は7件増である。

(6) 図書の収蔵と閲覧

A 収 蔵

図書室の面積は89.33㎡で、室内には単式固定5段8連1台、複式移動7段7連5台、複式移動7段8連6台の棚が列設置されている。棚段数は総数で1,202段、約5万冊の図書の収蔵が可能である。なお、分類整理作業が必要な図書や登録未了図書に関しては、隣接する埋蔵文化財収蔵庫の棚に仮置きをし、登録が終わったものから順次配架を行っている。

図書の収蔵状況は、旧市町村で所蔵していた発掘調査報告書が合併に伴い集められた結果、新潟県内の発掘調査報告書には複本が多数生じることになった。複本があり利用頻度の高い報告書は、文化財センター図書室の他、調査研究室と保存処理室、そして秋葉区にある弥生の丘展示館に置いて利用している。

書誌情報の入力作業は、司書（臨時職員）2名を雇用して、入力作業を継続して行っている。なお、書誌情報の入力とは平成21年度に構築した埋蔵文化財情報管理システムを利用している。平成27年度にシステムの再構築が完了し、運用が行われており（Ⅲ4(7)）、書誌情報の入力も再構築されたシステムで行われている。入力作業と併せ、図書の管理のために寄贈者印・所蔵印を押捺し、3段ラベル・バーコードを貼る作業を行っている。平成28年10月末までの入力数は45,902冊である。

B 利用状況

図書室では、2名分の閲覧スペースがある。大まかに配架作業が終了した平成24年6月から閲覧開始するとともに、著作権法の範囲内でコピーサービス（有料）も開始した。図書室の利用人数とコピーサービス利用人数は表13の通りである。前年度比では利用者数は21人減、コピーサービス利用人数は13人減である。平成27年6月6日～21日まで配架作業のため一時閉室とした。

なお、収蔵図書は、発掘調査報告書等の発行部数の少ない稀観本がほとんどのため、館外貸出は行っていない。（相澤裕子）

表13 平成27年度図書室・コピー利用者数

月	図書室利用（人）	コピー利用（人）
4	3	1
5	8	2
6	2	1
7	3	3
8	5	1
9	3	0
10	10	3
11	12	3
12	3	3
1	4	2
2	7	2
3	6	0
合計	66	21

表14 平成27年度資料対応件数一覧

考古資料

特別利用許可

件数	申請者	資料	点数 (点)	来館日	備考
1	愛媛大学先端研究・学術推進機構 埋蔵文化財室 柴田昌見	小丸山遺跡 他 井戸側	15	2015/8/7 (金)	古代木造船の研究・類例調査
2	岩手大学教育学部 佐藤由紀男	松影A遺跡 土器	63	2015/8/8 (土)	弥生時代後期の土器研究
3	小松市埋蔵文化財センター 所長 篠田 誠	西郷遺跡 土器・石器・石製品・土製品	1,514	2015/8/8 (土)・9 (日)	小松市教育委員会主催フォーラム 「小松式土器の時代～小松発・北陸新幹線ルートの弥生文化を探る～」 開催に伴う、北陸弥生時代土器の並行関係の検証
4	個人	伝の場遺跡 鉄鏝	1	2015/9/27 (日)	県内の室町・戦国期雁又鏝集成研究
5	個人	近世新潟町跡 陶器・磁器	200	2015/10/15 (木)	北陸地方における肥前陶磁器の流通調査
6	個人	御井戸遺跡 土器	160	2015/10/22 (木)・23 (金)	卒業論文で資料として使用
7	鳥根県立古代出雲歴史博物館 角田徳幸	居村E遺跡 他 製鉄関連資料	60	2015/11/16 (月)	製鉄関連資料の調査研究
8	公益財団法人新潟県埋蔵文化財調査事業団 理事長 高井彦雄 荒川隆史	西郷遺跡 土器	328	2016/1/14 (木)	縄文時代晩期末葉から弥生時代前期の土器変遷を検討
9	新潟貨幣研究会 坂井 司	的場遺跡 銭貨	23	2016/1/23 (土)	皇朝銭の貨幣研究
10	個人	古津八幡山古墳 土器	7	2016/2/18 (木)	調査・研究
11	公益財団法人山形県埋蔵文化財センター 理事長 菅野 滋 後藤枝里子	的場遺跡 他 木製品	13	2016/3/3 (木)	輝田遺跡出土木製祭祀具との比較検討
12	公益財団法人山形県埋蔵文化財センター 理事長 菅野 滋 大木昌希	釈迦堂遺跡 須恵器	20	2016/3/15 (火)	清水遺跡1・3・7次調査の発掘調査報告書刊行のための資料比較検討

貸出許可

件数	申請者	資料	点数 (点)	貸出期間	備考
1	医療社団法人幸人会 理事長 阿達敏幸	諏訪畑遺跡 土器	5	2015/4/1 (水) ～2016/3/31 (木)	常設展示
2	新潟市江南区郷土資料館 市長 篠田 昭	砂崩遺跡 他 土器 他	51	2015/4/1 (水) ～2016/3/31 (木)	常設展示
3	新潟市北区郷土博物館 館長 宮崎芳春	鳥屋遺跡 土製品・石器 鳥屋遺跡 土器レプリカ	23 12	2015/4/1 (水) ～2016/3/31 (木)	常設展示
4	新潟市中之口先人館 市長 篠田 昭	茶院A遺跡 土器 他	8	2015/4/1 (水) ～2016/3/31 (木)	常設展示
5	新潟市歴史博物館 館長 小林昌二	紫山前遺跡 他 土器 他 的場遺跡 土鏝・石鏝 的場遺跡 レプリカ 近世新潟町遺跡 陶磁器・泥面子	84件 48 54 27	2015/4/1 (水) ～2016/3/31 (木)	常設展示
6	石油の世界館 新潟市長 篠田 昭	原遺跡 土偶・石鏝	10	2015/4/1 (水) ～2016/3/31 (木)	常設展示
7	新潟日報社 代表 小田敏三	大沢谷内遺跡 他 土器 他	10	2015/6/30 (火) ～2015/7/31 (金)	新潟日報メディアシップ1階ふむふむ企画展「接着剤」展示
8	長岡市立科学博物館 館長 小橋博史	豊原遺跡 他 土器	4	2015/7/6 (月) ～2015/9/18 (金)	長岡市馬高縄文館特別展「北陸の土器と火炎土器Ⅰ」展示
9	新潟市歴史博物館 館長 小林昌二	南赤坂遺跡 他 土器器・石製品 他	58	2015/7/8 (水) ～2015/9/11 (金)	企画展「古墳ワールド！～蒲原の古墳～」展示
10	新潟日報社 代表 小田敏三	豊原遺跡 土器	1	2015/7/31 (金) ～2015/8/31 (月)	新潟日報メディアシップ1階ふむふむ企画展「楽器」展示
11	長野県立歴史館 館長 内堀幸夫	御井戸遺跡 木製品・石器	13	2015/9/10 (木) ～2015/12/25 (金)	秋季企画展示
12	新潟日報社 代表 小田敏三	小坂居付遺跡 金属製品	1	2015/10/31 (水) ～2015/11/30 (月)	新潟日報メディアシップ1階ふむふむ企画展「魚捕りの道具」展示
13	新潟日報社 代表 小田敏三	近世新潟町跡 他 土製品 他	52	2015/11/30 (月) ～2015/12/25 (金)	新潟日報メディアシップ1階ふむふむ企画展「ゲーム・おもちゃ」展示
14	新潟県立歴史博物館 館長 矢澤健一	角田沖海揚がり縄文土器 他	5	2015/12/7 (月) ～2016/3/31 (木)	冬季企画展「UMIAGARI－海揚がり－海に沈んだ陶磁器」展示
15	新潟日報社 代表 小田敏三	小坂居付遺跡 木製品	1	2016/1/31 (日) ～2016/2/29 (月)	新潟日報メディアシップ1階ふむふむ企画展示

掲載許可

件数	申請者	資料	点数 (点)	許可日	備考
1	株式会社 宝島社 代表取締役 滝見清一	大沢谷内遺跡 SKK35出土土器・アスファルト写真 葛塚遺跡 出土土器写真	3	2015/4/7 (火)	「別冊宝島 素晴らしい日本文化の起源 岡村道雄が案内する縄文の世界」掲載
2	富山市考古資料館 館長 野田一博	古津八幡山遺跡 方形周溝墓・前方後方形周溝墓平面図・断面図 古津八幡山遺跡 方形周溝墓写真	2	2015/4/9 (木)	図録「ミニ企画展 呉羽丘陵の古墳」掲載
3	公益財団法人新潟県埋蔵文化財調査事業団 理事長 高井彦雄	古津八幡山遺跡 空中写真	1	2015/6/3 (水)	「縄文にいがた」No.91掲載
4	福島市教育委員会 教育長 本間 稔	大沢谷内遺跡 写真 御井戸遺跡 写真	6	2015/6/9 (火)	宮畑遺跡史跡公園体験学習施設での展示グラフィック作成
5	新潟市歴史博物館 館長 小林昌二	緒立八幡宮古墳 他 写真	6	2015/6/23 (火)	企画展「古墳ワールド！～蒲原の古墳～」解説パネル・ガイドブック掲載
6	長岡市立科学博物館 館長 小橋博史	豊原遺跡 土器写真	4	2015/7/1 (水)	「馬高縄文館特別展「北陸の土器と火炎土器」展示解説リーフレット」掲載
7	長野県立歴史館 館長 内堀幸夫	御井戸遺跡 木製品・石器写真	13	2015/7/9 (木)	秋季企画展図録・広報用パンフレット等、パネル写真として展示
8	朝日新聞社 朝日新聞文化くらし報道部 部長 西部 啓	大沢谷内遺跡 木簡赤外線写真	1	2015/8/6 (木)	新聞掲載
9	新潟県教育庁文化行政課 課長 斎藤靖則	古津八幡山遺跡 写真	1	2015/9/15 (火)	広報パンフレット掲載
10	新潟中心商店街協同組合 理事長 松崎利春	近世新潟町跡 図面・写真	9	2015/9/15 (火)	水と土の芸術祭市民プロジェクト 「新潟町500年水と土の歴史展」展示パネル作成
11	秋葉区六郷村史編集委員会 委員長 細貝正人	細池寺道上遺跡 写真	3	2015/10/27 (火)	「六郷村史」掲載
12	武蔵大学人文学部 教授 高橋一朗	馬場屋敷遺跡 木簡赤外線写真	2	2015/11/4 (水)	「岩波講座日本歴史」別巻史料論「中世科学の現在」掲載
13	宮崎県教育研修センター 課長 川越 浩	大沢谷内遺跡 木簡赤外線写真	1	2015/11/18 (水)	教材研究
14	国立歴史民俗博物館 館長 久留島 浩	緒立遺跡 他 出土文字資料写真	98	2016/1/20 (木)	「古代出土文字資料画像データベース」掲載
15	新潟県立歴史博物館 館長 矢澤健一	的場遺跡 他 木製品写真	41	2016/2/23 (火)	企画展「おふだにぬがいを」図録掲載
16	新潟県教育庁文化行政課 課長 斎藤靖則	古津八幡山遺跡 写真	2	2016/2/24 (水)	「まいふんナビ増刊号」掲載
17	新潟市長 篠田 昭 (担当：文化政策課)	草水町2丁目遺跡 他 写真	4	2016/3/4 (金)	新潟市民文化遺産ガイドブックへの掲載
18	新潟東部地域土木事務所建設課 課長 風間大助	大沢谷内遺跡 写真	2	2016/3/10 (木)	一般国道403号小須戸田バイパス一部開通記念パンフレットへ掲載
19	新潟県教育庁文化行政課 課長 斎藤靖則	海揚がり縄文土器 写真	1	2016/3/11 (金)	「まいふんナビ増刊号」掲載

7 保存処理

(1) 木製品の保存処理について

処理の概要 文化財センターでは、木製品の保存処理は資料の形態・材質・劣化度を考慮しPEG（ポリエチレングリコール）含浸法を中心に行っているが、PEG法では漆被膜が剥離し行えない漆器や、木質が丈夫で若干の強化ですむ近世遺跡出土の木製品についてはトレハロース含浸法で行っている。詳細な方針及び方法については『年報』第1号に記載されている〔今井2014〕。

平成27年度 平成27年度には24遺跡38調査分1,347点の木製品の保存処理を行った（表15）。発掘から20年が経過し劣化の著しい石動遺跡（1995003）等の他、県から譲与を受けた小坂居付遺跡（2009007）出土木製品の保存処理をPEG含浸法で行った。なお、厚みが5cm以下の小形木製品については、タッパーを使ったPEG含浸を行っている。

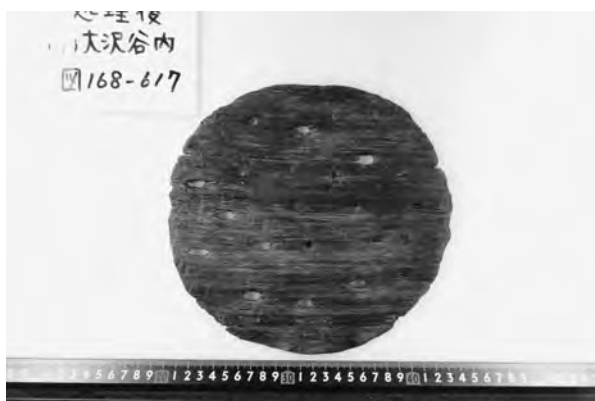
(2) 金属製品・その他の保存処理について

処理の概要 文化財センターでは、木製品の保存処理の含浸期間中に金属製品の保存処理を行うというサイクルで業務を行っている。保存処理を行う順序は、原則調査年次が古いものからとしている。詳細な方針及び方法については、『年報』第1号に記載されている〔今井2014〕。

平成27年度 平成27年度は、新五兵衛山遺跡（1994007）出土鉄製品を中心に8遺跡8調査分153点の保存処理を行った（表15）。なお、平成27年度は青銅製品の保存処理を行わなかった。次年度以降県から譲与された近世新潟町跡や市史調査のものを処理する必要がある。

(3) 保存処理外部委託について

PEG処理法に向かない木製品等の文化財センターで保存処理ができないものについて、真空凍結乾燥法やアルコール・酢酸ブチル含浸法等の処理法を有する業者に外部委託を行っている。平成27年度の外部委託した保存処理は表16の通りである。（今井さやか）



木製品 保存処理後（大沢谷内遺跡・2012001）

表15 平成27年度木製品・鉄製品保存処理一覧

遺跡名	調査番号	材質	器種	処理方法	点数	備考
川口甲遺跡	1991008	木製品	板状木製品 他	PEG	4	
舟戸遺跡	1993004	木製品	杭 他	PEG	2	
石動遺跡	1995003 1997001	木製品	差歯下駄 他	PEG	51	
和納館跡	1995004	木製品	木柱 他	PEG	6	
笹山前遺跡	1995005	木製品	棒状木製品 他	PEG	2	
神明社裏遺跡	1995006	木製品	板状木製品	PEG	1	
笹山前遺跡	1996002	木製品	木柱 他	PEG	3	
大淵遺跡	1997004	木製品	板状木製品 他	PEG	10	
川根遺跡	1998003	木製品	箸 他	PEG	17	
内野遺跡	1999001	木製品	曲物底板 他	PEG	19	
前田遺跡	1999002	木製品	下駄 他	PEG	12	
東開遺跡	2000001	木製品	杭 他	PEG	14	
甲山遺跡	2001001	木製品	井戸杵材 他	PEG	4	
細池寺道上遺跡	2003005	木製品	曲物底板 他	PEG	2	
下前川原遺跡	2002004	木製品	差歯下駄歯 他	PEG	135	
板大門遺跡	2004002	木製品	杭 他	PEG	2	
沖ノ羽遺跡	2005002	木製品	井戸杵材 他	PEG	118	
大沢谷内遺跡	2008005 2009001	木製品	箸 他	PEG	197	
沖ノ羽遺跡	2006005	木製品	井戸杵材 他	PEG	69	
沖ノ羽遺跡	2007004	木製品	杭 他	PEG	2	
三王山遺跡	2007010	木製品	曲物底板 他	PEG	7	
手代山北遺跡	2008003	木製品	桶板 他	PEG	3	
細池寺道上遺跡	2008006	木製品	板状木製品 他	PEG	8	
小坂居付遺跡	2009007	木製品	箸 他	PEG	368	
大沢谷内遺跡	2010002	木製品	曲物底板 他	PEG	19	
大沢谷内遺跡	2011006 2012001 2013002	木製品	曲物底板 他	PEG	157	
大沢谷内遺跡	2011006 2012001 2013002	木製品	漆器碗 他	トレハロース	21	
細池寺道上遺跡	2011005	木製品	杭 他	PEG	2	
細池寺道上遺跡	2012006	木製品	煮申 他	PEG	57	
峰岡上町遺跡	2013003	木製品	下駄 他	PEG	11	
峰岡上町遺跡	2013003	木製品	付札 他	トレハロース	4	
細池寺道上遺跡	2014002	木製品	ひょうたん 他	PEG	4	
近世新潟町跡	2015116	木製品	円形板 他	PEG	2	
近世新潟町跡	2015116	木製品	杭	トレハロース	1	
近世新潟町跡	2015131	木製品	漆付札	トレハロース	1	
近世新潟町跡	2015148	木製品	下駄 他	PEG	2	
近世新潟町跡	2015148	木製品	漆器碗 他	トレハロース	9	
近世新潟町跡	2015183	木製品	漆器碗	バラロイドB72	1	
合 計					1,347	

遺跡名	調査番号	材質	器種	処理方法	点数	備考
大入遺跡	1991005	鉄製品	棒状鉄製品 他	クリーニング・樹脂含浸	2	
川口甲遺跡	1991008	鉄滓	鉄滓 他	クリーニング・樹脂含浸	2	
上土地亀遺跡	1992008	鉄製品	不明	クリーニング・樹脂含浸	3	
南赤坂遺跡	1993002	鉄滓	鉄滓	クリーニング・樹脂含浸	1	
新五兵衛山遺跡	1994007	鉄製品	釘 他	クリーニング・樹脂含浸	136	
神明社裏遺跡	1995006	鉄製品	不明	クリーニング・樹脂含浸	2	
葛塚遺跡	1997005	鉄製品	釘	クリーニング・樹脂含浸	1	
小坂居付遺跡	2009007	鉄製品	刀子 他	クリーニング・樹脂含浸	6	
合 計					153	

表16 平成27年度外部委託保存処理一覧

遺跡名	調査番号	器 種	点 数	委託先	金額 (円)	合計 (円)
舟戸遺跡	1993004	木柱	3	元興寺 文化財研究所	2,727,648	6,387,897
和納館跡	1995004	木柱	2			
小坂居付遺跡	2009007	柄杓、曲物、漆器	3			
細池寺道上遺跡	2003005	漆付着底板	1	元興寺 文化財研究所	3,660,249	
大沢谷内遺跡	2012001・ 2013002	楸、曲物5点、 田下駄、槽2点	9			

8 新潟市文化財センター運営協議会

概要 文化財センターでは、文化財センターの運営について、市民、学校教育関係者、学識経験者からの幅広い意見を聴取することを目的として、新潟市文化財センター運営協議会（以下「運営協議会」）を平成25年度から開催している。運営協議会開催にあたっては、開催要項を定め（平成24年12月1日施行）、委員10名を市長が選任し（表17）、事務局は文化財センターに設置している。この運営協議会は原則公開としている。

第3回運営協議会 平成27年5月21日（木）に新潟市新津美術館1階レクチャールームに於いて開催した。

第3回運営協議会では、平成26年度事業及び平成27年度事業計画について事務局から報告が行われ、その内容を踏まえて委員による意見交換が行われた。

平成26年度事業報告では、主に文化財センターと古津八幡山遺跡歴史の広場の来館者数や講座・イベント等の実施した事業、実施した本発掘調査及び整理作業、組織目標とその結果等について触れている。

平成27年度事業計画では、文化財センターと古津八幡山遺跡歴史の広場で実施予定の事業、実施予定の本発掘調査及び整理作業、組織目標について説明した。古津八幡山遺跡歴史の広場は平成27年度に全面供用開始されたため、それまでに行われた古津八幡山古墳の発掘調査成果と復元整備の概要や今後の課題についても触れている。

委員からの意見では、運営協議会開催年度の事業計画が議題に挙げられていても、事業計画が決まった後では、意見等を事業計画に改めて反映する事は難しいのではないかという指摘等があり、今後は、委員から出される幅広い意見を文化財センターの事業に反映できるように、運営協議会の開催時期等も検討していく必要がある。

運営協議会閉会後は、史跡古津八幡山遺跡を事務局が委員に案内した。

今後も運営協議会を開催し、その意見を参考に文化財センターの活動が市民に浸透し、より活発になるように取り組んでいく必要がある。（金田拓也）

表17 文化財センター運営協議会委員名簿（平成27年度）

委員長	高橋郁子	新潟県民俗学会理事・全国良寛会理事
委員	本間信昭	（元）新潟県埋蔵文化財調査事業団調査課長
	長井久美子	新潟県民俗学会会員
	三ツ井朋子	（公財）新潟県埋蔵文化財調査事業団調査課班長
	杉中規彦	新潟市立黒埼南小学校校長
	永井良二	新潟市立黒埼中学校校長
	渡邊良仁	新潟市立黒埼南小学校PTA会長
	小林忠芳	木場地区連合自治会長
	濱口順子	新潟市歴史博物館ボランティア
	田澤則夫	公募委員

9 決算額

平成27年度における文化財センター決算額は表18の通りである。（福地康郎・上田俊哉）

表18 平成27年度文化財センター決算額

■歳入 （一般会計）	
区 分	決算額（円）
○使用料及び手数料	955,400
文化財センター設備使用料	7,400
行政財産使用料	948,000
○国庫支出金	50,333,000
市内遺跡範囲等確認調査事業費	12,508,000
埋蔵文化財保存処理	6,475,500
満日地区開場整備発掘調査費	465,000
両新地区開場整備発掘調査費	17,841,500
道上地区開場整備発掘調査費	125,000
巻束町地区開場整備発掘調査費	585,000
古津八幡山遺跡史跡等保存管理計画策定事業費	2,000,000
古津八幡山遺跡及びガイダンス施設保存・活用事業	2,702,000
文化財センター普及・活用事業	7,631,000
○諸収入	358,878,800
満日地区開場整備発掘調査受託収入	8,370,000
両新地区開場整備発掘調査受託収入	321,148,800
道上地区開場整備発掘調査受託収入	2,250,000
巻束町地区開場整備発掘調査受託収入	10,530,000
小規模緊急発掘調査受託収入	16,580,000
○雑入	1,136,660
合 計	411,303,860

■歳出 （一般会計）	
区 分	決算額（円）
○市内遺跡範囲等確認調査事業	27,435,989
○埋蔵文化財本格発掘調査事業	396,912,000
満日地区開場整備発掘調査	9,300,000
両新地区開場整備発掘調査	356,832,000
道上地区開場整備発掘調査	2,500,000
巻束町地区開場整備発掘調査	11,700,000
小規模緊急発掘調査	16,580,000
○古津八幡山遺跡史跡等保存管理計画策定事業	4,000,000
○古津八幡山遺跡及びガイダンス施設管理運営費	18,722,570
○文化財センター管理運営費	78,801,476
合 計	525,872,035



新潟市文化財センター外観

Ⅳ 新潟市古津八幡山遺跡歴史の広場

「新潟市古津八幡山遺跡歴史の広場」には、ガイダンス施設である「史跡古津八幡山 弥生の丘展示館」と竪穴住居等が復元されている「史跡公園」がある。平成26年度に古津八幡山古墳及び周辺の復元整備工事が完了し、それまで古津八幡山遺跡歴史の広場は一部供用されていた状態であったが、平成27年4月17日より全面供用開始となった。

全面供用開始に合わせて、交通量の多い国道403号線から古津八幡山遺跡歴史の広場へ行くための交差点に道路標識を設置した（平成27年3月）。さらに、交差点沿いに看板を設置し、通行者の目に触れるようにした。その後、看板は後述する企画展の宣伝に利用している。

史跡古津八幡山遺跡の概要や整備の概要、古津八幡山遺跡歴史の広場の詳細な施設情報については、『年報』第1号に記載されている〔渡邊2014c〕。また、これまでの経過も『年報』第1～3号の通りである〔渡邊2014cほか〕。



看板設置状況

1 資料の公開・展示

(1) 概要

弥生の丘展示館は、展示室や体験学習室が主な施設であり、古津八幡山遺跡に関わる展示を行っている。

常設展 展示室には古津八幡山遺跡から出土した旧石器時代から平安時代の土器や石器等500点以上を展示する他、弥生時代のムラの様子を縮尺300分の1の復元ジオラマ模型で再現している。また、遺跡への親近感や理解が深まるよう、展示ケースの壁面には全面に考古イラストレーターの早川和子さんによる時代毎の復元画を貼っている。その他、ガイダンスシアターでは、65インチの大形モニターで、古津八幡山遺跡の概要やこれまでの調査成果等を映像で見ることができる。

企画展 古津八幡山遺跡歴史の広場の全面供用開始を記念して、平成27年度より企画展を開催した。展示室の中央部分に展示ボードと展示ケースを設置し、企画展コーナーとして、平成27年度は4回の企画展を開催した。また、弥生の丘展示館に隣接する新潟市新津美術館市民ギャラリーで、特別企画展を2回開催した。

各企画展及び特別企画展では、関連した講座・講演会・イベントを開催しており、講座・講演会の内容とアンケート調査の結果等をまとめた記録集を作成し、4回行われた講座・講演会に全て参加した人に配布した。

各企画展の内容をまとめた一覧は表1の通りであり、次頁より各企画展の詳細について記載する。（金田拓也）

表1 平成27年度弥生の丘展示館企画展一覧

企画展							
年度毎の番号	企画展名	会期	企画担当	来館者数(人)	関連講座・講演会・イベント		
					演目 イベント名	開催日	参加者数(人)
1	古津八幡山古墳の築造と復元整備	2015/4/7 (火) ～6/28 (日)	相田泰臣	20,257	古津八幡山古墳の過去と未来 ～歴史的意義と保存活用～ 展示解説	2015/4/29 (水・祝日) 2015/5/6 (水・祝日)	67 15
2	蒲原の王墓 古津八幡山古墳と豪族の屋敷	2015/7/7 (火) ～10/4 (日)	相田泰臣	34,377	越佐における古墳時代 豪族居館関連遺跡について 展示解説	2015/7/18 (土) 2015/8/16 (日)	85 15
3	邪馬台国の時代1 北陸と会津を結んだ古津八幡山 ～東北部(会津)の世界～	2015/10/6 (火) ～12/27 (日)	渡邊朋和	8,554	北陸と会津を結んだ? 古津八幡山遺跡 ～弥生時代後期の村・土器から探る～ 展示解説	2015/10/25 (日) 2015/12/6 (日)	52 7
4	邪馬台国の時代2 縄文のある弥生土器 ～新潟県北部(阿賀北)の世界～	2016/1/5 (火) ～3/27 (日)	渡邊朋和	4,780	古津八幡山から見た 卑弥呼の時代の阿賀北 ～いろいろわかってきた 弥生時代後期の新潟北部～ 展示解説	2016/3/6 (日) 2016/1/24 (日)	68 2
特別企画展							
年度毎の番号	企画展名	会期	企画担当	来館者数(人)	関連講座・講演会・イベント		
					演目 イベント名	開催日	参加者数(人)
1	史跡古津八幡山遺跡の 発掘調査と復元整備の歴史	2015/4/21 (火) ～5/6 (日)	渡邊朋和	1,200	展示解説	2015/5/3 (日)	15
2	絵で見るむかしの日本 ～早川和子原画展～	2015/9/15 (火) ～9/27 (日)	渡邊朋和	1,119	ギャラリートーク	2015/9/20 (日)	19
					似顔絵プレゼント		13
					絵本づくり	2015/9/21 (月・祝日)	14
					くるくるアニメづくり		28
					似顔絵プレゼント		5

(2) 企画展1「古津八幡山古墳の築造と復元整備」

会 期 平成27年4月7日(火)～6月28日(日)

担 当 相田泰臣

来館者数 20,257人

展示概要

平成23～25年度に行った復元整備のための発掘調査の結果、古津八幡山古墳は直径60mで、墳丘斜面中ほどに幅約4～5mの平坦面(テラス)が巡る新潟県最大の大形円墳であることが明らかとなった。古墳が造られた年代は、出土遺物や築造方法等から、約1,600年前(古墳時代中期初頭前後)と推測されている。

また、古墳の南西部に巨大な周濠を掘って出た土を、主に古墳の盛土として利用し、墳丘の中心には小丘を、墳丘の外縁には土手状盛土を水平面を形成しながら墳丘を高くする築造方法等が判明した。

企画展では、調査で明らかとなった古津八幡山古墳の築造方法に焦点を当て、土地の選地から完成までの流れや、築造方法の特徴等について展示・解説を行った。

展示構成

- 1) 古津八幡山古墳の調査経過
- 2) 復元整備のための確認調査
- 3) 古津八幡山古墳が造られる以前
- 4) 古津八幡山古墳の造り方
- 5) 古津八幡山古墳の剥ぎ取り土層
- 6) 古津八幡山古墳の復元整備工事

主要展示 古津八幡山古墳の築造方法について、墳丘断面図の模式図を使い、古墳が造られる前の地形から、古墳が完成していくまでの変遷を示した。

また、場所による盛土の特徴や、利用した土の違い等について解説を行った。

なお、平成24年度の発掘調査で剥ぎ取りを行った古墳中心部の剥ぎ取り土層については、当初、特別企画展1で展示をしていたが、特別企画展1が終了した5月7日以降は、本企画展で展示した。ただし、スペースの都合もあり、土層の一部のみの展示となった。また、弥生の丘展示館展示室入口前に常設で展示している古津八幡山古墳の剥ぎ取り土層と併せ、企画展の中で解説を行った。

関連講演会 企画展の関連講演会を1回開催した。

演 目 古津八幡山古墳の過去と未来

－歴史的意義と保存活用－

講 師 若狭 徹氏(高崎市教育委員会)

日 時 平成27年4月29日(水・祝)

午後1時30分～午後3時

会 場 新潟市新津美術館レクチャールーム

参 加 者 67人

展示解説 展示担当による展示解説を開催した。

日 時 平成27年5月6日(水・祝)

午後1時30分～午後3時30分

参加者数 15人

弥生の丘展示館で企画展の解説を行った後、新潟市新津美術館市民ギャラリーへ移動して、特別企画展1で展示中の剥ぎ取り土層を見学しながら解説を行った。

来館者の声 企画展関連講演会では、本企画展に加え、講演会場の新潟市新津美術館で開催中であった特別企画展1の展示を同時に見ることができ、古津八幡山遺跡についての理解が進んだという意見があった。

また、古墳中心部分の剥ぎ取り土層については、当時の人々の土木技術や様々な工夫がうかがえるといった感想があった。剥ぎ取り土層は、他の広い場所で展示することを検討したかどうかという意見もあった。

ま と め 現在、古津八幡山遺跡歴史の広場では、復元整備された古津八幡山古墳を見学したり、古墳の頂上に登ったりすることができるが、本企画展は、普段外からは見ることのできない古墳内部の土の状況や築造方法に焦点を当てた展示であった。

なお、弥生の丘展示館のガイダンスシアターにおいて、平成23～26年度にかけて実施した古津八幡山古墳の確認調査や復元整備工事の記録映像を平成27年度から新たに追加したが、この映像の中でも、古津八幡山古墳の築造方法についてCG等による解説を行っている。

展示した古墳中心部分の剥ぎ取り土層については、合計約11mもあることから展示場所が限られている。また、剥ぎ取りは十字方向で行っており、まだこれまでに展示をしていない剥ぎ取り土層も存在する。剥ぎ取り土層は当時の土木技術や盛土の違い等を直接見ることでできる資料であり、今後、展示の方法等について検討していきたい。(相田泰臣)



展示風景(展示室)

(3) 企画展 2 「蒲原の王墓」

古津八幡山古墳と豪族の屋敷

会 期 平成27年 7 月 7 日（火）～10 月 4 日（日）

担 当 相田泰臣

来館者数 34,377人

展 示 概 要 文化財センターで平成27年 4 月 7 日から 5 月12日にかけて開催した企画展 1（Ⅲ 5(2)）と概ね同じ展示内容・構成である。

展 示 構 成

- 1) 豪族の屋敷（居館）について
- 2) 新津丘陵麓の古墳時代の遺跡
- 3) 舟戸遺跡の調査成果
- 4) 古津八幡山古墳が造られた頃の周辺の遺跡
- 5) 中田遺跡・沖ノ羽遺跡・塩辛遺跡
- 6) 古津八幡山古墳の復元整備工事

関連講演会 企画展の関連講演会を 1 回開催した。

演 目 越佐における古墳時代豪族居館関連遺跡について

講 師 橋本博文氏（新潟大学人文学部教授）

日 時 平成27年 7 月18日（土）
午後 1 時30分～午後 3 時

会 場 新潟市新津美術館レクチャールーム

参 加 者 85人

展 示 解 説 展示担当による展示解説を開催した。

日 時 平成27年 8 月16日（日）
午後 1 時30分～午後 3 時30分

参加者数 15人

来館者の声 関連講演会では、近くに豪族居館があるかもしれない、大変興味深いという意見があった。また、佐渡の遺跡についても知ることができて良かった、佐渡に前期古墳があるとおもしろい等の意見もあった。他に、県内または県外の古墳の日帰り見学ツアーを企画して欲しいという要望もあった。

ま と め 古津八幡山古墳は県内で最も大きく、蒲原平野の各地域の豪族が共同して推し立てた王（有力な豪族）の墓であった可能性が考えられている。

また、各地の事例から、古墳を造った豪族の多くは古墳の近くに屋敷（居館）を構えていたことが分かっている。古津八幡山古墳を造った豪族の屋敷の所在は確定していないが、古津八幡山古墳は丘陵の北端に造られており、古墳を望むことのできる北側の麓に存在する可能性が高い。

古墳を造るには多くの労力が必要で、完成までに長い期間を要する。そのため、多くの古墳は将来被葬者となる豪族が生前から造り始め、完成後には古墳の上から自

分が治める土地や人民を眺め、褒め称えたとされる。

平成26年度に古津八幡山古墳の復元整備工事が完了し、平成27年 4 月17日より歴史の広場は全面供用が始まっている。古墳の頂上に登ると、北や北西方向の眼下に越後平野が広がり、西の方向では角田山、弥彦山、北方では信濃川や阿賀野川の河口付近まで見渡せる。条件が良ければ佐渡の輪郭も見ることができる。古津八幡山古墳を造った豪族も、生前にこのような風景を眺めていた可能性がある。（相田泰臣）



蒲原の王墓 古津八幡山古墳と 豪族の屋敷

会 期 2015年 7月7日(火)～10月4日(日) 観覧無料
休 館 日 7月13日・21日、8月3日・10日・24日・31日、9月14日・28日 開館時間 午前10時～午後5時
講 演 会 橋本 博文氏(新潟大学)「越佐における古墳時代豪族居館関連遺跡について」
日 時 2015年 7月18日(土)13:30～15:30 会 場 新潟市新津美術館レクチャールーム 定員 80人
史跡古津八幡山 弥生の丘展示館 TEL/FAX 0250-21-4133
主催/お問い合わせ 新潟市文化財センター TEL 025-378-0480 FAX 025-378-0485

ポスター



展示風景（展示室）



関連講演会風景（越佐における古墳時代豪族居館関連遺跡について）

Ⅳ

新潟市古津八幡山遺跡
史の広場

(4) 企画展3「邪馬台国の時代1

北陸と会津を結んだ古津八幡山

—東北南部（会津）の世界—

会 期 平成27年10月6日（火）～12月27日（日）

担 当 渡邊朋和

来館者数 8,554人

展 示 概 要 会津では弥生時代後期後半になると、東北系（天王山式系）に対し、北陸系土器の比率が徐々に増えていく。また竪穴住居の平面形も円形や楕円形から北陸と同じ隅丸方形に変化する。福島県桜町遺跡で多数発見されている方形周溝墓や前方後方形周溝墓・前方後円形周溝墓等の墳墓も北陸に起源があると考えられる。

弥生時代後期の新潟県では、阿賀野川以南では北陸系土器や隅丸方形の竪穴住居が、阿賀野川以北では東北系土器や円形や楕円形の竪穴住居が造られていた。古津八幡山遺跡はちょうどその中間点にある。検出された約50棟の竪穴住居は全て隅丸方形であるが、北陸系・東北系土器が共に出土しており、方形周溝墓・前方後方形周溝墓も見ついている。交通の要衝にあった古津八幡山遺跡が北陸と会津を結ぶ役割を果たしたと考えられる。

展 示 構 成 会津の弥生時代後期初頭から古墳時代初頭の土器を古いものから順に展示した。中でも桜町遺跡出土の土器・竪穴住居・墳墓の変遷等に着目した。桜町遺跡は古津八幡山遺跡と同じように、北陸系・東北系・折衷系の土器が出土し、弥生時代後期初頭から古墳時代初頭まで長期に継続した特異な遺跡である。桜町遺跡で提唱された桜町1式・2式・3式が〔福田2011〕、概ね八幡山2期、3・4期、5期に併行することを確認するとともに、桜町1式以降、東北系に対し北陸系土器の比率が徐々に増えていき、桜町3式になると北陸系土器が9割に達することを示した。また、桜町遺跡等の会津で検出されている当該期の竪穴住居と墳墓形態の変遷案を示した。

最後に、新潟・会津の弥生時代後期終末から古墳時代前期の文化の起源と考えられる富山市千坊山遺跡群・向野塚墳墓等のパネルを比較資料として展示した。

主 要 展 示 会津における古津八幡山遺跡併行期の弥生時代後期から古墳時代初頭の土器を福島県文化財センター白河館・会津坂下町教育委員会から借用し展示した。

八幡山0期併行 開津台畑遺跡・和泉遺跡

八幡山1期併行 能登遺跡・細田遺跡

八幡山2期併行 屋敷遺跡・館ノ内遺跡

八幡山2期～5期併行 桜町遺跡遺構一括資料

八幡山5期併行 稲荷塚遺跡

八幡山5期併行以降 宮東遺跡

当該期の喜多方市・富山市の周溝墓・墳墓のパネル。

関連講演会 企画展の関連講演会を開催した。

演 目 北陸と会津を結んだ？古津八幡山遺跡
—弥生時代後期の村・土器から探る—

講 師 滝沢規朗氏（新潟県教育庁文化行政課）

日 時 平成27年10月25日（日）

午後1時30分～3時30分

会 場 新潟市新津美術館市民ギャラリー

参加者数 52人

講演は、考古学の特性から始まり、弥生文化とはなにか、古津八幡山遺跡の状況、会津の状況と丁寧な説明で一般の参加者にも分かり易く好評だった。新潟と会津の関係に関しては、新潟にある大規模な環濠集落の終焉と、北陸系土器が会津に入ってくる時期が同時期であり、古津八幡山遺跡で環濠が埋まり遺跡が衰退する滝沢3期頃〔滝沢2013〕から桜町遺跡では北陸系の比率が徐々に増し、次の滝沢4期になると東北系と北陸系の比率が逆転するから、古津八幡山遺跡は、むしろ富山等の北陸北東部と会津の交流を制御していたのではないかとした。

展 示 解 説 展示担当による展示解説を開催した。

日 時 平成27年12月6日（日）

午後1時30分～午後3時30分

参加者数 7人

参加者は北陸と会津の関係について熱心に聞き入っていた。

来館者の声 新潟と会津との交流ということもあり、会津からの来館者が多かった。桜町遺跡のある福島県河沼郡湯川村から来た方々は桜町遺跡の重要性について再認識されたようだった。

ま と め 弥生時代後期から古墳時代初頭の北陸北東部と会津の関係を考える際に、古津八幡山遺跡の存在を看過することはできないが、どのような役割を担っていたのか解明するためにはさらなる調査・研究が必要である。（渡邊朋和）



展示風景（展示室）

(5) 企画展 4 「邪馬台国の時代 2

縄文のある弥生土器

—新潟県北部（阿賀北）の世界—

会 期 平成28年1月5日（火）～3月27日（日）

担 当 渡邊朋和

来館者数 4,780人

展 示 概 要 弥生時代中期後半には、新潟県北部（阿賀北）では秋田系（宇津ノ台式系）・北陸系（小松式系）・会津系（川原町口式系）の3系統の土器が主に使われていた。各系統の要素を併せ持った折衷土器も多く作られた。日本海を介して北陸と秋田・会津を繋いでいたのが主に阿賀北の海岸部から砂丘地帯や、内水面地帯だったと推測される。後期になると、このような社会情勢を背景として、各系統の要素を取り入れた日本海側の天王山式系土器として「砂山式」が成立した。

阿賀北では、遅くとも中期後半には北陸系土器と共に農耕がもたらされる。しかし、後期になると東北系（天王山式系）が主体となり、北陸系土器が少なくなると共に、農耕の痕跡も見られなくなる。一方で、後期になると富山県や石川県等でも天王山式系土器が出土するようになる。中期後半には北陸と秋田の人々が阿賀北で交流をしていたが、後期になると阿賀北の人々が直接北陸へ向いて交流をするようになったものと考えられる。阿賀北で見つкаっている続縄文土器・ガラス玉・鉄器・青銅器等は広域の交流を物語る。北陸系土器が主体になり、この地域の社会が大きく変化するのは、古津八幡山遺跡が廃絶される古墳時代早期（八幡山5期）以降のことである。

展 示 構 成 阿賀北の弥生時代中期後半から後期、古墳時代初頭の弥生土器・続縄文土器・石器・金属製品等を、新発田市教育委員会・胎内市教育委員会・（公財）新潟県埋蔵文化財調査事業団・村上市教育委員会から借用して展示した。遺物キャプションには系統毎に異なる色の丸いシールを貼り、来館者にも分かり易いよう配慮した。また、中期後半に農耕文化が伝わることを大形石庖丁・粃痕土器を展示することで紹介した。

主 要 展 示 中期後半の資料として狐塚遺跡・道端遺跡・六百地遺跡・長松遺跡・中曽根遺跡・砂山遺跡。そして、標識遺跡である山草荷遺跡の写真、系統毎のパネル及び隣接する王子山遺跡の土器・石器。

後期の資料として砂山遺跡・堂の前遺跡・松影遺跡・山元遺跡・滝ノ前遺跡。終末期の資料として正尺C遺跡・狐森遺跡・衣田遺跡・大塚遺跡等の土器等である。

発見された遺構は、写真パネル・遺構平面図で展示した。

関連講演会 企画展の関連講演会を開催した。

演 目 古津八幡山遺跡から見た卑弥呼の時代の阿賀北—いろいろわかってきた弥生時代後期の新潟県北部—

講 師 野田豊文氏（村上市教育委員会）

日 時 平成28年3月6日（日）

午後1時30分～3時30分

会 場 新潟市新津美術館レクチャールーム

参加者数 68人

弥生時代・弥生土器とはどのようなものかという概説があり、その後、当時の生活について『魏志倭人伝』の詳しい説明があった。『魏志倭人伝』に書かれた内容は西日本のことではあるが、弥生時代の姿を具体的にイメージするには大変に有効であった。その後、東日本・新潟県・阿賀北と順に説明がなされた。

阿賀北では後期前半には住居形態・土器等が殆ど東北系で占められるから北陸との関係は少ない。一方、古津八幡山遺跡は隅丸方形の住居形態や北陸系・東北系土器があり、折衷土器（八幡山式）も見られることから北陸との関係が強かった。その後、後期後半になると阿賀北でも北陸系土器が出土するようになるため、阿賀北の人々はそれまでの山に依存していた暮らしから、砂丘に出て海路を使って色々と情報交換をしたり、物々交換をしたりするようになったと締めくくられた。

展 示 解 説 展示担当による展示解説を開催した。

日 時 平成28年1月24日（日）

午後1時30分～3時30分

参加者数 2人

真冬日で雪が降るあいにくの天候だったため、参加者は少なかったが、熱心に聞き入っていた。

来館者の声 阿賀北をテーマにした展示だったために、特に村上市からの来館者が多かった。古津八幡山遺跡と山元遺跡の関係について関心があるようだった。

ま と め 新潟県内の弥生時代中期後半から後期、古墳時代初頭の社会・文化の動向はダイナミックであり、広域の調査研究が不可欠である。（渡邊朋和）



関連講演会風景（古津八幡山遺跡から見た卑弥呼の時代の阿賀北）

(6) 特別企画展1「史跡古津八幡山遺跡の
発掘調査と復元整備の歴史」

会 場 新潟市新津美術館市民ギャラリー
会 期 平成27年4月21日(火)～5月6日(水)
担 当 渡邊朋和
来館者数 1,200人

展 示 概 要 古津八幡山遺跡が発見されてから30年、新潟県内最大の古津八幡山古墳の公開、古津八幡山遺跡歴史の広場の全面供用開始に合わせた企画展である。

古津八幡山遺跡は1987(昭和62)年に金津丘陵で計画された大規模な土取り工事に伴う確認調査で発見された。日本海側最北の高地性環濠集落と大規模な製鉄遺跡群が発見され、全国規模の遺跡保存運動や地元を中心とする遺跡保存運動等により遺跡の主要範囲が現状のままに保存され、2005(平成17)年に国の史跡に指定された。そして堅穴住居や環濠・古墳等の復元整備工事が行われ現在に至っている。今では年間何万人もの来場者が訪れる史跡公園となっているが、ここに至るまでには多くの方々のご尽力に拠るところが大きい。古津八幡山遺跡が発見されてから現在に至る歴史を、関係者の皆様への感謝の気持ちを込めて企画展を開催した。

展示構成・主要展示 発掘調査・遺跡保存運動・国史跡指定・史跡の復元整備工事、そして日々の保存管理や活用事業等、古津八幡山遺跡が発見されてから現在に至るまでの歴史を辿り、これまでの発掘調査や復元整備等の記録を示した。保存されている公文書・図面・写真・遺物等を展示した。

なかでも、弥生の丘展示館では展示室の面積が狭く十分な展示ができなかった遺跡保存運動の歴史については、遺跡保存要望書及び回答・各種団体からの保存署名簿・新聞報道等を展示することができた。また、全長10mもあり、なかなか展示する機会の少ない古津八幡山古墳の墳丘盛土の土層剥ぎ取りパネルを展示した。

併せて、古津八幡山遺跡山麓や近隣の金津丘陵製鉄遺跡群で調査された奈良・平安時代の鉄づくりの様子を出土遺物やパネルで展示すると共に、実物大で箱形炉の復元模型を展示した。

展示構成は以下の通りである。

1) 古津八幡山遺跡発見前史

- ①古津八幡山遺跡・金津丘陵製鉄遺跡群の廃絶
- ②柿団地の造成(1972～1973年)
- ③新潟県教育委員会による詳細分布調査(1985年)

2) 開発計画と古津八幡山遺跡の発見(1986～1987年)

- ①開発計画がおこる
- ②古津八幡山遺跡の発見－弥生時代の高地性集落と古

墳の発見－(1986～1987年) 1・2次調査

3) 発掘調査の進展と遺跡保存運動(1988～1990年)

- ①発掘調査の進展 3・4・5次調査
- ②遺跡保存運動の高まり
- ③現状保存範囲の決定 6・7次調査

4) 遺跡の保存と「花と遺跡のふさと公園」事業(1991～1992年)

- ①記録保存のための発掘調査 8次調査
- ②新潟大学による古津八幡山古墳の測量調査
- ③花と遺跡のふさと公園整備事業

5) 史跡指定と保存整備を目的とした発掘調査(1993～2013年)

- ①遺跡範囲の拡大や新たな環濠・方形周溝墓の発見 9・10・13・14次調査
- ②国指定史跡になる 15・16次調査
- ③古津八幡山古墳の確認調査 11・12・17・18・19次調査

6) 史跡保存整備事業のあゆみ(2004～2015年)

- ①保存整備の基本計画
- ②保存整備工事
- ③史跡古津八幡山遺跡 弥生の丘展示館

7) 金津丘陵製鉄遺跡群－「金津」の地名の由来－

- ①鉄製品ができるまで
- ②金津丘陵の鉄づくり
- ③さわってみよう－磁石につくものはどれ？－

8) 未来に向けて－史跡の保存・活用と調査・研究－

展 示 解 説 展示担当による展示解説を開催した。

日 時 平成27年5月3日(日)

午後1時30分～3時30分

参加者数 16人

来館者の声 歴史の広場としてきれいに復元整備されている古津八幡山遺跡の歴史がわかった。当初の予定通りに開発計画が進めば、土取りによって何も無くなったかもしれない。保存運動等の成果で遺跡が残され、史跡に指定されて本当に良かったという声が多数あった。

ま と め 発掘調査に参加された作業員の方々等の苦勞された関係者の方々が大量来て下さった。また、古津八幡山遺跡の歴史を、多くの方々から理解していただいていた良かった。

遺跡保存運動の歴史は、史跡古津八幡山遺跡の根幹に関わることであり、本来弥生の丘展示館の常設で展示しなければならないものであることを、企画展のための調査で再認識した。今後、展示やガイドブックのような形で紹介する必要があるだろう。また、発掘調査は1987年に始まった第1次調査から2013年の第19次調査まで行われ

ているが、まだ、解明しなければならない課題も多く残されている。

文化財センター企画展 本企画展は第2会期として会場を文化財センターに移し、規模を縮小して展示を行った。

会 場 新潟市文化財センター

会 期 平成27年5月19日（火）～7月12日（日）

担 当 渡邊朋和

来館者数 1,722人

文化財センター企画展関連講座 企画展の関連講座を開催した。

演 目 古津八幡山遺跡の

発掘調査と復元整備の歴史

－史跡古津八幡山2,000年の歴史－

講 師 渡邊朋和

日 時 平成27年5月31日

午後1時30分～午後3時

会 場 新潟市文化財センター研修室

参加者数 25人

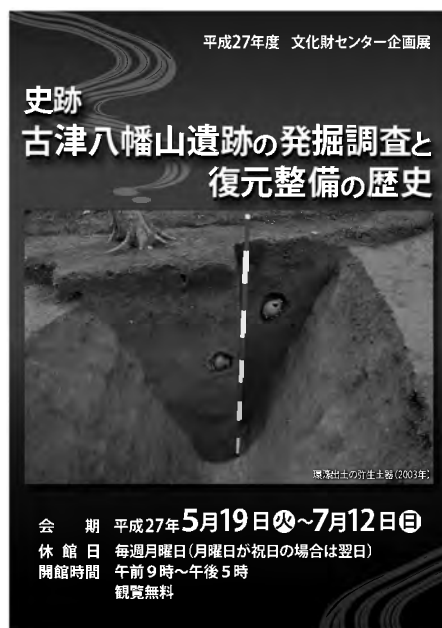
展示構成に沿って、弥生時代に古津八幡山遺跡に人々が暮らすようになってから現在に至る2,000年の歴史を話した。

おわりに 史跡古津八幡山遺跡は、大勢の方々の努力で現状のまま保存され今に至っている。新潟県内最大の古津八幡山古墳が復元整備され、弥生時代から古墳時代の移り変わりが一つの遺跡で分かるようになった。古津八幡山遺跡は未調査部分があり、今後の調査で新たな環濠が発見される可能性がある。また、古津八幡山古墳を築いた豪族の屋敷（居館）の場所が未定であり課題である。

（渡邊朋和）



チラシ表（全面供用開始）



チラシ表（文化財センター企画展）



展示風景（新潟市新津美術館市民ギャラリー）



展示解説風景（新潟市新津美術館市民ギャラリー）

IV

新潟市古津八幡山遺跡歴史の広場

(7) 特別企画展2「絵で見るむかしの日本 —早川和子原画展—」

会 場 新潟市新津美術館市民ギャラリー
会 期 平成27年9月15日(火)～9月27日(日)
担 当 渡邊朋和
来館者数 1,119人

展 示 概 要 弥生の丘展示館では、小さなお子さんにもイメージしやすいように展示ケース全面に早川和子さんの復元画を展示しており大変好評である。

特別企画展2は史跡古津八幡山遺跡歴史の広場の全面供用開始に合わせて、早川和子さんが描かれた日本全国の主要な復元画と共に、遺跡や遺物の写真パネルを一緒に展示した。子供から大人までの広い世代の方々に遺跡や歴史に親しみを抱き、興味を持つきっかけになることを意図した企画展である。

早川和子さんの復元画には発掘調査の成果を手がかりに当時の人々が生活していた様子が分かりやすく具体的に描かれている。日本の歴史を視覚的に理解するために描かれる復元画であるが、早川和子さんの描く各時代に生きた人々の姿は私たちをその時代へ誘ってくれる。

展示構成・主要展示 早川和子さんからお借りした原画207点や各機関より提供を受けたデジタルデータより出力した原画98点の合計305点を概ね時代順に展示した。併せて復元画をつくる基となった遺跡・遺物の写真パネルを展示した。その他新聞に掲載されたイラスト原画も展示した。デジタル出力画を含んではいるが、これまでに各地で行われた早川和子さんの原画展ではおそらく最大規模と考えられる(表2)。

展示構成と主な遺跡は下記の通りである。

- 1) 旧石器時代・縄文時代
三内丸山遺跡・馬高遺跡等
- 2) 弥生時代、『考古学はたのしい2・3』原画
吉野ヶ里遺跡・西谷墳墓群・古曽部・芝谷遺跡等
- 3) 古墳時代
今城塚古墳・新池埴輪製作遺跡
- 4) 飛鳥時代
飛鳥池遺跡・藤原宮跡等
- 5) 奈良時代・平安時代、近世
平城宮跡・長屋王邸宅跡・讃岐国分寺跡等
- 6) ドイツ展、新聞イラスト
- 7) 教科書・各種書籍などの原画
『よみがえる古代の日本』原画等
- 8) 古津八幡山遺跡

主 要 展 示 早川和子さんが描かれた各時代のイラストを展示したが、特に古津八幡山遺跡と同時代の弥生

時代・古墳時代のイラストをできるだけ多く展示するように心がけた。また、弥生の丘展示館の展示で使用している12枚の原画を初めて展示した。

復元画ではないが、弥生時代をテーマに書かれた『考古学はたのしい2 海をわたって来た人々』・『考古学はたのしい3 戦争が始まった』(小学館)の原画を展示した。2冊の絵本は西日本の弥生時代を題材に描かれており、弥生文化が朝鮮半島から九州に伝わったことや、ムラとムラの戦争の様子がいきいきと描かれている。この原画によって古津八幡山遺跡の頃の弥生時代の生活や防禦的集落の様子がイメージできたのではないと思われる。

関連イベント

イベント ギャラリートーク(展示解説)

日 時 9月20日(日)
午前11時～12時、午後3時～4時

参加者数 19人

早川和子さんに発掘調査された遺跡からどのように昔の生活をイラストにしていくなのか、作品を解説しながら、その裏話を語っていただいた。

イベント 絵本づくり・くるくるアニメ

日 時 9月21日(月・祝日)
午前10時～12時、午後1時～3時

参加者数 14人(絵本づくり)、28人(くるくるアニメ)

早川和子さんの指導により、クレパスを使って絵本づくりやくるくるアニメを制作した。

イベント 似顔絵プレゼント

日 時 9月20日(日)、9月21日(月・祝日)
参加者数 13人(20日)、5人(21日)

早川和子さんの書籍を買っていただいた方に、早川さんが似顔絵を描いて差し上げた。

来館者の声 優しく親しみのある絵で、「見ているとほのぼのとする、遺跡や歴史に触れるきっかけになった」「当時の人々の暮らしの様子がよく分かった」という感想を多数いただいた。

ま と め 企画展ではデジタル出力画も展示したが、原画が持つクレパスの発色の素晴らしさや迫力と比較すると見劣りがし、全て原画で展示できなかったのが心残りであった。また、復元画とともに遺跡・遺物写真をパネルで示したが、遺物そのものの展示が古津八幡山遺跡出土資料に限られたことも残念であった。

文化財センター企画展 第2会期として会場を文化財センターに移し、規模を縮小して展示を行った。

会 場 新潟市文化財センター
会 期 平成27年10月14日(水)～11月23日(月)
来館者数 1,334人 (渡邊朋和)

表2 絵で見るむかしの日本—早川和子原画展— 展示資料リスト

No.	タイトル	遺跡名	時代
◆ 1	原石を打ち欠いて石器を作る人々	国史跡 早島岡遺跡	後期旧石器時代
2	わが子への思い	国史跡 堀 馬道遺跡	縄文時代早期
3	日本最古の縄文性貝塚	国史跡 金沢 東名遺跡	縄文時代早期
4	三内丸山の全景	特別史跡 三内丸山遺跡	縄文時代前期—中期
5	夏の祭衣住居	特別史跡 三内丸山遺跡	縄文時代前期—中期
◆ 6	秋 クリ林の貯蔵穴	特別史跡 三内丸山遺跡	縄文時代前期—中期
7	冬 鈴りから帰る親子	特別史跡 三内丸山遺跡	縄文時代前期—中期
◆ 8	海の幸に恵まれたムラ	国史跡 里浜貝塚	縄文時代前期—晩期
◆ 9	縄状列石と祈り	国史跡 蟹ノ木遺跡	縄文時代後期
10	縄文の祈りが見えるストーンサークル	特別史跡 大海環状列石	縄文時代後期
◆ 11	縄文の祈り ストーンサークル	特別史跡 大海環状列石	縄文時代後期
12	壊れた土器を捨てる	国史跡 馬道遺跡	縄文時代中期
13	石斧で木を伐り、削る	国史跡 馬道遺跡	縄文時代中期
14	貯蔵穴に物を蓄える	国史跡 馬道遺跡	縄文時代中期
15	縄文土器を作る	国史跡 馬道遺跡	縄文時代中期
16	縄文土器を焼く	国史跡 馬道遺跡	縄文時代中期
17	死者を埋葬する	国史跡 馬道遺跡	縄文時代中期
18	落とした穴で甕を揃ええる	国史跡 馬道遺跡	縄文時代中期
19	木の実を潰し、土器で煮る	国史跡 馬道遺跡	縄文時代中期
20	壊れた土器を捨てる	国史跡 馬道遺跡	縄文時代中期
21	死者を埋葬する	国史跡 馬道遺跡	縄文時代中期
22	掘立柱建物	国史跡 馬道遺跡	縄文時代中期
23	土器で煮炊きをする	国史跡 馬道遺跡	縄文時代中期
24	縄文土器を作る	国史跡 馬道遺跡	縄文時代中期
25	落とした穴で甕を揃ええる	国史跡 馬道遺跡	縄文時代中期
26	貯蔵穴に物を蓄える	国史跡 馬道遺跡	縄文時代中期
27	矢を射る	国史跡 馬道遺跡	縄文時代中期
28	石穴で火を燃	国史跡 馬道遺跡	縄文時代中期
29	石斧で木を伐る	国史跡 馬道遺跡	縄文時代中期
30	木の実を蓄える	国史跡 馬道遺跡	縄文時代中期
31	火焔土器で煮炊きをする	国史跡 馬道遺跡	縄文時代中期
32	石皿と磨石で木の実を潰す	国史跡 馬道遺跡	縄文時代中期
33	穴をあける	国史跡 馬道遺跡	縄文時代中期
34	網で魚を捕る	国史跡 馬道遺跡	縄文時代中期
◆ 35	日本最古の農村風景—春夏秋冬—	国史跡 板付遺跡 [新しい社会 6上] (東京書籍) 原画	縄文時代後期
36	日本最古の弥生環壕集落	特別史跡 吉野ヶ里遺跡	弥生時代
37	甕を揃える人々	特別史跡 吉野ヶ里遺跡	弥生時代
38	北内野の祭壇	特別史跡 吉野ヶ里遺跡	弥生時代
39	弥生人と現代人 城壁の出入り口	特別史跡 吉野ヶ里遺跡	弥生時代
40	弥生住居の内部	特別史跡 吉野ヶ里遺跡	弥生時代
41	鉄(鉄斧)の加工、青銅器(銅剣)の鋳造	特別史跡 吉野ヶ里遺跡	弥生時代
42	農産と織物の伝来	特別史跡 吉野ヶ里遺跡	弥生時代
43	土の甕	特別史跡 吉野ヶ里遺跡	弥生時代
44	吉野ヶ里の波止場	特別史跡 吉野ヶ里遺跡	弥生時代
45	城壁と出入り口の守備	特別史跡 吉野ヶ里遺跡	弥生時代
46	弥生人の戦争	特別史跡 吉野ヶ里遺跡	弥生時代
47	埴田墓	特別史跡 吉野ヶ里遺跡	弥生時代
48	物見櫓のある環壕集落	特別史跡 吉野ヶ里遺跡 [吉野ヶ里 繁栄した弥生都市] (草思社) 原画	弥生時代
49	冬をむかえる	特別史跡 吉野ヶ里遺跡 [吉野ヶ里 繁栄した弥生都市] (草思社) 原画	弥生時代
50	ムラのにぎわい	特別史跡 吉野ヶ里遺跡	弥生時代
51	司祭者の祈り	福岡県那珂川町 安徳台遺跡	弥生時代中期
◆ 52	渡来人がかかわった青銅器の鋳造	熊本市 ハの坪遺跡	弥生時代前期—中期
53	砂丘に葬られた300人の弥生人	国史跡 土井ヶ浜遺跡	弥生時代前期—中期
◆ 54	埋められた大甕の青銅器	国史跡 鹿野谷遺跡	弥生時代中期
55	西谷環状列石墳丘	国史跡 西谷墳墓群	弥生時代中期
56	墓の上の祭祀	国史跡 西谷墳墓群	弥生時代中期
57	稲刈り	国史跡 西谷墳墓群	弥生時代中期
58	魚を捕り、目を採る	国史跡 西谷墳墓群	弥生時代中期
59	弓矢で甕を射る	国史跡 西谷墳墓群	弥生時代中期
60	クリを拾う	国史跡 西谷墳墓群	弥生時代中期
61	臼と杵で脱穀をする	国史跡 西谷墳墓群	弥生時代中期
62	墓を作る	国史跡 西谷墳墓群	弥生時代中期
◆ 63	市場の風景	国史跡 西谷墳墓群	弥生時代中期
◆ 64	出雲雲	国史跡 西谷墳墓群	弥生時代中期
◆ 65	銅剣鋳造の様子	国史跡 西谷墳墓群	弥生時代中期
66	高塚の前方	国史跡 池上曾根遺跡	弥生時代中期
67	池上曾根遺跡の風景	国史跡 池上曾根遺跡	弥生時代中期
◆ 68	低地の環壕集落	大阪府高槻市 安満遺跡	弥生時代前期—中期
◆ 69	古部—芝谷遺跡から淀川・安満遺跡を眺める	大阪府高槻市 古部部・芝谷遺跡	弥生時代前期—中期
◆ 70	高地的環壕集落	大阪府高槻市 古部部・芝谷遺跡	弥生時代前期—中期
◆ 71	弥生住居の内部	大阪府高槻市 古部部・芝谷遺跡	弥生時代前期—中期
◆ 72	大事だ！	大阪府高槻市 古部部・芝谷遺跡	弥生時代前期—中期
◆ 73	死者との別れ	大阪府高槻市 古部部・芝谷遺跡	弥生時代前期—中期
◆ 74	弥生住居のようす	大阪府八尾市 八尾南遺跡	弥生時代後期
75	銅剣鋳造の様子	国史跡 西谷墳墓群	弥生時代中期
76	縄文と弥生の文化が集うムラ	国史跡 池上曾根遺跡	弥生時代中期
◆ 77	環壕を築をかける	国史跡 大塚・鹿野土遺跡	弥生時代中期
◆ 78	方形環壕に葬る	国史跡 大塚・鹿野土遺跡	弥生時代中期
◆ 79	船で漕ぎ出す	国史跡 大塚・鹿野土遺跡	弥生時代中期
80	衣紙	『考古学はたのしい2』(小学館) 原画	弥生時代中期
81	屏絵	『考古学はたのしい2』(小学館) 原画	弥生時代中期
82	日本列島と朝鮮半島	『考古学はたのしい2』(小学館) 原画	弥生時代中期
83	筑紫島	『考古学はたのしい2』(小学館) 原画	弥生時代中期
84	港のようす	『考古学はたのしい2』(小学館) 原画	弥生時代中期
85	航海	『考古学はたのしい2』(小学館) 原画	弥生時代中期
86	ムラを結んで、大きな石を運ぶ墓	『考古学はたのしい2』(小学館) 原画	弥生時代中期
87	ムラの輪と出会う	『考古学はたのしい2』(小学館) 原画	弥生時代中期
88	弥生住居の内部、交流	『考古学はたのしい2』(小学館) 原画	弥生時代中期
89	甕を作る、麻布を織る	『考古学はたのしい2』(小学館) 原画	弥生時代中期
90	ムラを出る、林を切り開き、水田を作る	『考古学はたのしい2』(小学館) 原画	弥生時代中期
91	実りの秋、青銅の剣の祭り	『考古学はたのしい2』(小学館) 原画	弥生時代中期
92	海岸づたいの旅、玉や銅の原料を持ち帰る	『考古学はたのしい2』(小学館) 原画	弥生時代中期
93	玉作り、青銅器作り	『考古学はたのしい2』(小学館) 原画	弥生時代中期
94	市場のようす	『考古学はたのしい2』(小学館) 原画	弥生時代中期
95	分銅型土製品、勾玉や種もみを入れた甕を渡す	『考古学はたのしい2』(小学館) 原画	弥生時代中期
96	ムラ長の死と葬儀	『考古学はたのしい2』(小学館) 原画	弥生時代中期
97	埴田墓の前方にお置かれた甕	『考古学はたのしい2』(小学館) 原画	弥生時代中期
98	環壕を掘り、土甕を作る	『考古学はたのしい2』(小学館) 原画	弥生時代中期
99	新しい命	『考古学はたのしい2』(小学館) 原画	弥生時代中期
100	衣紙	『考古学はたのしい2』(小学館) 原画	弥生時代中期
101	屏絵	『考古学はたのしい2』(小学館) 原画	弥生時代中期
102	ムラのようす	『考古学はたのしい2』(小学館) 原画	弥生時代中期
103	稲刈り	『考古学はたのしい2』(小学館) 原画	弥生時代中期
104	石斧と木を交換する	『考古学はたのしい2』(小学館) 原画	弥生時代中期
105	鉄の材料を持ってくる男たちを連れ去る	『考古学はたのしい2』(小学館) 原画	弥生時代中期
106	空欄から見下ろす	『考古学はたのしい2』(小学館) 原画	弥生時代中期
107	弥生に集う人々	『考古学はたのしい2』(小学館) 原画	弥生時代中期
108	戦いの訓練	『考古学はたのしい2』(小学館) 原画	弥生時代中期
109	木、田を耕す	『考古学はたのしい2』(小学館) 原画	弥生時代中期
110	弥生住居の内部	『考古学はたのしい2』(小学館) 原画	弥生時代中期
111	盆地のケニの風景	『考古学はたのしい2』(小学館) 原画	弥生時代中期
112	文のつづき	『考古学はたのしい2』(小学館) 原画	弥生時代中期
113	秋の収穫	『考古学はたのしい2』(小学館) 原画	弥生時代中期
114	戦いの道具を作る	『考古学はたのしい2』(小学館) 原画	弥生時代中期
115	父を見送る	『考古学はたのしい2』(小学館) 原画	弥生時代中期
116	戦いに備えて木の実を埋める	『考古学はたのしい2』(小学館) 原画	弥生時代中期
117	戦いに備えて、魚を捕らえる	『考古学はたのしい2』(小学館) 原画	弥生時代中期
118	あゝ、のろめだ	『考古学はたのしい2』(小学館) 原画	弥生時代中期
119	「戦だ！」	『考古学はたのしい2』(小学館) 原画	弥生時代中期
120	避難	『考古学はたのしい2』(小学館) 原画	弥生時代中期
121	戦い	『考古学はたのしい2』(小学館) 原画	弥生時代中期
122	ケガ人の手当て	『考古学はたのしい2』(小学館) 原画	弥生時代中期
123	山火事がムラに迫る	『考古学はたのしい2』(小学館) 原画	弥生時代中期

No.	タイトル	遺跡名	時代
124	戦いのあと	『考古学はたのしい2』(小学館) 原画	弥生時代中期
◆ 125	「戦争なんでもうたくなさんだ…」	『考古学はたのしい2』(小学館) 原画	弥生時代中期
◆ 126	棺をいれて祭祀を行なう	国史跡 今城塚古墳	古墳時代後期 6世紀
◆ 127	墓土	国史跡 今城塚古墳	古墳時代後期 6世紀
◆ 128	内庭の掘削	国史跡 今城塚古墳	古墳時代後期 6世紀
◆ 129	墳丘内石積みと排水溝	国史跡 今城塚古墳	古墳時代後期 6世紀
◆ 130	内庭の輪郭の設置	国史跡 今城塚古墳	古墳時代後期 6世紀
◆ 131	墳輪祭祀場	国史跡 今城塚古墳	古墳時代後期 6世紀
◆ 132	造り出しの祭祀	国史跡 今城塚古墳	古墳時代後期 6世紀
◆ 133	石棺を修繕で曳く	国史跡 今城塚古墳	古墳時代後期 6世紀
◆ 134	大古墳に墳輪を供給した官宮工房	国史跡 今城塚古墳	古墳時代中期—後期 5—6世紀
◆ 135	工房での墳輪づくり	国史跡 新池輪製作遺跡	古墳時代中期—後期 5—6世紀
◆ 136	古墳祭祀	大阪府茨木市 大田基白山(継体天皇陵) 古墳	古墳時代中期 5世紀
◆ 137	瀬川内海の聖域に建つ巨大倉庫	国史跡 藤原宮跡 法門坂遺跡	古墳時代中期 5世紀
◆ 138	馬を神に捧げて神威を継承する	千葉県香取市 大作古墳群	古墳時代後期
139	巨大古墳を築造する人々	大阪府羽曳野市 豊田御前山(応神天皇陵) 古墳	古墳時代中期 5世紀
140	墳輪を焼く人々	古墳時代の王と民衆 (講談社) 原画	古墳時代中期 5世紀
141	甲冑を着た武士	『古代史研究7 古墳時代の王』(講談社) 原画	古墳時代中期 5世紀
◆ 142	古墳を築いているようす	大仙(仁徳天皇陵) 古墳 [新しい社会 6上] (東京書籍) 原画	古墳時代中期 5世紀
◆ 143	久津川古墳群	国史跡 久津川車塚・九塚古墳	古墳時代 8世紀
◆ 144	古墳時代後期を飾る 埴田古墳	特別史跡 埴田古墳	古墳時代 8世紀
◆ 145	中臣(蘇我) 蘇我を葬る	国史跡 阿武山古墳	飛鳥時代
◆ 146	日本最古の寺院、仏舎利を納める	国史跡 飛鳥寺古墳	飛鳥時代 593年
◆ 147	鋳造工房	国史跡 飛鳥池工房跡	飛鳥時代
◆ 148	貨幣の鋳造	国史跡 飛鳥池工房跡	飛鳥時代
◆ 149	ガラス工房	国史跡 飛鳥池工房跡	飛鳥時代
◆ 150	藤原宮の造営 建設が進む朝堂院	特別史跡 藤原宮跡	飛鳥時代
◆ 151	日高山を切り崩して朱雀大路を造る	特別史跡 藤原宮跡	飛鳥時代
◆ 152	藤原宮 西宮のようす	特別史跡 藤原宮跡	飛鳥時代
◆ 153	瓦を作る	特別史跡 平城宮跡	奈良時代 8世紀
◆ 154	築地塀を築く	特別史跡 平城宮跡	奈良時代 8世紀
◆ 155	建築物の細部を造る	特別史跡 平城宮跡	奈良時代 8世紀
◆ 156	大極殿での元日朝賀	特別史跡 平城宮跡	奈良時代 8世紀
◆ 157	木家門前の家臣	特別史跡 平城宮跡	奈良時代 8世紀
◆ 158	宮内省	特別史跡 平城宮跡	奈良時代 8世紀
◆ 159	兵部省	特別史跡 平城宮跡	奈良時代 8世紀
◆ 160	造酒司 酒づくりの役所	特別史跡 平城宮跡	奈良時代 8世紀
◆ 161	内侍で働く女官たち	特別史跡 平城宮跡	奈良時代 8世紀
◆ 162	大膳職 厨房のようす	特別史跡 平城宮跡	奈良時代 8世紀
◆ 163	土師を作る	特別史跡 平城宮跡	奈良時代 8世紀
◆ 164	築地塀を築く	特別史跡 平城宮跡	奈良時代 8世紀
◆ 165	東宮での家	特別史跡 平城宮跡	奈良時代 8世紀
◆ 166	市場のようす	奈良県大和郡山形市 平城京西市跡	奈良時代 8世紀
◆ 167	大仏造	奈良 東大寺境内	奈良時代 8世紀
◆ 168	様々なまじえる	平城京	奈良時代 8世紀
◆ 169	金銀製品を作る	特別史跡 平城宮跡	奈良時代 8世紀
◆ 170	ガラス製品を作る	特別史跡 平城宮跡	奈良時代 8世紀
◆ 171	木製品・漆製品を作る	特別史跡 平城宮跡	奈良時代 8世紀
172	呑む	奈良時代 8世紀	
173	書く	奈良時代 8世紀	
174	税を都へ運ぶ人々	奈良時代 8世紀	
175	飯う 貴族、王族役人の服、下級役人・庶民の服	奈良時代 8世紀	
◆ 176	平城京 朱雀大路のようす	特別史跡 平城宮跡 [新しい社会 6上] (東京書籍) 原画	奈良時代 8世紀
◆ 177	都へ運ばれた各地の主な産物	奈良市 長屋王邸宅跡	奈良時代 8世紀
◆ 178	長屋王邸のたすまい	奈良市 長屋王邸宅跡	奈良時代 8世紀
◆ 179	事務所の内部	奈良市 長屋王邸宅跡	奈良時代 8世紀
◆ 180	優雅な生活 サルや大が通ぶ庭と庭	奈良市 長屋王邸宅跡	奈良時代 8世紀
◆ 181	長屋王邸の宴会	奈良市 長屋王邸宅跡	奈良時代 8世紀
◆ 182	貴族の邸宅	奈良市 長屋王邸宅跡	奈良時代 8世紀
◆ 183	真夏に水を楽しむ	奈良市 長屋王邸宅跡	奈良時代 8世紀
◆ 184	貴族の邸宅で遊ぶ人々	奈良市 長屋王邸宅跡	奈良時代 8世紀
◆ 185	甕を割る庭園	奈良市 長屋王邸宅跡	奈良時代 8世紀
◆ 186	鶴とたくさんいる職人	奈良市 長屋王邸宅跡	奈良時代 8世紀
◆ 187	長屋王、聖武を祝うと密告あり	奈良市 長屋王邸宅跡	奈良時代 729年
◆ 188	聖武の軍隊、長屋王邸を襲撃	奈良市 長屋王邸宅跡	奈良時代 729年
◆ 189	呪いの罪は死罪じゃ	奈良市 長屋王邸宅跡	奈良時代 729年
◆ 190	長屋王と吉備の戦は山崎山のもとへ	奈良市 長屋王邸宅跡	奈良時代 729年
◆ 191	瓦工場のようす	京都府木津川市 土人ヶ平遺跡	奈良時代 8世紀
◆ 192	瓦工場で働く職人たち	京都府木津川市 土人ヶ平遺跡 国史跡 奈良瓦窯跡	奈良時代 8世紀
◆ 193	瓦工所と瓦窯のようす	京都府木津川市 梅ヶ谷瓦窯跡 国史跡 奈良瓦窯跡	奈良時代 8世紀
◆ 194	古代の製鉄工房	京都府京丹後市 葛城遺跡	奈良時代 8世紀
◆ 195	平安貴族の邸宅	奈良市 平安宮跡(古京—条三坊丸町)	平安時代
◆ 196	武家邸宅	京都府福知山市 大内城跡	平安時代末期
◆ 197	山陽道と都家今城遺跡	大阪府高槻市 都家今城遺跡	奈良—平安時代
◆ 198	古代の建物や道路、木田のようす	大阪府高槻市 上田部遺跡	奈良—平安時代
◆ 199	船上部屋	国史跡 船上部屋	奈良—平安時代
◆ 200	流川 筑紫津の情景	大阪府高槻市	奈良—平安時代
◆ 201	西琳寺	大阪府羽曳野市 西琳寺	飛鳥時代
◆ 202	奈良時代の官道	滋賀県大津市 間津遺跡	飛鳥時代
◆ 203	讃岐国分寺跡	特別史跡 讃岐国分寺跡	奈良時代 8世紀
◆ 204	讃岐国分寺と国分尼寺	特別史跡 讃岐国分寺跡	奈良時代 8世紀
◆ 205	讃岐国分寺の僧侶の生活	特別史跡 讃岐国分寺跡	奈良時代 8世紀
◆ 206	造営中の讃岐国分寺金堂	特別史跡 讃岐国分寺跡	奈良時代 8世紀
◆ 207	定規開定の讃岐国分寺五重塔	特別史跡 讃岐国分寺跡	奈良時代 8世紀
◆ 208	南中山内瓦窯全景	国史跡 南中山内瓦窯跡	奈良時代 8世紀
◆ 209	瓦窯内部のようす	国史跡 南中山内瓦窯跡	奈良時代 8世紀
◆ 210	古代都市 多賀城	特別史跡 多賀城跡 附 寺跡	奈良—平安時代
◆ 211	陸奥国守	特別史跡 多賀城跡 附 寺跡	平安時代 10世紀
◆ 212	多賀城外の万寿会	宮城県多賀城市 高崎遺跡井戸尻地区	奈良—平安時代
◆ 213	釜屋での織作りのようす	茨城県東海村 村松白根遺跡	室町—平安時代
◆ 214	大坂城 堀の堀戻し作業	特別史跡 大坂城跡	江戸時代 1614—1615年
◆ 215	石切り場	神奈川県小田原市・箱根町 箱川右丁場跡・関白沢支所	江戸時代 17世紀
◆ 216	イノシシ 縄文人の食糧・生業カレンダー	『よみがえる日本の古代』(小学館) 原画	縄文時代
◆ 217	シカ 縄文人の食糧・生業カレンダー	『よみがえる日本の古代』(小学館) 原画	縄文時代
◆ 218	イワシ 縄文人の食糧・生業カレンダー	『よみがえる日本の古代』(小学館) 原画	縄文時代
◆ 219	サバ 縄文人の食糧・生業カレンダー	『よみがえる日本の古代』(小学館) 原画	縄文時代
◆ 220	アサリ 縄文人の食糧・生業カレンダー	『よみがえる日本の古代』(小学館) 原画	縄文時代
◆ 221	ワカメ 縄文人の食糧・生業カレンダー	『よみがえる日本の古代』(小学館) 原画	縄文時代
◆ 222	アジ 縄文人の食糧・生業カレンダー	『よみがえる日本の古代』(小学館) 原画	縄文時代
◆ 223	ワカメ 縄文人の食糧・生業カレンダー	『よみがえる日本の古代』(小学館) 原画	縄文時代
◆ 224	ウナギ 縄文人の食糧・生業カレンダー	『よみがえる日本の古代』(小学館) 原画	縄文時代
◆ 225	カモ 縄文人の食糧・生業カレンダー	『よみがえる日本の古代』(小学館) 原画	縄文時代
◆ 226	クルマ・クリ 縄文人の食糧・生業カレンダー	『よみがえる日本の古代』(小学館) 原画	縄文時代
◆ 227	旧石器時代・縄文時代のファッション	『よみがえる日本の古代』(小学館) 原画	縄文時代
◆ 228	縄文時代のアクセサリー	『よみがえる日本の古代』(小学館) 原画	縄文時代
◆ 229	弥生時代のファッション	『よみがえる日本の古代』(小学館) 原画	弥生時代
◆ 230	弥生時代のアクセサリー	『よみがえる日本の古代』(小学館) 原画	弥生時代

表2 絵で見るむかしの日本ー早川和子原画展ー 展示資料リスト

No.	タイトル	遺跡名	時代
231	縄文時代の道具	「よみがえる日本の古代」 〈小学館〉原画	
232	古墳時代の道具	「よみがえる日本の古代」 〈小学館〉原画	
233	奈良時代の道具	「よみがえる日本の古代」 〈小学館〉原画	
234	根谷谷台遺跡	「曙光の時代ー日本考古学の連続と変革ー」 2004ー2005年 ドイツ開催 原画	
235	里浜遺跡	「曙光の時代ー日本考古学の連続と変革ー」 2004ー2005年 ドイツ開催 原画	
236		「曙光の時代ー日本考古学の連続と変革ー」 2004ー2005年 ドイツ開催 原画	
237	カリンバ遺跡	「曙光の時代ー日本考古学の連続と変革ー」 2004ー2005年 ドイツ開催 原画	
238	古野ヶ里遺跡	「曙光の時代ー日本考古学の連続と変革ー」 2004ー2005年 ドイツ開催 原画	
239	古武高木遺跡	「曙光の時代ー日本考古学の連続と変革ー」 2004ー2005年 ドイツ開催 原画	
240		「曙光の時代ー日本考古学の連続と変革ー」 2004ー2005年 ドイツ開催 原画	
241		「曙光の時代ー日本考古学の連続と変革ー」 2004ー2005年 ドイツ開催 原画	
242		「曙光の時代ー日本考古学の連続と変革ー」 2004ー2005年 ドイツ開催 原画	
243		「曙光の時代ー日本考古学の連続と変革ー」 2004ー2005年 ドイツ開催 原画	
244		「曙光の時代ー日本考古学の連続と変革ー」 2004ー2005年 ドイツ開催 原画	
245		「曙光の時代ー日本考古学の連続と変革ー」 2004ー2005年 ドイツ開催 原画	
246		「曙光の時代ー日本考古学の連続と変革ー」 2004ー2005年 ドイツ開催 原画	
247	草壁に恋 縄文人の平屋	「産経新聞 1994年4月 古代通信」原画	
248	縄文時代にも造られていた高床建物	「産経新聞 1994年4月 古代通信」原画	
249	法隆寺金堂、1300年頃の変を今に伝える	「産経新聞 1994年5月 古代通信」原画	
250	古代出雲大社はさびえるような巨大建築だった	「産経新聞 1994年6月 古代通信」原画	
251	式年遷宮がおこなわれる伊勢神宮の御正殿	「産経新聞 1994年7月 古代通信」原画	
252	6世紀のダンロウつき住宅	「産経新聞 1994年10月 古代通信」原画	
253	奈良時代の大神寺	「産経新聞 1994年10月 古代通信」原画	
254	密教の思想を建物で表現した高野山の根元大塔	「産経新聞 1994年10月 古代通信」原画	
255	奈良時代、政府の建築工事を担った飛騨の匠	「産経新聞 1994年11月 古代通信」原画	
256	初めて大極殿が設けられた藤原宮	「産経新聞 1994年12月 古代通信」原画	
257	人々でにぎわう海柵櫓市のチマタ	「産経新聞 1995年6月 古代通信」原画	
258	弥生時代、男女の服装は同じだった	「産経新聞 1995年8月 古代通信」原画	
259	縄文時代の大集落には 巨大なシンクハウスが建てられていた	「産経新聞 1995年8月 古代通信」原画	
260	藤原宮城内の斎王と命夫	「産経新聞 1995年8月 古代通信」原画	
261	飛鳥時代の建築現場	「産経新聞 1995年10月 古代通信」原画	
262	北部九州では磐穴住居の 中に就寝用の土壇を築いた	「読売新聞 1995年11月 古代通信」原	
263	ヤシロの祖型となったクラ	「読売新聞 1996年1月 古代通信」原画	
264	朝鮮半島への道 兄弟の関柄だった倭と韓	「読売新聞 1996年9月 古代のアンクル7」原画	
265	朝鮮半島への道 兄弟の関柄だった倭と韓	「読売新聞 1996年9月 古代のアンクル7」原画	
266	文化財保護 遺跡や遺物 破壊にも歯止め	「読売新聞 1996年11月 古代のアンクル11」原画	
267	文化財保護 遺跡や遺物 破壊にも歯止め	「読売新聞 1996年11月 古代のアンクル11」原画	
268	文化財保護Ⅱ 自然、遺跡は日本の宝	「読売新聞 1997年7月 古代のアンクル17」原画	
269	記録に埋もれる女性「なんとなく男」の落とし穴	「読売新聞 1997年12月 古代のアンクル22」原画	
270	記録に埋もれる女性「なんとなく男」の落とし穴	「読売新聞 1997年12月 古代のアンクル22」原画	
271	雨とつきあい 土手や溝で雨水の浸入防ぐ	「読売新聞 1998年7月 古代のアンクル29」原画	
272	古代女性会議 パートⅠ 女性の役割 家を切り盛り…夫の心配も	「読売新聞 1998年11月 古代のアンクル33」原画	
273	古代女性会議 パートⅡ 夫婦について一夫多妻 嫉妬に苦しむ	「読売新聞 1998年12月 古代のアンクル34」原画	
274	古代女性会議 パートⅢ 夫婦について一夫多妻 嫉妬に苦しむ	「読売新聞 1998年12月 古代のアンクル34」原画	
275	古代男性会議 男の役割 お父さんや楽しめない	「読売新聞 1999年1月 古代のアンクル35」原画	
276	遺跡明暗 保存運動実った妻木晩田 ミュージアム壱王の飛鳥池	「読売新聞 1999年10月 古代のアンクル44」原画	
277	遺跡明暗 保存運動実った妻木晩田 ミュージアム壱王の飛鳥池	「読売新聞 1999年10月 古代のアンクル44」原画	
278	あれから2000年 鉄器広まる弥生後期	「読売新聞 1999年12月 古代のアンクル46」原画	
279	あれから2000年 鉄器広まる弥生後期	「読売新聞 1999年12月 古代のアンクル46」原画	
280	あれから2000年1 鉄器入手ルート論争	「読売新聞 2000年1月 古代のアンクル47」原画	
281	あれから2000年2 鉄器入手ルート論争	「読売新聞 2000年1月 古代のアンクル47」原画	
282	あれから2000年3 大王の墓は新スタイル	「読売新聞 2000年2月 古代のアンクル48」原画	
283	古代の生産と流通 汗の結晶	「読売新聞 2002年4月」原画	
284	食物の生産 アク抜き	「読売新聞 2002年4月」原画	
285	門		
286	瓦葺		
287	集落		
288	竊立柱建物		
289	建物		
290	荷土場		
291	祭祀		
292	船を曳く		
293	神社と船		
294	縄文時代遠景 春	国史跡 古津八幡山遺跡	
295	弥生時代遠景 夏	国史跡 古津八幡山遺跡	
296	古墳時代遠景 秋	国史跡 古津八幡山遺跡	
297	平安時代遠景 冬	国史跡 古津八幡山遺跡	
298	侍りから帰るお父さんを出迎える子どもたち	国史跡 古津八幡山遺跡	縄文時代後期
299	環濠を掘る人々 夏	国史跡 古津八幡山遺跡	弥生時代後期
300	磐穴住居の人々 夏	国史跡 古津八幡山遺跡	弥生時代後期
301	四角い墓とムラ長 夏	国史跡 古津八幡山遺跡	弥生時代後期
302	前方後方形周溝墓 夏	国史跡 古津八幡山遺跡	弥生時代終末期
303	薄原の土墓 秋	国史跡 古津八幡山遺跡	古墳時代中期
304	薄原の竊駄基壇 冬	国史跡 古津八幡山遺跡	奈良ー平安時代
305	古津八幡山遺跡周辺マップ 新潟市古津・金津周辺	国史跡 古津八幡山遺跡	

◆：デジタル出力



展示風景（新潟市新津美術館市民ギャラリー）



ギャラリートーク風景（新潟市新津美術館市民ギャラリー）



絵本づくり（新潟市新津美術館レクチャールーム）



似顔絵プレゼント（新潟市新津美術館市民ギャラリー）

2 教育普及活動

(1) 体験学習

弥生の丘展示館では、個人が来館すればいつでも体験できる事前申し込み不要の体験学習メニューを月毎に決めている（表3・4）。平成27年度は新たに有料の屋内体験として弥生染めを始めた。

平成27年度の体験学習の参加者数は、個人9,827人（前年度比4,035人増）、団体1,937人（前年度比14人減）、全体11,764人（前年度比4,021人増）であり、平成26年度よりも個人の参加者数が大幅に増加しており、結果全体の参加者数も増加している。この理由は、弥生の丘展示館の来館者数が大幅に増加したためであり、(3)で後述する。団体の体験学習参加者数は平成26年度と大きく変化していない。

団体の利用については、概ね10人以上の団体の場合は事前に申し込みをお願いしている（表5・6）。平成27年度は団体利用件数101件（前年度比17件増）、利用人数3,278人（前年度比319人増）であった。団体利用が多い小学校の利用も平成26年度より増加（前年度比団体利用件数2件、利用人数267人増）しており、古津八幡山遺跡とその教育普及活動の知名度が徐々に増加し、団体利用する機会も増加していると言える。その他、公民館や自治会、町内会等（前年度比団体利用件数4件、利用人数86人増）や動く市政教室（前年度比団体利用件数6件、利用人数131人増）も増加してきており、市民の古津八幡山遺跡の知名度と関心も高くなってきている。

(2) イベント等

平成27年度は、イベントや体験学習、企画展の情報等をまとめた年間スケジュールを作成し、配布した。また、新潟県教育庁文化行政課が作成しているまいぶんなビにも、イベント等の情報を提供して、掲載してもらっている。

イベントは市報やホームページ等で広報して、事前募集して行うイベントを月に1回から2回程度実施している（表7）。イベントの許容人数の関係からも、40人以下と少人数ではあるが、好評な企画が多い。自然観察等は季節毎に観察対象が異なり、何度もイベントに参加する常連者が多い。弥生時代の米づくりも通年の企画であり、子供を含めた家族での参加も多く、子供が体を動かしながら自然や農業に触れる良い機会と高評価を頂いており、2・3か年にわたって参加する家族もいる。複数回や通年のイベントでは、イベント中に別のイベントの広報も行っており、イベント情報を聞いて、別のイベントにも参加する人もいる。

また、当日受付のものでは、例年大規模なイベントと

して、まず6月に新潟県立植物園をメイン会場として行う第14回にいつ花ふるフェスタの協賛イベントとして、複数の体験学習等を行った。平成27年度は歴史の広場が全面オープンしたため、特別に古津八幡山古墳の解説も行っている。体験学習参加者等の延べ人数が1,314人（前年度比345人増）と好評だった。次に、9月には新潟県立植物園で植物園主催の秋の植物園祭りや秋葉区役所主催のアキハアウトドアスポーツフェスタと同日開催として、新潟県埋蔵文化財センターと連携してまいぶん祭りを開催し、こちらも延べ人数716人（前年度比92人増）と平成26年度より増加している。

なお、1月には弥生の餅つきを行い、686人（前年度比148人減）と500人を超える参加者がおり、自分達が搗いた餅に舌鼓を打っていた。

(3) 来館者数

平成27年度の弥生の丘展示館来館者数（表8）は、個人67,960人（前年度比34,554人増）、団体3,278人（前年度比314人増）、全体71,238人（前年度比34,873人増）であり、平成26年度よりも個人の来館者数が2倍近く増加しており、結果全体の来館者数も大幅に増加している。

この理由としては、隣接する新潟市新津美術館で開催された「山本二三展」と「魔法の美術館展」に多くの観覧者がおり、この観覧者のうち弥生の丘展示館にも来館する人達がいたためである。特に「魔法の美術館展」は家族連れを中心に大好評であり、この家族連れのなかで弥生の丘展示館を利用し、体験学習も行う人達が多くいたと考えられる。

一方で、冬季（12～3月）の来館者は6,393人（前年度比1,110人減）と来館者が少なかった。これまでも課題として取り上げられており、対応を行ってきているが、なかなか改善が困難である。イベントの開催日や来館者増につながる企画等今後も継続して改善に取り組む必要がある。（金田拓也）



弥生時代の米づくり（石包丁や木包丁での稲刈り）

表3 平成27年度弥生の丘展示館体験学習（事前申し込み不要）一覧

無料／有料	メニュー	単 位	料 金 (円)	所要時間 (分)
無料	火起こし体験	—	—	15
	弓矢体験	1人3本	—	10
	石斧体験	疲れるまで	—	10
	土器/スズル	飽きるまで	—	10
	ぬりえ	飽きるまで	—	5
有料	貫頭衣試着	満足するまで	—	5
	勾玉づくり	1個 紐付	200	60
	管玉づくり	1組4個 紐付	200	60
	土器・土鍋づくり	粘土500g	100	120
	土笛・土鈴づくり		100	60
	鋳造体験 (銅鑄・銅鑄)	銅鑄1個 紐付	400	30
		銅鑄1個 紐付	900	30
	編布（アンギン） 編み	初心者コース カラムシ5g	300	120
		上級者コース カラムシ10g	500	180
	鹿角ペンダント づくり	先端部以外1個 紐付	100	60
		先端部1個 紐付	500	15
	弥生染め	1枚	200	60
		桜の枝1本 鉛筆芯1本	無料	30

表6 平成27年度弥生の丘展示館分類別団体利用数

分 類 名	団体利用数 (件)	人 数 (人)
保育施設・幼稚園	1	30
小学校	35	1,991
中学校	8	92
高校	1	6
その他学校	2	50
博物館関係	4	91
動く市政教室	9	211
行政	7	169
公民館・自治会・ 町内会・子ども会 等	10	187
各種サークル等	11	228
企業	9	118
その他	4	105
合 計	101	3,278

表5 平成27年度弥生の丘展示館団体利用一覧

来館日	団体名	人 数 (人)
2015/4/20 (月)	市立小林小学校 (南区)	32
2015/4/20 (月)	市立結小学校 (秋葉区)	144
2015/4/21 (火)	市立金津中学校 (秋葉区)	10
2015/4/22 (水)	市立木戸小学校 (東区)	77
2015/4/23 (木)	阿賀町立鹿瀬小学校	15
2015/4/28 (火)	市立大鷲小学校 (南区)	22
2015/4/30 (木)	市立巻南小学校 (西蒲区)	72
2015/5/1 (金)	市立根岸小学校 (南区)	28
2015/5/7 (木)	市立金津小学校 (秋葉区)	52
2015/5/7 (木)	市立徳口小学校 (中央区)	34
2015/5/8 (金)	市立青山小学校 (西区)	70
2015/5/8 (金)	五泉市立泉本小学校	18
2015/5/12 (火)	田上町立羽生田小学校	46
2015/5/13 (水)	市立庄瀬・茨賀根・新飯田小学校 (南区)	53
2015/5/14 (木)	市立関屋小学校 (中央区)	5
2015/5/21 (水)	鶴岡市立羽黒第三小学校	32
2015/5/28 (木)	市立味方小学校 (南区)	30
2015/6/23 (火)	市立阿賀小学校 (秋葉区)	38
2015/6/25 (木)	市立岡川小学校 (江南区)	23
2015/7/1 (木)	見附市立見附中学校	19
2015/7/2 (木)	市立新津第二小学校 (秋葉区)	96
2015/7/9 (木)	県立新津高校インターンシップ	6
2015/7/15 (木)	阿賀野市立安野小学校	8
2015/7/15 (木)	市立松野尾小学校 (西蒲区)	20
2015/7/23 (木)	新発田市立豊浦中学校	14
2015/7/24 (金)	村上市立荒川中学校	11
2015/8/26 (火)	市立金津中学校 (秋葉区)	21
2015/9/3 (木)	市立松浜小学校 (北区)	109
2015/9/8 (火)	市立新津第三小学校 (秋葉区)	119
2015/9/10 (木)	市立坂井輪小学校 (西区)	134
2015/9/11 (金)	市立五十嵐小学校 (西区)	130
2015/9/18 (金)	県立吉田特別支援学校	25
2015/9/24 (木)	市立臼井小学校 (南区)	27
2015/9/25 (金)	市立東青山小学校 (西区)	107
2015/9/25 (金)	県立五泉特別支援学校	25
2015/10/7 (木)	市立立仏小学校 (西区)	71
2015/10/16 (金)	燕市立大間小学校	14
2015/10/22 (火)	市立小合東小学校 (秋葉区)	19
2015/10/30 (金)	市立万代長瀬小学校 (中央区)	51
2015/11/2 (月)	市立早通小学校 (江南区)	32
2015/11/2 (月)	市立小須戸中学校 (秋葉区)	6
2015/11/5 (木)	市立大野小学校 (西区)	85
2015/11/17 (火)	市立小須戸小学校 (秋葉区)	47
2015/11/20 (金)	市立東石山中学校 (東区)	6
2015/11/20 (金)	市立相納小学校 (西蒲区)	42
2015/11/20 (金)	船内市立中央小学校	94
合 計		2,139

学校以外

来館日	団体名	人 数 (人)
2015/4/23 (木)	秋葉区紫野町婦人会	5
2015/5/10 (日)	白新町4丁目自治会	16
2015/5/14 (木)	秋葉区老人クラブ連合会	20
2015/5/14 (木)	五泉市泉町お茶の園サロン	26
2015/5/14 (木)	PCでトキめき会	10
2015/5/19 (火)	新潟市立総合教育センター	35
2015/5/19 (火)	明治安田生命新津営業所	30
2015/5/25 (月)	新潟市三ツ森児童館	46
2015/5/31 (日)	うきたむ風土記の丘考古資料館	30
2015/6/2 (火)	鉄道OB会新潟支部健康ウォーキング	16
2015/6/4 (木)	朝日趣味の会	12
2015/6/5 (金)	動く市政教室「信濃町自治会」	21
2015/6/9 (火)	地域のふれあい100円サロン	46
2015/7/1 (木)	動く市政教室「牡丹山第一勝会」	22
2015/7/5 (日)	新潟市健民少年団	12
2015/7/7 (火)	動く市政教室「上近江二丁目自治会」	21
2015/7/12 (日)	下町熊手子供会	16
2015/7/16 (木)	阿賀町教育委員会主催春大学	15
2015/7/22 (木)	動く市政教室「西区輪之内自治会」	25
2015/7/26 (日)	五泉市立村松小学校3地区子ども会	16
2015/8/1 (土)	みなとびあ「古墳7-4」1 バスア	20
2015/8/4 (火)	秋葉区役所職員研修	25
2015/8/4 (火)	大郷地区コミュニティ協議会	37
2015/8/8 (土)	五泉市立村松小学校2地区子ども会	15
2015/8/9 (日)	阿賀野市杉菜子ども会	15
2015/8/30 (日)	群馬県相川考古館	16
2015/9/8 (火)	阿賀町公民館	20
2015/9/25 (金)	新潟市教育相談センターくみの木教室	28
2015/9/29 (火)	秋葉区里山文化 未来へのプロジェクト	20
2015/9/30 (水)	北上長寿会(秋葉区北上3丁目)	16
2015/10/6 (火)	明治大学博物館友の会「弥生文化研究会」	25
2015/10/7 (水)	動く市政教室「深雪2012」	21
2015/10/8 (木)	はあとふるあたらご	5
2015/10/9 (金)	はあとふるあたらご	6
2015/10/14 (水)	動く市政教室「復元古墳と発掘現場をめぐる」	31
2015/10/15 (木)	はあとふるあたらご	5
2015/10/17 (土)	県都市緑花センター	4
2015/10/18 (日)	弁天橋中央自治会	31
2015/10/20 (火)	はあとふるあたらご	4
2015/10/21 (水)	動く市政教室「復元古墳と発掘現場をめぐる」	29
2015/10/30 (金)	関東甲信越新潟地区共同研修協議会	41
2015/11/3 (火)	NPO法人 まちづくり学校	20
2015/11/6 (金)	福島県河沼郡湯川村教育委員会	5
2015/11/6 (金)	江南区砂岡33区いきいきサロン	26
2015/11/14 (土)	ガールスカウト新潟県第10団	21
2015/11/18 (水)	動く市政教室 寺尾駅前通1丁目	20
2015/11/18 (水)	若竹旅館	15
2015/11/19 (木)	動く市政教室「浜浜3丁目婦人会」	21
2015/11/22 (日)	金津こづみ散策ツアー	16
2015/11/26 (木)	みどり幼稚園	30
2015/11/27 (金)	小針1丁目健康クラブ	24
2015/12/3 (日)	J・A経営研究会 (JA新津さつき)	16
2015/12/10 (日)	支え合い軽トラレッキングの会	20
2016/3/16 (水)	会津坂下町コミュニティセンター	18
2016/3/27 (日)	放課後等デイサービス ユニオン	33
合 計		1,139

表4 平成27年度弥生の丘展示館体験学習参加者数

体験学習メニュー			参加者数（人）				
月	屋内体験 （有料）	屋外体験 （無料）	個 人	団 体	合 計	1 平 日 均	累 計 （開館から）
4	弥生染め 勾玉・管玉・鹿角ペンダントづくり 桜の枝の鉛筆づくり	石斧体験	346	222	568	20	19,379
5	土器・土鍋・土笛・土鈴づくり 桜の枝の鉛筆づくり	弓矢体験	1,060	406	1,466	49	20,845
6	鋳造体験（銅鑄・銅鑄） 管玉・鹿角ペンダントづくり 桜の枝の鉛筆づくり	火起こし体験	1,079	120	1,199	48	22,044
7	弥生染め 勾玉・管玉・鹿角ペンダントづくり 桜の枝の鉛筆づくり	弓矢体験	3,172	124	3,296	118	25,340
8	土器・土鍋・土笛・土鈴づくり 桜の枝の鉛筆づくり	石斧体験	1,274	162	1,436	53	26,776
9	鋳造体験（銅鑄・銅鑄） 管玉・管玉・鹿角ペンダントづくり 桜の枝の鉛筆づくり	火起こし体験	802	193	995	36	27,771
10	土器・土鍋・土笛・土鈴づくり 桜の枝の鉛筆づくり	弓矢体験	725	308	1,033	38	28,804
11	鋳造体験（銅鑄・銅鑄） 勾玉・管玉・鹿角ペンダントづくり 桜の枝の鉛筆づくり	石斧体験	390	369	759	30	29,563
12	土器・土鍋・土笛・土鈴づくり 桜の枝の鉛筆づくり	火起こし体験	202	0	202	8	29,765
1	アンギン編み 勾玉・管玉・鹿角ペンダントづくり 桜の枝の鉛筆づくり	里山の クラフトづくり	142	0	142	6	29,907
2	アンギン編み 勾玉・管玉・鹿角ペンダントづくり 桜の枝の鉛筆づくり	里山の クラフトづくり	131	0	131	5	30,038
3	鋳造体験（銅鑄・銅鑄） 勾玉・管玉・鹿角ペンダントづくり 桜の枝の鉛筆づくり	火起こし体験	504	33	537	19	30,575
合 計/平 均			9,827	1,937	11,764	37	

表7 平成27年度弥生の丘展示館イベント・体験学習（事前募集）一覧

開催日	内 容	人 数 (人)
2015/4/26 (日)	弥生時代の米づくり 古津八幡山道跡で稲作体験①田起こし	25
2015/5/10 (日)	発掘体験①	13
2015/5/17 (日)	弥生時代の米づくり 古津八幡山道跡で稲作体験②田植え	30
2015/5/24 (日)	植物観察① (春)	9
2015/6/6 (土)	弥生時代の米づくり 古津八幡山道跡で稲作体験③草取り	12
2015/6/7 (日)	第14回にいつ花ふるフェスタ (当日受付)	1,314
2015/6/14 (日)	昆虫観察①	20
2015/6/21 (日)	弥生時代の米づくり 古津八幡山道跡で稲作体験④草取り	20
2015/7/12 (日)	植物観察② (夏)	15
2015/7/19 (日)	弥生時代の米づくり 古津八幡山道跡で稲作体験⑤草取り	19
2015/8/1 (土)・8/2 (日)	弥生懸穴住居宿泊体験	13
2015/8/9 (日)	発掘体験②	23
2015/8/22 (土)	弥生時代の米づくり 古津八幡山道跡で稲作体験⑥草取り (雨天中止)	—
2015/8/23 (日)	昆虫観察②	12
2015/9/6 (日)	植物観察③ (夏)	16
2015/9/13 (日)	弥生時代の米づくり 古津八幡山道跡で稲作体験⑦稲刈り	27
2015/9/19 (土)	まいぶん祭り (当日受付)	716
2015/9/20 (日)	発掘体験③	17
2015/10/11 (日)	弥生時代の米づくり 古津八幡山道跡で稲作体験⑧脱穀・棚揚げ (雨天中止)	—
2015/10/12 (月・夜)	昆虫観察③	32
2015/11/8 (日)	植物観察④ (秋)	14
2015/11/15 (日)	弥生時代の米づくり 古津八幡山道跡で稲作体験⑨脱穀・棚揚げ・試食	25
2015/12/20 (日)	冬の自然観察①	14
2016/1/10 (日)	弥生の餅つき (当日受付)	686
2016/1/17 (日)	冬の自然観察②	8
2016/3/27 (日)	植物観察⑤ (初春)	23
合 計		3,103

表8 平成27年度弥生の丘展示館来館者数

月	開館 日数	来館者数 (人)				
		個 人	団 体	全 体	1日平均	累 計 (開館から)
4	28日	4,893	377	5,270	188	111,079
5	30日	8,222	581	8,803	293	119,882
6	25日	6,619	156	6,775	271	126,657
7	28日	12,634	301	12,935	462	139,592
8	27日	16,816	149	16,965	628	156,557
9	28日	5,443	760	6,203	222	162,760
10	27日	4,041	357	4,398	163	167,158
11	25日	2,986	510	3,496	140	170,654
12	24日	1,307	36	1,343	56	171,997
1	24日	1,504	0	1,504	63	173,501
2	24日	943	0	943	39	174,444
3	28日	2,552	51	2,603	93	177,047
合計/平均		318日	67,960	3,278	71,238	224

3 古津八幡山古墳復元整備の概要

(1) はじめに

平成26年度に古津八幡山古墳を中心とする復元整備工事が完了したことを受け、平成27年4月17日に国史跡古津八幡山遺跡の全面公開開場式が行われ史跡古津八幡山遺跡歴史の広場の全面供用が開始された。なお、古墳等の復元整備工事の詳細については、整備報告書〔相田・渡邊ほか2015〕や前号〔相田2016〕を参照頂きたい。

また、弥生の丘展示館のガイダンスシアターにおいて、平成23～26年度にかけて実施した古津八幡山古墳の確認調査や復元整備工事の記録映像を新たに追加した。

(2) 現状

史跡公園内にある古津八幡山古墳の頂上からは、越後平野や角田山、弥彦山を望むことができ、天候が良ければ佐渡も確認できる。また、新潟県庁やサッカースタジアムのビッグスワン、信濃川や阿賀野川の河口周辺に位置する朱鷺メッセや新潟東港等の建物を目視できる等、田園都市新潟を象徴するような景観が広がっている。

弥生の丘展示館の平成27年度の来館者数は約71,000人で、平成26年度に比べて倍近く増加した。これは隣接する新潟市新潟美術館の催しによる影響が主な要因と考えられるが、歴史の広場の全面供用が始まりテレビや新聞、市報等で取り上げられたことや、新たに企画展、特別企画展を行ったことも影響したと推測される。

なお、弥生の丘展示館の開館前後や、開館時でも弥生の丘展示館に来館せずに史跡公園へ行く利用者が一定数いることから、史跡公園の利用者数の実態を把握するため、平成28年3月より弥生の丘展示館脇の史跡公園へ至る通路に新たにセンサー式の計数機を設置している。

(3) 今後の課題

古墳の復元整備工事では、土砂の流出を防止すると共に古墳の形状を分かりやすくする目的で、古墳斜面部分にコクマザサを植栽したが、一部で生育の悪い場所が存在する。今後、改善していく必要がある。

また、古墳の北から北西方向の丘陵斜面の民有地には植林された杉等が広く群生する。高木が多いため、平野部から古墳を目視できる場所が非常に限られている。

古墳は当時、お墓であると同時に集落内外へ見せる役割もあった。古津八幡山古墳も平野側の丘陵北端部に造られており、当時は平野から良く見えたと考えられる。平野から古墳を目視できれば史跡の周知にもつながり、活用面における利点も大きい。将来、平野部に古墳のビュースポットを設ける等し、平野から古墳を目視できるような整備を行っていく予定である。（相田泰臣）



復元整備後の古津八幡山古墳



国史跡古津八幡山遺跡全面公開開場式



古墳斜面のコクマザサの状況



平野から見た古津八幡山古墳

V 研究活動－資料紹介・研究ノート等－

1 新潟市文化財センターの来館者数から見た現状と課題

(1) はじめに

文化財センターは平成23年7月30日に開館してから、平成27年度で5年目を迎えている。

文化財センターの基本的な施設情報や年度毎の概要については、既刊の『年報』に記載されている。

文化財センターは開館当初から、常設の展示室を備えており、また、体験学習を行う等の教育普及活動を展開している。そのため、開館当初から現在まで文化財センターの来館者数等の統計情報を記録している。開館から5年が経過することで、この統計情報もある程度蓄積されてきたため、この機会に開館当初から平成27年度までの来館者数の推移についてまとめ、今後の文化財センターの事業の参考としたい。

(2) 来館者数の推移

平成23～27年度までの文化財センターの来館者数をまとめたものが、表1である。来館者数は個人と団体に分かれており、個人が予約等をせずに個人で文化財センターに来館した人数である。一方団体は、事前に予約し、展示解説や体験学習等も事前に依頼して、ある程度の人数でまとまって来館した人数である。この個人と団体の人数を合計したものが全体の人数となる。

文化財センターが開館した平成23年度は、平成23年7月30日から平成24年3月末日で9,779人が来館した。次年度以降よりも開館日数が圧倒的に少ない状況であるにもかかわらず、次年度以降の年間来館者数に匹敵する人数である。現に、一日の平均来館者数は、季節的な人数差はあるが平成23年度は総じて多い傾向であった。特に、7～9月の開館始めの3か月間は、平成27年度までの一日の平均来館者数の中で1～3番目に多かった月である。これは、文化財センターが開館当時からある程度評判があり、常設展示等も初めて公開されて新鮮であるため、来館者が多くなったと言える。その後、10月になると、文化財センターに興味や関心が高い人々が既に来館してしまい、季節的にも寒くなり外出が控えめになることから、来館者数はある程度減少し落ち着いていったと考えられる。

その後、平成24・25年度は年間来館者数が10,000人を少し超える人数で落ち着いている。そして、平成26・

27年度には年間来館者数が12,000人を少し超える人数になっており、平成25年度から平成26年度を境に2,000人近く来館者が増加したことになる。この大きな要因としては、平成26年度から新たに企画展を開催したことが挙げられる。1年間のみ来館者数に変化があれば、一過性の現象とも考えられるが、2年継続している点と特に個人来館者数が平成26年度から1,500人前後増加した点等から企画展の効果の可能性が高い。企画展は年間に4回開催されているが、開催回数と来館者数が比例しているかどうかは、現状では不明である。今後は、開催回数及び会期と来館者数の関係を確認していくことで、開催に掛かる経費や労力を見極め、適切な年間の企画展回数及び会期を検討していくことも必要である。

季節的な来館者数の比率の変化は比較的類似している。個人では8月を中心にその前後の月に来館者が多い。これは、夏休みなど学校の長期休暇で小学生を中心に個人の来館者が増加するためと考えられる。そのため、3月も前後の月に比べて来館者が増加している。このように、個人の来館者数は8月を中心とした夏季に突出しているため、相対的に冬季は低くなる。一方で、団体の来館者は個人の傾向とは異なり、春季と秋季が多くなっている。これは、文化財センターの団体利用は小学校が多いためである。小学校6学年から社会科で本格的な歴史の授業が始まる。そのため、比較的古い時代を取り上げる春と夏休み明けの秋季に団体利用が集中している。また、文化財センターの特徴として民俗資料も収蔵・管理していることから、小学校3学年の社会科の昔の暮らしを取り上げる秋季から冬季前半にかけても、来館者数が増加している。団体利用は小学校等の授業計画によって、同じ小学校でも利用する年としない年がある。そのため、年度毎に団体の来館者数は増減するが平均的には年々増加傾向である。

(3) まとめ

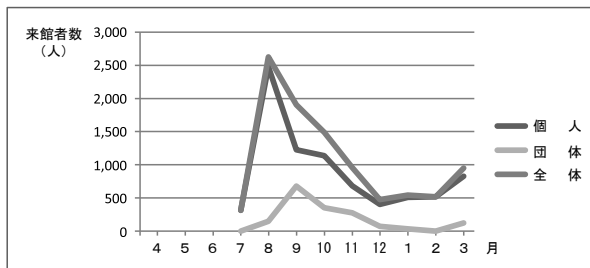
文化財センターの来館者は企画展で増加したが、傾向としては横ばいである。これは、各種事業を展開することで維持できているものであると言える。そのため、事業を継続し現状を維持することは重要である。しかし、可能な範囲で来館者数が微増傾向になるように考えていく必要がある。現状では新規事業を展開することは困難であるため、継続事業に対する広報活動等に力を入れる方法等が考えられる。

(金田拓也)

平成23（2011）年度

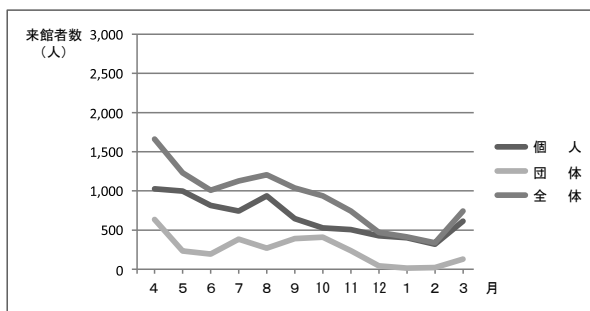
月	開館 日数	来館者数（人）				1日平均	累 計
		個 人	団 体	全 体			
7	2日	313	0	313		157	313
8	26日	2,477	149	2,626		101	2,939
9	26日	1,225	679	1,904		73	4,843
10	26日	1,136	353	1,489		57	6,332
11	25日	685	274	959		38	7,291
12	20日	404	71	475		24	7,766
1	24日	509	34	543		23	8,309
2	24日	519	0	519		22	8,828
3	24日	826	125	951		40	9,779
合計/平均	197日	8,094	1,685	9,779		50	

※平成23年7月30日開館



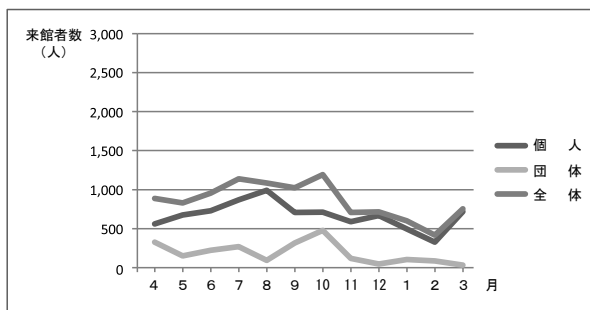
平成24（2012）年度

月	開館 日数	来館者数（人）				1日平均	累 計
		個 人	団 体	全 体			
4	26日	1,025	636	1,661		64	11,440
5	25日	996	235	1,231		49	12,671
6	26日	816	194	1,010		39	13,681
7	26日	743	383	1,126		43	14,807
8	27日	937	270	1,207		45	16,014
9	25日	646	390	1,036		41	17,050
10	26日	527	409	936		36	17,986
11	24日	506	238	744		31	18,730
12	23日	426	43	469		20	19,199
1	24日	401	13	414		17	19,613
2	24日	319	20	339		14	19,952
3	26日	614	129	743		29	20,695
合計/平均	302日	7,956	2,960	10,916		36	



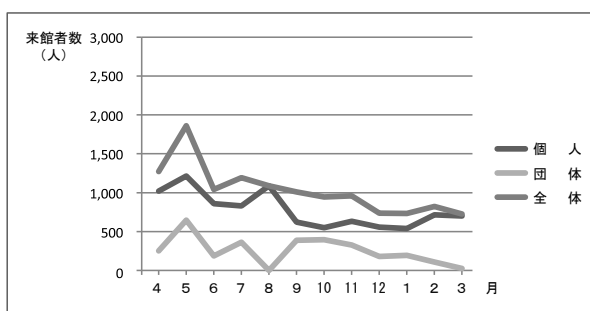
平成25（2013）年度

月	開館 日数	来館者数（人）				1日平均	累 計
		個 人	団 体	全 体			
4	25日	561	326	887		35	21,582
5	27日	676	152	828		31	22,410
6	26日	731	223	954		37	23,364
7	26日	869	270	1,139		44	24,503
8	27日	990	94	1,084		40	25,587
9	25日	706	317	1,023		41	26,610
10	27日	713	478	1,191		44	27,801
11	25日	589	120	709		28	28,510
12	23日	667	47	714		31	29,224
1	24日	495	104	599		25	29,823
2	19日	328	88	416		22	30,239
3	25日	719	34	753		30	30,992
合計/平均	299日	8,044	2,253	10,297		34	



平成26（2014）年度

月	開館 日数	来館者数（人）				1日平均	累 計
		個 人	団 体	全 体			
4	25日	1,020	252	1,272		51	32,264
5	27日	1,215	647	1,862		69	34,126
6	25日	858	185	1,043		42	35,169
7	27日	831	363	1,194		44	36,363
8	27日	1,087	0	1,087		40	37,450
9	24日	620	389	1,009		42	38,459
10	27日	551	395	946		35	39,405
11	26日	633	327	960		37	40,365
12	22日	555	181	736		33	41,101
1	24日	537	194	731		30	41,832
2	23日	713	108	821		36	42,653
3	26日	701	25	726		28	43,379
合計/平均	303日	9,321	3,066	12,387		41	



平成27（2015）年度

月	開館 日数	来館者数（人）				1日平均	累 計
		個 人	団 体	全 体			
4	25日	516	210	726		29	44,105
5	27日	775	384	1,159		43	45,264
6	25日	695	271	966		39	46,230
7	27日	910	102	1,012		37	47,242
8	26日	1,483	54	1,537		59	48,779
9	26日	1,107	473	1,580		61	50,359
10	27日	791	336	1,127		42	51,486
11	25日	692	196	888		36	52,374
12	23日	583	222	805		35	53,179
1	24日	600	193	793		33	53,972
2	23日	552	81	633		28	54,605
3	27日	719	58	777		29	55,382
合計/平均	305日	9,423	2,580	12,003		39	

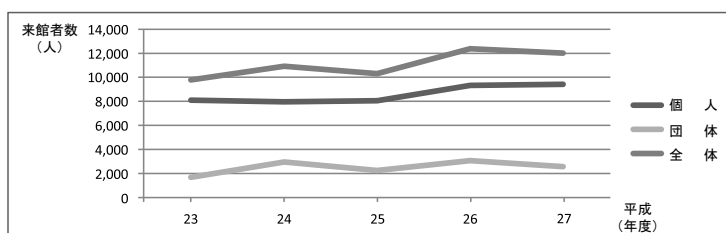
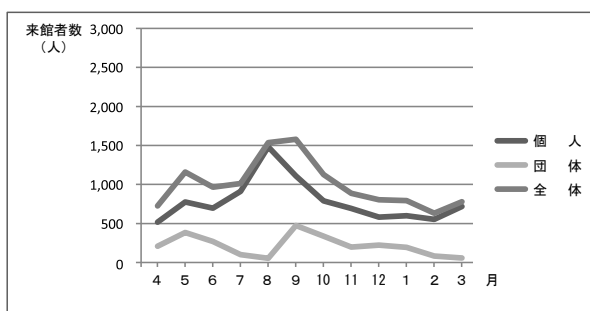


表1 文化財センター来館者数（平成23～27年度）

2 チューブ・デコレーション技法の再現実験 —縄文時代前期終末の土器に見られる環状浮線文の施文法について—

(1) はじめに

平成28年度当センター企画展「水辺に栄えた縄文社会」で、角田山麓に分布する前期終末～中期前葉遺跡群を多角的に紹介した。時間軸の設定と空間的な位置づけを意図した土器の展示コーナーでとりわけ目を引いたのは、前期最終末に現われる環状の粘土紐貼付土器であった(写真2-1)。環状の粘土紐は、太さ1mm足らず、直径4mm前後の繊細かつ端正なリングをなすことから、指先での製作が難しく特殊な施文技法の存在を窺わせた。

前期終末の東日本に分布する「十三菩提式土器」では、ソーメン状の粘土紐を器面に貼り付ける手法が発達する。その中には北海道北部の「オホツク式土器」で指摘される「チューブ・デコレーション技法」と同様の手法で製作された資料が存在する可能性が指摘されてきた〔今村1974など〕。一方、オホツク式土器の粘土紐貼付文については、革などを素材とした袋から絞り出す上記の技法自体に否定的な意見があり〔青柳1996〕、現在に至るまで具体的な再現実験も行われていないようである。

本稿は、この環状の粘土紐貼付文が絞り出しによって製作された可能性が高い、という見通しのもとに行った実験の結果を示し、十三菩提式期に存在したチューブ・デコレーション技法の一端を明らかにしようとするものである。

(2) 縄文時代前期終末の粘土紐貼付土器

前期終末に盛行する粘土紐貼付土器について概観し、本稿で取り上げるこの浮線文の特異性を明確にしておく。

角田山麓では豊原遺跡〔小野・前山1994〕・重稲場遺跡群〔前山1994〕・南赤坂遺跡〔前山2002〕から前期終末「十三菩提式期」のまとまった資料が得られている。遺跡ごとに認める様相の違いから、これらは1～3期に大別でき、さらに2期と3期は古段階・新段階の細分が可能である。細い粘土紐の貼付手法は全期間を通じて盛行する

が、施文法には次のようなバリエーションがみられる(写真1)。

A種は太さ3mm前後の粘土紐を貼り付けた後、その上を同一幅の多裁竹管工具で押引くものである。連続的な刺突を加えながら押引く「結節状浮線文」をA1種、刺突が欠落するものをA2種とする。前者は全期間を通して存在するが、後者は3期に限定される。

B種は、太さ3mmほどの粘土紐を貼り付けた後に両裾を竹管背面でなぞるもので、2期の新段階から3期にかけてみられる手法である。

C種は、太さ3mmほどのソーメン状の粘土紐を貼り付けるだけのものである。2期から3期にかけて多用される手法であるが、2期では波状をなし、3期では短く直線的な鋸歯状文に変化する。軟らかな状態で粘土紐を貼付したためか、表面に押圧痕を残す資料もみられる。

D種は、径4mmほどの円形粘土を貼付した後、棒状工具の先端で刺突を加える資料である。刺突が器面に達することから、軟らかな状態で貼付したことが窺える。南赤坂遺跡の2期古段階資料に1点確認できるのみである。

E種は、本稿で問題とする環状浮線文である。3期古段階の重稲場遺跡群と3期新段階の豊原遺跡で、それぞれ複数資料が出土している。粘土紐の径は1mm前後に過ぎず、A～C種に比べて明らかに繊細である。表面は概ね平滑であるが、粘土紐に沿って連なる数列の平行条線や弱い稜を形成する資料が一部に見られる。剥落箇所には環の痕跡が明瞭に残り、環の一部に破損するものが含まれる点も特徴である(写真2-3・4)。本稿では、様々な名称で呼ばれるこの文様を「環状浮線文」と呼称する。

(3) 環状浮線文の製作実験

前項で指摘した特徴から、環状浮線文は押し出しもしくは、絞り出しによって粘土紐を製作したのち乾燥工程を経て器面に押圧貼付したことを示していると考えた。以下は、そうした認識に基づき行った再現実験である。

A チューブ・デコレーション技法の再現

平成28年2月19日に前山が市販の備前粘土を用いて

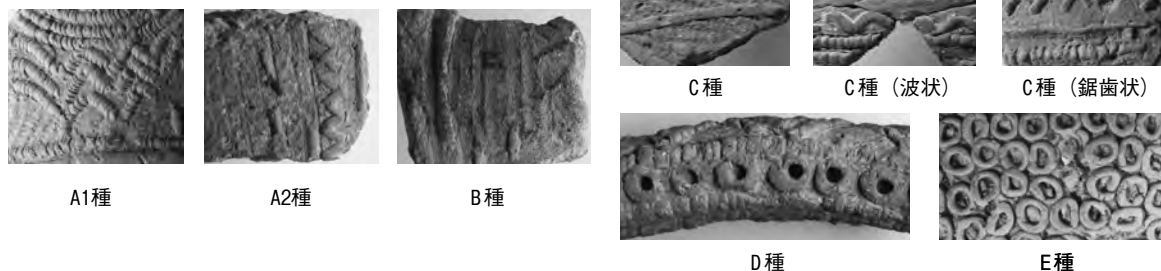


写真1 浮線文の施文バリエーション

再現実験を試みた。最初に着目した素材は、虫喰痕をもつクリの殻である。半割した殻に軟質化させた粘土を詰めて粘土紐の押し出しを試みた。しかし指先での加圧は容易でなく、短く太い直線的な粘土紐がcaろうじて作成できるのみであった。その後、対案として素材をポリ袋に変え、針先で小孔をあけて粘土を押し出したところ、太さ1mmほどの粘土紐が弧を描きながら絞り出されることを知った。しかし端正な環の作成は難しく、紙の上に弧状の粘土紐を付着させた後、ヘラで整形することによって類似品を作成するにとどまった。

B 環状粘土紐作成法の改良（写真4）

前山による実験から、龍田は縄文時代に存在した素材として動物の腸など伸縮性のある絞り袋を想定した。そして、代替品としてゴム手袋の指部分を使用して平成28年3月24日に実験を試みた。先端にディバイダーで孔をあけ、粘土は前述のものを使用した。先のポリ袋同様に先端を下に向けて絞り出すと、細い粘土紐は自然と丸まって環状になった。環が壊れないよう細心の注意を払って平らな場所に置こうと試みるが、なかなか思うようにいかない。ゴム手袋の先端にできた環状粘土紐は柔らかいと形が崩れ、固まると置くときに壊れてしまう。そこで、竹串の上に乗せるように絞り出してみた。すると、いくつもの環状粘土紐が次々と出来上がった。この日の試行錯誤を繰り返した実験は、約6時間を費やして環状粘土紐が20個ほど完成した。実際の縄文土器にみられる環状浮線文に比べると拙いが、これが環状の粘土紐を量産できる方法と考えた。

C 自然素材を用いた実験

上記のような初歩的実験を通じ、軟質素材に入れた粘土を絞り出して環状浮線文を製作できることを確認したが、縄文時代に存在した素材に基づく再現が不可欠な課題となった。以下に前山・龍田が平成28年7月4・6日と11日に行った実験作業を要約する。粘土は3月24日に作成したものを軟化させて使用し、環状粘土紐採取方法は龍田案に従った。

(a) チューブの素材

ポリエステルやゴムのような柔軟かつ十分な強度をもち、土器製作の適季とされる春や秋〔後藤1980〕の使用が可能な自然素材を考えるにあたり、環状浮線文の分布状況（図1）は手がかりとなる。現時点で管見にのぼった出土遺跡は17か所を数える。分布域は、能登半島から山形北部までの日本海沿岸、内陸の長野・山梨、東京湾岸～相模湾岸の神奈川に加え、太平洋の孤島八丈島にまで及ぶ。日本海沿岸・東京湾岸・相模湾岸・八丈島に位置する11遺跡は、海産物の入手が容易な環境にある。い

ずれの遺跡も海産魚類が有力候補になり、富山湾の周辺では海獣（イルカ）の利用も想定できる。ちなみに、角田山麓の豊原遺跡では前期終末の層準から海産魚類（タイ類・サメ・ヒラメ・サバなど）と淡水産魚類（コイ科など）が出土しており、多種にわたる魚が候補となる。一方、長野・山梨や新潟の内陸部では6遺跡で環状浮線文が出土しているが、円形刺突文を口端や体部に施す前期最終末（3期）の土器も分布する。施文部位や形状が環状浮線文と類似する点から、竹管工具を用いた置換文様とみなされる資料である。前期終末の中部日本では遊動的な居住形態が指摘されており〔今村2010〕、環状浮線文土器が海岸部から搬入されたことも考えられる。チューブに適した素材を入手しにくい環境を背景に円形刺突文が現われた可能性や淡水産魚類（コイなど）・鳥類（カモ類の一部やキジなど）を利用した施文法が内陸部にみられる遺跡から想定できる。今回行った実験では、手近に入手できる素材として海産魚類と鳥類の内臓を使用した。前者はスーパーの鮮魚売場で購入した体長31cmのマダイを用い、鳥類は遠藤恭雄（文化財センター）から提供を受けたニワトリで代用した。

(b) 穿孔具（写真3）

チューブに設ける小孔の作成にあたり、黒曜石で製作したドリル状の刺突具、サンショウ・ノバラの棘、ヒシの実を用意した。ドリル状の刺突具は樹枝棘やヒシの実の棘に比べ先端部の鋭さに欠け、ヒシの実の棘は先端に逆棘をもつことから、微細な孔の作出には不向きであった。そこで、穿孔にはサンショウの棘を使用し、粘土紐の絞り出しに適した微細な孔の作出に成功した。なお、ノバラの樹枝棘も類似した形状・硬度を備えることから使用可能な素材となる。

(c) ニワトリの内臓を用いた実験（写真5）

小腸と盲腸の内部を洗浄した後、生（最大径：小腸9mm、盲腸18mm）の状態と1分間の煮沸後（小腸：8mm、盲腸14mm）とで7月4・6日に実験を試みた。小腸は煮沸の有無に関わらず強度が不足しており、使用に耐えなかった。一方、盲腸はある程度の強度をもつことから、煮沸前後の両方で環状粘土紐の絞り出しが可能であった。しかし、生の状態では弾力に欠けるためか環の大きさが実資料の半分ほどの2mm弱にとどまった。煮沸後の盲腸は少し収縮したが、強度を増してゴム状になり、径4mm前後の環状粘土紐8点を絞り出すことができた。

(d) マダイの内臓を用いた実験（写真6）

生（最大径15mm）および30秒煮沸後の腸（最大径10mm）で7月11日に実験を試みた。両者はともに柔軟であるが、生の状態の方が弾力に富んでおり、一端を結んで作成し

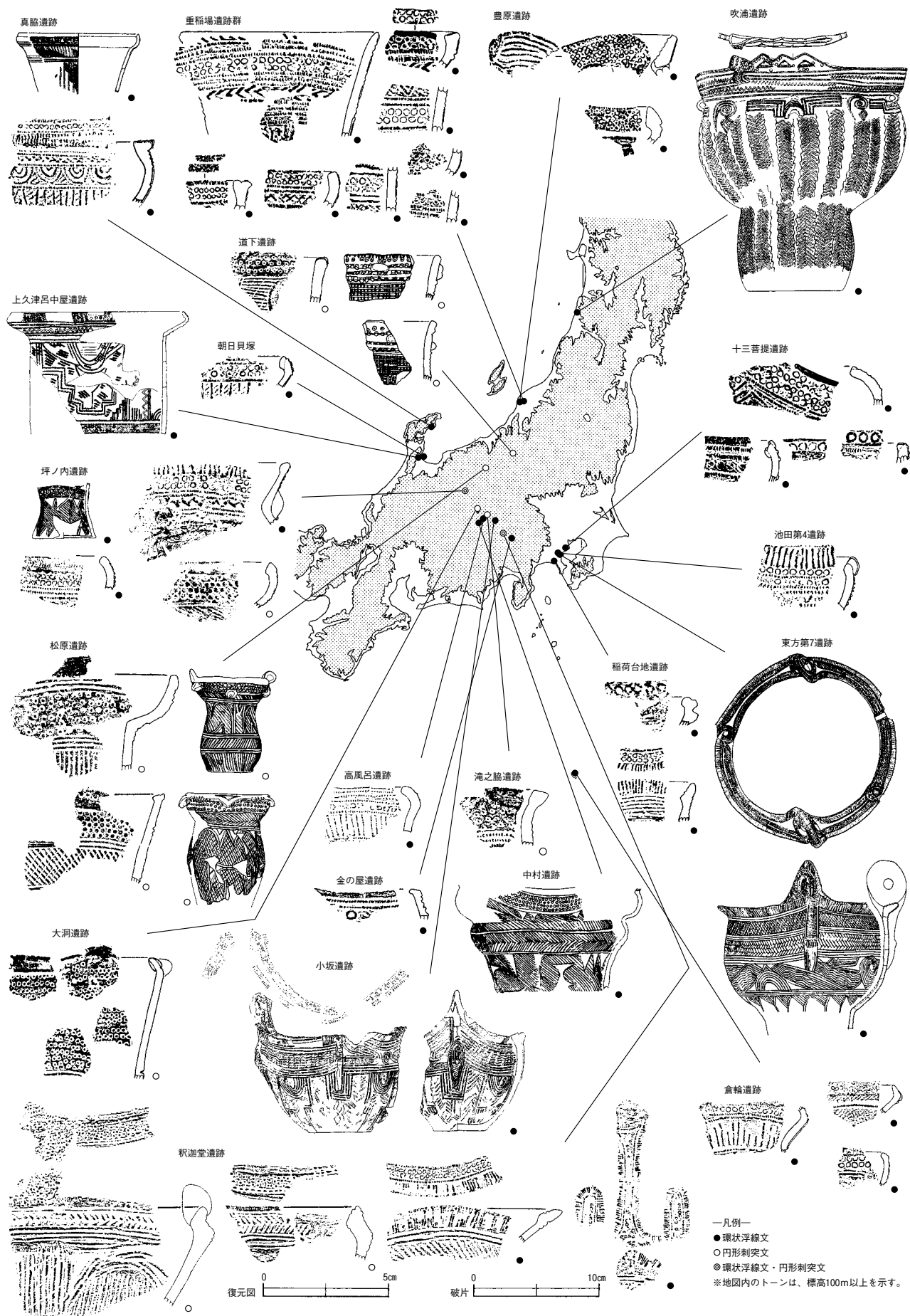


図1 環状浮線文と円形刺突文の分布

た袋状のチューブから径4mm前後の環状粘土紐12点を容易に絞り出すことができた。しかし、加熱後は弾力が低下し、絞り出し時に破損した。

(4) まとめ

5日間にわたる実験を通じ、縄文時代前期終末の「十三菩提式期」にみられる環状浮線文が魚類・鳥類の内臓を用いた「チューブ・デコレーション技法」によって再現できることを確認した。しかし、今回作成した環状の粘土紐は実資料と同一とはいえない。絞り出しの痕跡が出土土器に不明瞭な点はその理由のひとつである(写真2-2～4)。十三菩提式期の土器に貼付される環状浮線の数、1個体あたり数百個にのぼる。自然素材を用いた3日間の試みでは粘土紐の量産に至っておらず、再現実験として十分でない。また、想定されるチューブの素材は多岐にわたる。さらに今回は市販の粘土を使用した。胎土の違いによって表面の状態が変化することも予想され、様々な条件のもとで実験を重ねる必要がある。

本稿作成にあたり、米村衛氏(網走市博物館)からオホーツク式土器、綿田弘実氏(長野県埋蔵文化財センター)から十三菩提式土器の施文法についてご教示いただいた。お礼申し上げます。(前山精明・龍田優子)

追記

本稿の主題と異なるが、環状浮線文の広がりが同時期に製作された「の字状垂飾」〔前山2004〕の分布域と類似することを執筆時に知った。環状浮線文の成立・伝播の過程や文化史的な位置づけなど今後の課題としたい。

引用・参考文献

青柳文吉 1996「オホーツク文化の貼付浮文土器について」『古代文化』第48巻 第5号 古代学協会
伊那市教育委員会 1998『中村遺跡』
今村啓爾 1974『とけっぱら遺跡』登計原遺跡調査会 奥多摩町教育委員会
今村啓爾 2010『土器から見る縄文人の生態』同成社
小野 昭・前山精明 1994「豊原遺跡」『巻町史 資料編1 考古』巻町
金子直行 1999「縄文前期終末土器群の関係性—十三菩提式土器と集合沈線文系土器群の関係を中心として—」『縄文土器論集—縄文セミナー10周年記念論文集—』縄文セミナーの会
菅野和郎 1995「川崎市十三菩提遺跡の土器—川崎市市民ミュージアム所蔵資料の紹介—」『川崎市市民ミュージアム紀要』第8集 川崎市市民ミュージアム
公益財団法人富山県埋蔵文化振興財団ほか 2013『上久津呂中屋遺跡発掘調査報告—能越自動車道建設に伴

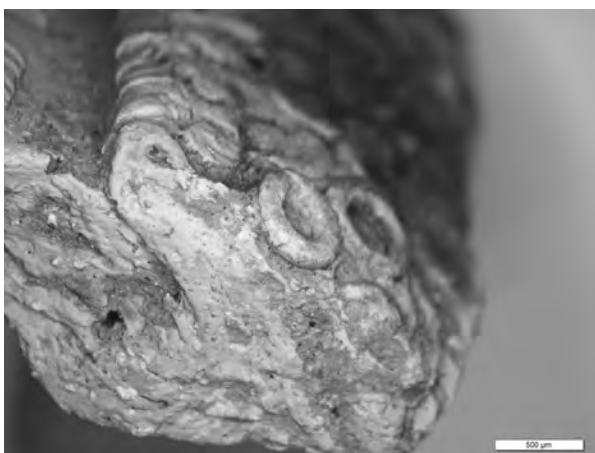
う埋蔵文化財発掘調査報告X—(第一分冊 縄文時代編)』埋蔵文化財発掘調査報告第55集
小島俊彰 1985「朝日貝塚の朝日下層式土器再見」『大境』第9号 富山考古学会
後藤和民 1980『縄文土器を作る』中央公論社
島田哲男 1990『松本市坪ノ内遺跡』松本市文化財調査報告No.80
茅野市教育委員会 1986『高風呂遺跡』
茅野市教育委員会 1993『滝ノ脇遺跡』
津南町教育委員会2000『道下遺跡 縄文時代編—国営農地再編整備事業に伴う遺跡発掘調査報告書—』津南町文化財調査報告第31輯
東京都八丈町教育委員会 1987『東京都八丈町 倉輪遺跡』
戸田哲也 1996『稲荷台地遺跡群発掘調査報告書(C・D地点・F地点・S地点) 藤沢市稲荷台地遺跡群発掘調査団
長野県教育委員会ほか 1987「大洞遺跡」『中央自動車道長野線 埋蔵文化財発掘調査報告書1』(財)長野県埋蔵文化財センター発掘調査報告書1
長野県教育委員会 1998『上信越自動車道埋蔵文化財発掘調査報告書4—長野市内その2— 松原遺跡 縄文時代』(財)長野県埋蔵文化財センター発掘調査報告書27
能登町教育委員会ほか 1986『石川県能登町 真脇遺跡—農村基盤総合整備事業能登東地区真脇工区に係る発掘調査報告書—』
前山精明 1994「重稲場遺跡群」『巻町史 資料編1 考古』巻町
前山精明 2004「『の』字状石製品」『季刊考古学』第89号 雄山閣
前山精明 2002『南赤坂遺跡』巻町教育委員会
山形県教育委員会 1985『吹浦遺跡第2次緊急発掘調査報告書』
山梨県教育委員会 1986『釈迦堂I 山梨県中央自動車道埋蔵文化財包蔵地発掘調査報告書』山梨県埋蔵文化財センター調査報告第17集
山梨県教育委員会 1987『金の尾遺跡・無名墳(きつね塚)』山梨県埋蔵文化財センター調査報告第25集
山梨県教育委員会 1991『小坂遺跡』山梨県埋蔵文化財センター調査報告第63集
横浜市埋蔵文化財調査委員会ほか 1974「池辺第4遺跡」『港北ニュータウン地域内文化財調査報告IV』
横浜市埋蔵文化財調査委員会ほか 1974「東方第7遺跡」『港北ニュータウン地域内文化財調査報告IV』



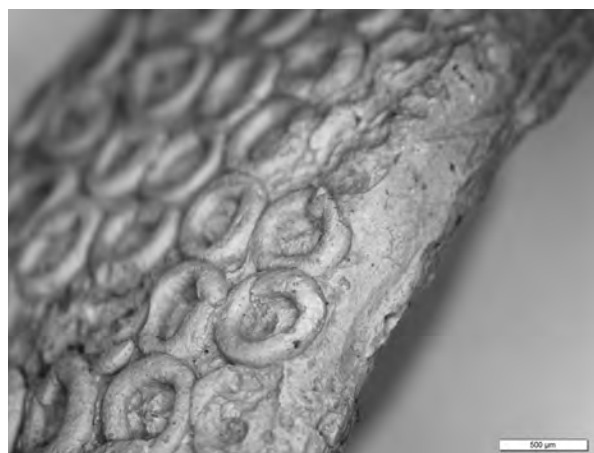
1 環状浮線文土器破片（豊原遺跡出土）



2 土器破片拡大写真①



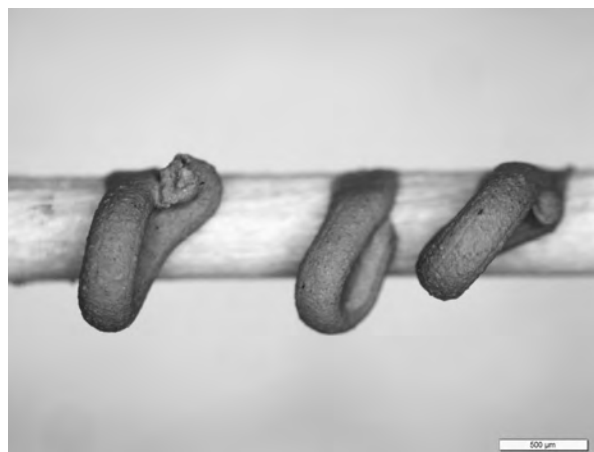
3 土器破片拡大写真②



4 土器破片拡大写真③



5 魚の腸で作成した環状粘土紐拡大写真

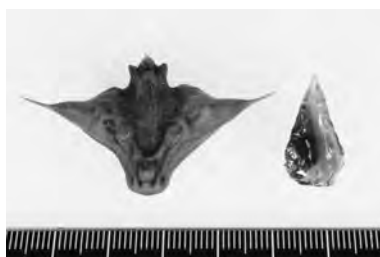


6 鳥の盲腸で作成した環状粘土紐拡大写真

写真2 環状粘土紐



植物の棘（左：サンショウ、右：ノバラ）



左：ヒシの実、右：石



上から見たヒシの実

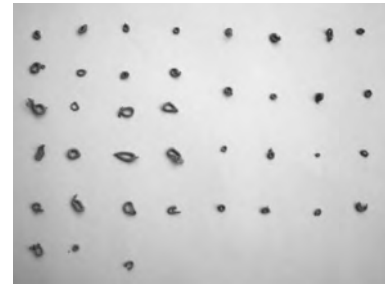
写真3 想定する穿孔素材



環状粘土紐作成

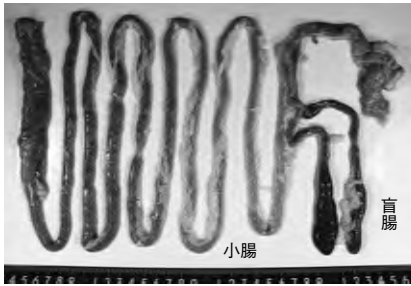


作成した環状粘土紐①



作成した環状粘土紐②

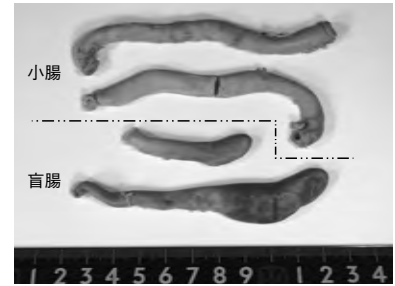
写真4 ゴム手袋を使用した実験



実験前の小腸・盲腸（加熱前）



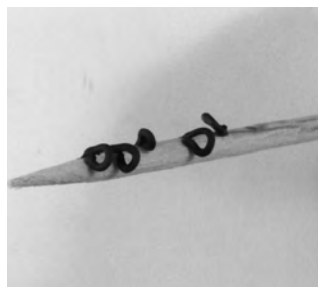
加熱される盲腸



実験前の小腸・盲腸（加熱後）



加熱前の盲腸で作成した環状粘土紐



加熱後の盲腸で作成した環状粘土紐

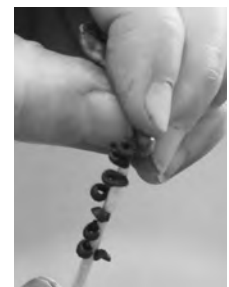
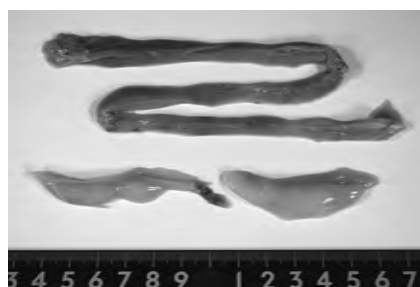


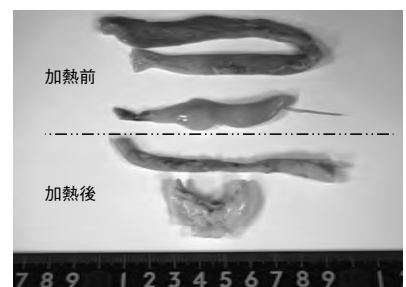
写真5 鳥（ニワトリ）の腸を使用した実験



腸に穿孔中



実験前の腸（加熱前）



実験前の腸（加熱前・加熱後）



絞り出された環状粘土紐



環状粘土紐作成①



環状粘土紐作成②

写真6 魚（マダイ）の腸を使用した実験

3 西蒲区大沢遺跡の縄文時代遺物

(1) はじめに

平成28年度企画展『水辺に栄えた縄文社会』において、角田山麓に形成された前期終末～中期前葉遺跡群をとりあげた。日本海の「ランドマーク」角田山にちなんだ遺跡群の特異性に焦点をあてたものである。そのなかで中期前葉後半段階の中核的集落として大沢遺跡を紹介したが、展示遺物の一部に種々の理由で実測図が提示されていないものや未報告資料があった。本稿ではこれを示し、本遺跡に備わる特性を考える一助としたい。

(2) 大沢遺跡の概要

大沢遺跡は、越後平野の西縁を日本海に接して連なる山地帯の北端「角田山」の北東麓に位置する。遺跡は昭和20年代に上原甲子郎氏によって発見された〔上原1956〕。遺跡の実態については山林に覆われることから永らく不明であったが、1971年に行われた柿畑の造成に際し多量の遺物が出土したことからおよその範囲が判明した。造成直後に行われた巻史学会の踏査によれば、遺物は「大沢」・「ワゴ谷」・「明後沢」に開析された二つの尾根上の東西450m・南北300mあまりに分布し、その状況から北部尾根高域部のA地区、南部尾根低域部のB地区、北部尾根低域部のC地区に区分された。

1979年～82年には、B地区東方の尾根先端部（B'地区）を中心とした発掘調査が新潟大学考古学研究室によって行われた。弥生時代後期の高地性集落の把握に主眼を置いた学術調査であったが、B地区に形成された縄文時代の捨場の一角にも小規模なトレンチを設定し、中期前葉から中葉の遺物が多数出土した〔新潟大学考古学研究室1981〕。1989年には、A地区で計画される農道舗装工事に伴う小規模な発掘調査（100㎡）を巻町教育委員会が実施し、中期前葉土器群の編年や剥片石器の石材組成、生業復元などに関する良好な情報がえられた〔巻町教育委員会1990〕。大沢遺跡でこれまで行われた発掘調査は広大な遺跡のごく一部にすぎず、全体像は不明と言わざるをえないが、これまでえられた知見を総合すると、前期終末～中期中葉の遺構や包含層が良好に遺存しており、A～C地区の捨場に対応する形で中規模集落が形成された可能性が高いことや、黒曜石の流通拠点としてA地区が機能したことが明らかになっている。

(3) 前期終末～中期中葉の土器と土製品

資料の記述に先だち、本遺跡で製作されたと考えられる土器および土製品における含有物の特徴を記しておく。角田山麓北東台地は、山腹から供給された土石流堆積層を基盤とし、その含有礫や開析谷の沢砂は安山岩・

玄武岩などの角礫や破碎粒子が主体を占める。そのため、本遺跡で製作された土器や土製品は破碎岩石を何らかの形で含有する。これに加えて、搬入花崗岩を母材とした石英の破碎粒子を混和材として用いる個体が半数弱を占める点も特徴である。

前期終末の土器 1は1989年の発掘調査にあたり1号住居床面から出土した円筒下層d式系土器で、本遺跡の成立段階にあたる主要資料の一つである。『巻町史』〔巻町1994〕324頁の土器観察表で2号住居出土と誤記されたためここに訂正するとともに、これまで提示しなかった拓影を示す。

中期前葉の土器 4は1989年調査に際し中期前葉4期の「捨場下層」から出土した。底径4.7cmを測るミニチュア土器の下半部で、円形突起を伴う横位竹管平行沈線によって下半部文様帯と口縁下の無文帯に分けられる。竹管文の幅は4mmで、この時期としては細身の工具を使用する。下半部文様帯には縦位集合沈線を施し、爪形連続刺突を加えた平行沈線を等間隔に配す。底面には中期前葉土器に稀な木葉痕（広葉樹）が観察できる。器壁内には微細な破碎石英を多量に含む。磨耗度の高いチャート粒子を伴うことから、搬入品の可能性が高い資料である。

5は1989年調査地に接した農道の法面から八木静江氏が1992年に採集した資料である。巻町教育委員会が寄贈をうけ、現在当センター所蔵品となっている。発掘調査時の層位と対比すれば、捨場上層（中期前葉5期）に包含されていたものとみられる。本例は外傾器形をなした深鉢の上半部文様帯から下半部縄文帯にかけての体部資料で、現存部最大径35.5cmを測る比較的大形の土器である。器面には幅7mmの竹管工具による平行沈線を2～3条一単位で施し、縦位沈線によって上半部を4分割、下半部を8分割する。下部沈線の上端には隆帯を伴う渦状文様を配す。多段に区画された上半部には、竹管工具の先端刺突と縦位沈線を複合させた「蓮華文」を無文帯を挟んで2段にわたって充填する。下半部に施す縄文は、横位回転による単節LRである。破碎石英とともに磨耗した岩石粒子を多く含むことから、搬入品とみられる。

3は柿畑造成時に巻史学会が採集した当センター所蔵品。出土地区は明らかでない。外反する深鉢の口縁部破片で、端部に二つの山形小突起を付す。幅9mmの竹管平行沈線で横位に区画し、上段区画内に単節縄文LRと縦位沈線を施す。下段の無文帯以下には緩やかにカーブした隆帯を縦に貼付し、連続爪形文を加えている。泥岩とみられる軟質岩石の磨耗・破碎粒子を多量に含み、本

遺跡の中では異質な胎土である。

中期中葉の土器 2は口縁部が扇形をなした円筒上層c式系土器。柿畑造成時に巻史学会が採集した当センター所蔵品である。採集地区は明らかでない。口縁部が外反し、著しく肥厚した端部が左上に残る。口端と器表に太さ5～6mmの粘土紐を貼付し、幅4mm台の刺突列を粘土紐に沿って施す。粗大な破碎石英や磨耗岩石とともに微細粒子を多量に含み、搬入品とみなされる。

土 笛 「ワゴ谷」に接したC地区から川村安蔵氏が1994年に採集したもので、現在巻郷土資料館に展示されている。採集地は捨場の一部が削平された路頭下に位置する。中期前葉後半段階を中心とする多量の土器が同一地点から採集されていることから〔新潟大学考古学研究部1984〕、これと同時期の製品と考えられる。本例は上端が欠損するがそれ以下が完存し、最大径7.1cm・現存高7.2cmを測る。製作法としては、球状をなした粘土塊の内部を1cm弱の均一な厚さで削り抜き、上部に粘土を接着するために小孔を穿つ。上端の欠損は、「ソケット」から剥落したものである。全体の形状・サイズは手のひらで保持しやすく作出される。底面には、直立を意図して最大幅1.4cmの窪みを設けている。器面上半は被熱によって剥落するが、放射状をなした入念な整形痕が下半部に観察できる。側面上部に設けた孔は縦1.6cm・横2.2cm。横長の楕円形をなしており、角度を変えながら息を吹き込むと、1オクターブ以上の音色を奏でることができる。石英・チャート・土器片などの破碎粒子や角閃石・雲母・海綿骨針を含み、搬入品と考えられる。

(4) まとめ

大沢遺跡は、角田山麓縄文時代遺跡群の中で日本海に最も近く、本稿で示した遺物の中には日本海沿岸地域との活発な交流を示す資料がみられる。1の円筒下層d式系土器は、北海道南部から東北北部に中心をもつ。新潟県内では角田山麓の重稲場遺跡群・豊原遺跡〔巻町1994〕などでも類例が出しているが、本例は最も変形度が少ない資料にあたる。本遺跡では、後続の円筒上層b式や2に示す円筒上層c式系土器も出土しており、長期にわたる北方地域との交流を伝える稀な事例となる。角田山麓は日本海沿岸部で長野県産黒曜石が多量に出土する最北の地と位置づけられる〔大工原2002〕。青森県三内丸山遺跡では長野県産石材が黒曜石全体の3%を占めており〔藁科2005〕、その供給に本遺跡居住集団が関与した可能性がある。6の蓮華文施文土器は、北陸の新崎Ⅱ式段階を特徴づけるものである。類似土器は柏崎平野以南の海岸部を中心に分布するが〔寺崎2009〕、角田山麓では本遺跡にのみ高い割合で存在する。大沢遺跡では中期

前葉1期の土器にも同様の現象が確認でき、海路によって北陸への往来が行われたことをうかがわせる。近隣の豊原遺跡で出土した黒曜石は、本遺跡から供給された可能性が高い。その中に含まれる隠岐ノ島産石材〔金山^{ほか}1995〕は、北陸集団との接触をつうじ入手したことも考えられる。4は佐渡小木半島の長者ヶ平遺跡でまとまった類例が出土している〔小木町教育委員会1983〕。本遺跡で利用される石器石材の中には、佐渡産とみられる鉄石英・玉髓や黒曜石が存在する。その一方で、前期終末～中期前葉の佐渡には長野県産黒曜石が流通している〔藁科・東村1988〕。当地は越後の中で佐渡との最短地点に位置し、越佐海峡を渡る物流の拠点をなしたことを物語る。特殊な土器や土製品も遺跡の性格に関わる遺物と言える。4は中期前葉としては稀有な有文ミニチュア土器である。本遺跡A地区では100㎡たらずの発掘区から30点もの土偶が出土しており、越後平野周辺での多出例の一つとなる〔新潟県立歴史博物館2011〕。土笛は長岡市山下遺跡出土の球状土製品〔中村1966〕と酷似する。信濃川中流域との緊密な社会関係を示す搬入品と考えられる。

(前山精明)

引用・参考文献

- 上原甲子郎 1956 「弥彦角田山周辺古文化遺跡概観」『弥彦・角田山周辺総合調査報告書』新潟県
小木町教育委員会 1983 『長者ヶ平』
金山喜昭・鈴木正男・前山精明 1995 「縄文時代の日本海沿岸部における黒曜石の交流」『日本考古学協会第61回総会研究発表要旨』日本考古学協会
大工原豊 2002 「黒曜石の流通をめぐる社会」『縄文社会論(上)』同成社
寺崎裕助 2009 「新潟県における新崎式系土器」『新潟県の考古学Ⅱ』新潟県考古学会
中村孝三郎 1966 『先史時代と長岡の遺跡』長岡市
新潟県立歴史博物館 2011 『にいがたの土偶』
新潟大学考古学研究室 1981 『大沢遺跡 B・B地区の調査概報』
新潟大学考古学研究部 1986 「角田山東麓および佐潟周辺の遺跡調査報告Ⅱ」『FIELD NOTE』第4号
巻町教育委員会 1990 『大沢遺跡』
巻町 1994 『巻町史 資料編1 考古』
藁科哲男・東村武信 1988 「佐渡島内遺跡出土の黒曜石遺物の石材産地同定」『佐渡考古歴史学会報』第12号 佐渡考古歴史学会
藁科哲男 2005 「三内丸山遺跡出土の黒曜石製石器・剥片の原産地分析」『特別史跡三内丸山遺跡年報』8 青森県教育委員会

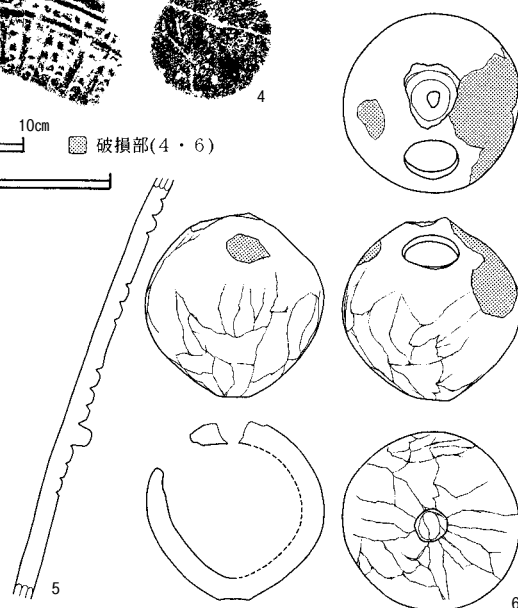
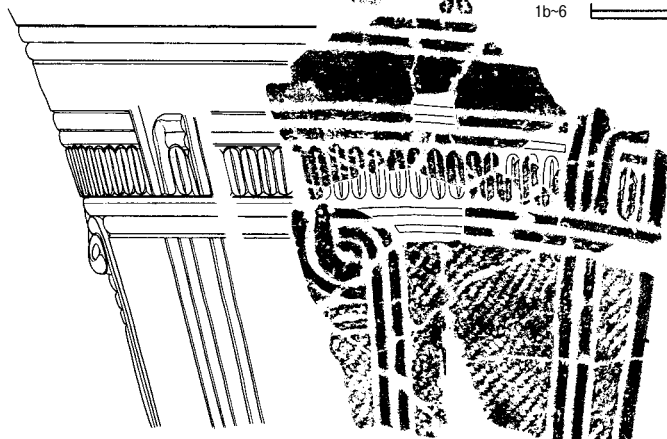
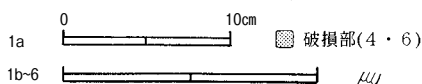
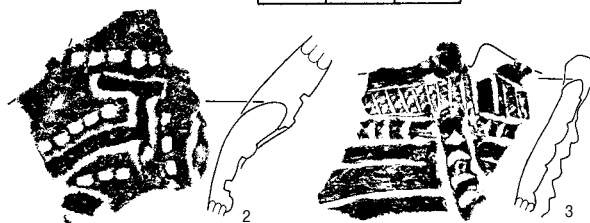
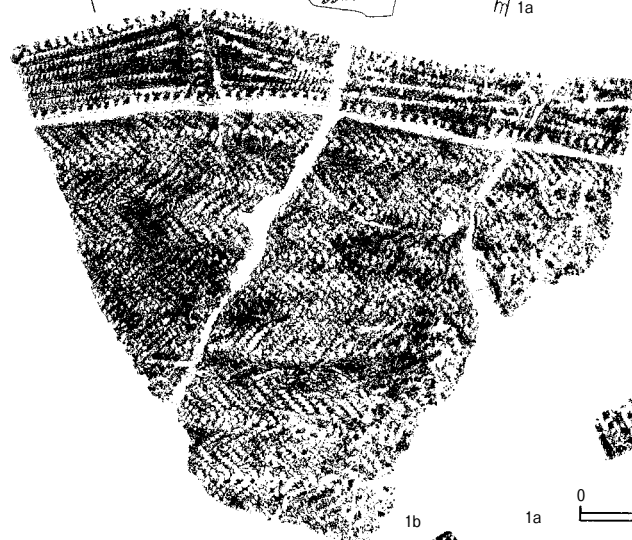
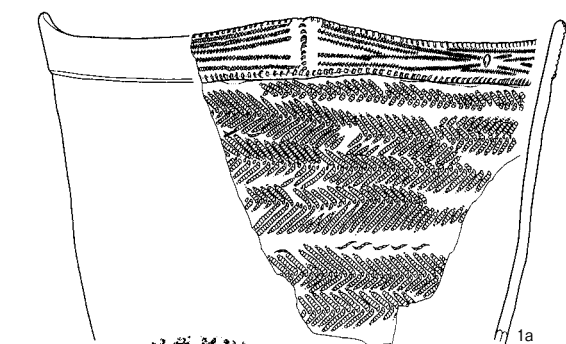
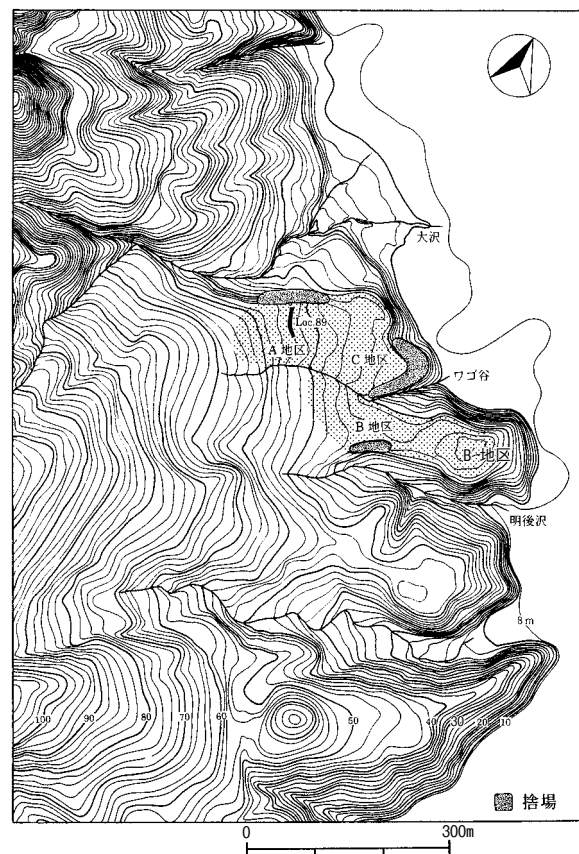
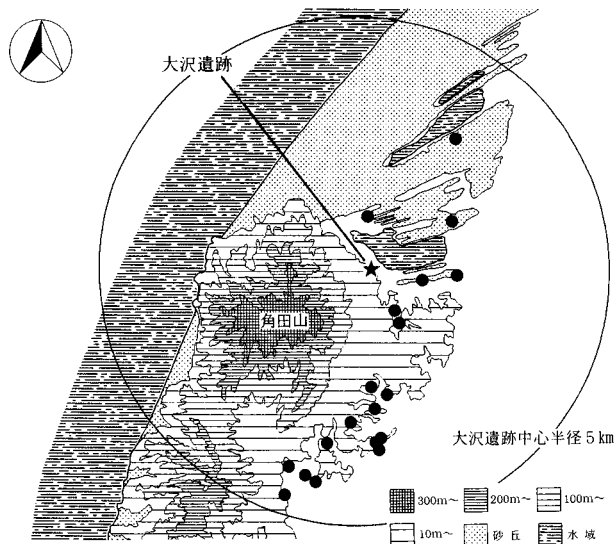


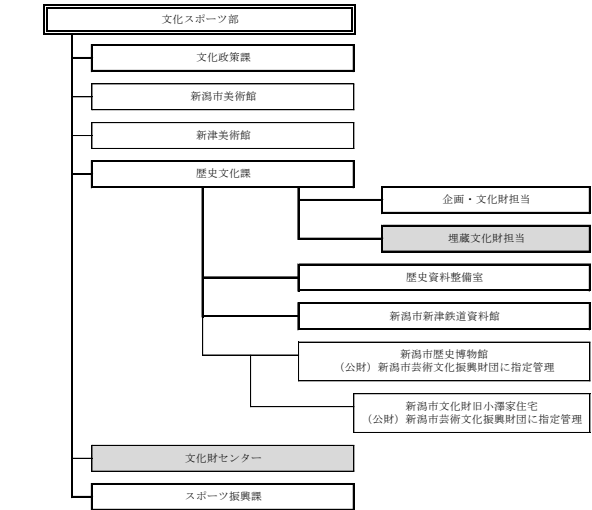
図1 大沢遺跡周辺の地形と縄文時代の遺物（左上のドットは前期終末～中期前葉の遺跡）

引用・参考文献

- 相澤裕子 2015 「Ⅱ 開発事前審査 2 平成25年度の事前審査に係る試掘・確認調査の概要 (2) 下郷南遺跡 第1・2次調査 (2013106・2013152)」『新潟市文化財センター年報-平成25(2013)年度版-』第2号 新潟市文化財センター
- 相田泰臣 2016 「Ⅳ 史跡古津八幡山遺跡歴史の広場 3 古津八幡山古墳復元整備の概要」『新潟市文化財センター年報-平成26(2014)年度版-』第3号 新潟市文化財センター
- 相田泰臣・渡邊朋和^{ほか} 2015 『国史跡 古津八幡山遺跡 保存整備事業報告書2-1600年の時を越え よみがえる蒲原の王墓-』新潟市教育委員会
- 今井さやか 2014 「Ⅲ 文化財センター事業 8 保存処理」『新潟市文化財センター年報-平成23(2011)年度・平成24(2012)年度版-』第1号 新潟市文化財センター
- 上野一久・春日真実 1997 『横雲バイパス関係発掘調査報告書 上郷遺跡Ⅱ』新潟県埋蔵文化財調査報告書第87集 新潟県教育委員会・(財)新潟県埋蔵文化財調査事業団
- 潮田憲幸 2014 『細池寺道上遺跡Ⅱ 第25次調査-県営ほ場整備事業(担い手育成型)両新地区に伴う第11次発掘調査報告書-』新潟市教育委員会
- 遠藤恭雄・脇本博康^{ほか} 2016 『島瀬瀬遺跡 第3次調査-県営ほ場整備事業(経営体育成基盤整備型)巻東町地区に伴う第3次発掘調査報告書-』新潟市教育委員会
- 春日真実 2014 「古代遺跡の動態-西蒲原地域を事例として-」『郷土史燕』第7号 燕市教育委員会・燕市郷土史研究会連合会
- 金田拓也・早田 勉 2017 『舟戸遺跡Ⅱ 第25次調査 宅地造成工事に伴う舟戸遺跡第2次発掘調査報告書』新潟市教育委員会
- 川上貞雄 1993 『山ん家遺跡 緊急発掘調査報告書』横越村文化財調査報告② 横越村教育委員会
- 小村 弼・中村義隆^{ほか} 1990 『新潟市史』資料編2 近世Ⅰ 新潟市
- 滝沢規朗 2013 「阿賀北における弥生時代後期の北陸系土器について」『三面川流域の考古学』第11号 奥三面を考える会
- 龍田優子・長澤展生^{ほか} 2015 『下新田遺跡 第6・8・9次調査-県営ほ場整備事業(経営体育成基盤整備型)道上地区に伴う第3・5・6次発掘調査報告書-』新潟市教育委員会
- 立木宏明・相澤(高野)裕子^{ほか} 2014 『細池寺道上遺跡Ⅲ 第26次調査-県営ほ場整備事業(担い手育成型)両新地区に伴う第12次発掘調査報告書-』新潟市教育委員会
- 立木宏明・奈良佳子^{ほか} 2017 『細池寺道上遺跡Ⅵ 第44次調査-県営ほ場整備事業(担い手育成型)両新地区に伴う第19次発掘調査報告書-』新潟市教育委員会
- 立木宏明・細井佳浩^{ほか} 2015 『細池寺道上遺跡Ⅴ 第32・38・41次調査 西江浦遺跡 第6次調査-県営ほ場整備事業(担い手育成型)両新地区に伴う細池寺道上遺跡第15・17・18次 西江浦遺跡第4次発掘調査報告書-』新潟市教育委員会
- 橋本博文・平形杏里^{ほか} 2016 「新潟県新潟市牡丹山諏訪神社古墳第2次発掘調査報告」『新潟大学考古学研究室調査研究報告』第16集 新潟大学人文学部
- 廣野耕造 2014 「Ⅱ 開発事前審査」『新潟市文化財センター年報-平成23(2011)年度・平成24(2012)年度版-』第1号 新潟市文化財センター
- 福田秀生 2011 「第3章 まとめ 第1節 弥生時代の遺物について」『会津縦貫北道路遺跡発掘調査報告10 桜町遺跡(2次)』福島県文化財調査報告書第474集 福島県教育委員会・財団法人福島県文化振興事業団・国土交通省東北地方整備局郡山国道事務所
- 前山精明 2014 「Ⅲ 文化財センターの事業 4 平成24年度の本発掘調査・工事立会 (6) 細池寺道上遺跡第38次調査(2012006)」『新潟市文化財センター年報-平成23(2011)年度・平成24(2012)年度版-』第1号 新潟市文化財センター
- 渡邊朋和・八藤後智人^{ほか} 2014 『新潟市文化財センター年報-平成23(2011)年度・平成24(2012)年度版-』第1号 新潟市文化財センター
- 渡邊朋和 2014a 「Ⅰ 新潟市の埋蔵文化財保護行政について」『新潟市文化財センター年報-平成23(2011)年度・平成24(2012)年度版-』第1号 新潟市文化財センター
- 渡邊朋和 2014b 「Ⅲ 文化財センターの事業 6 資料の収蔵・保管」『新潟市文化財センター年報-平成23(2011)年度・平成24(2012)年度版-』第1号 新潟市文化財センター
- 渡邊朋和 2014c 「Ⅴ 史跡古津八幡山遺跡歴史の広場 1 史跡古津八幡山遺跡保存活用事業の概要」『新潟市文化財センター年報-平成23(2011)年度・平成24(2012)年度版-』第1号 新潟市文化財センター

平成27年度刊行発掘調査・整備事業報告書一覧

書 名	副書名	発行年月日	執筆者
中谷内遺跡Ⅳ 第12・15・16次調査 内野遺跡Ⅱ 第8・9次調査	県営ほ場整備事業（担い手育成型）満日地区に伴う 中谷内遺跡第3・5・6次、内野遺跡第3・4次発掘調査報告書	平成27年9月30日	遠藤恭雄・笹澤正史ほか
細池寺道上遺跡Ⅴ 第32・38・41次調査 西江浦遺跡 第6次調査	県営ほ場整備事業（担い手育成型）両新地区に伴う 細池寺道上遺跡第15・17・18次 西江浦遺跡第4次発掘調査報告書	平成27年9月30日	立木宏明・細井佳浩ほか
峰岡上町遺跡 第3次調査	国道460号線改良工事に伴う峰岡上町遺跡第3次発掘調査報告書	平成27年12月25日	前山精明・斎藤崇人ほか
下新田遺跡 第6・8・9次調査	県営ほ場整備事業（経営体育成基盤整備型） 道上地区に伴う第3・5・6次発掘調査報告書	平成27年12月25日	龍田優子・長澤展生ほか
沖ノ羽遺跡Ⅵ 第19・22・24次調査	県営ほ場整備事業（担い手育成型） 満日地区に伴う沖ノ羽遺跡第12・15・17次発掘調査報告書	平成28年2月12日	遠藤恭雄・澤野慶子ほか



※一部省略

平成27年度文化スポーツ部の組織機構図

平成27年度文化財センター・歴史文化課埋蔵文化財担当職員名簿

文化財センター		
所長	中野 俊一	統 括
所長補佐	福地 康郎	事 務
所長補佐（学芸員）	渡邊 朋和	埋蔵文化財
主任	本間 敏則	事 務
主任（学芸員）	遠藤 恭雄	埋蔵文化財
主査（学芸員）	立木 宏明	埋蔵文化財
主査	上田 俊哉	事 務
主査（文化財専門員）	今井 さやか	埋蔵文化財
主査（学芸員）	相田 泰臣	埋蔵文化財
主査（文化財専門員）	龍田 優子	埋蔵文化財
主査（文化財専門員）	相澤 裕子	埋蔵文化財
主事（学芸員）	前山 精明	埋蔵文化財
吏員（文化財専門員）	金田 拓也	埋蔵文化財
非常勤嘱託	土佐 夕美子	事 務
非常勤嘱託	宮下 佐貴子	弥生の丘展示館
非常勤嘱託	酒井 和男	民俗文化財
非常勤嘱託	澤野 慶子	埋蔵文化財
非常勤嘱託	八藤後 智人	埋蔵文化財
非常勤嘱託	磯部 保衛	弥生の丘展示館
非常勤嘱託	奈良 佳子	埋蔵文化財
主査（学芸員）	潮田 憲幸（宮城県へ派遣）	埋蔵文化財
歴史文化課埋蔵文化財担当		
主幹（文化財専門員）	廣野 耕造	埋蔵文化財
主査（文化財専門員）	諫山 えりか	埋蔵文化財
主査（文化財専門員）	朝岡 政康	埋蔵文化財
非常勤嘱託	新井 順	埋蔵文化財

新潟市文化財センター年報 第4号
—平成27（2015）年度版—

2017年3月29日印刷・発行

編集・発行 新潟市文化財センター
〒950-1122 新潟市西区木場2748番地1
電話 025-378-0480

印刷 株式会社ウィザップ
〒950-0963 新潟市中央区南出来島2丁目1-25